

2022年度

令和4年度

YEAR BOOK

年報

OSAKA HABIKINO MEDICAL CENTER
大阪はびきの医療センター

大阪はびきの医療センター

理念

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

基本方針

- ・あらゆる呼吸器疾患に対し、常に最高水準の医療を提供します。
- ・結核根絶に向けて全人的な医療を提供します。
- ・アレルギー疾患に対し、最新の知見を取り入れ、最適な医療を提供します。
- ・安心で頼りがいのある、府民と地域のための医療機関を目指します。
- ・誠意と温かみのある、やさしい看護を実践します。

ごあいさつ

大阪はびきの医療センター 院長 山口 誓司

当センター院長の山口でございます。日頃より当センターの運営にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。当センターは、「地域に信頼され、地域になくてはならない病院」として、南河内地域の医療ニーズに応える総合的な医療の拠点病院として、さらに呼吸器、肺がん、アレルギー、感染症等の専門病院としての取組みを進めております。

当センターは大阪府立結核療養所羽曳野病院として昭和27年に開院し、その後大阪府立羽曳野病院、さらに大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターへと名称を変更し、平成29年に現在の大阪はびきの医療センターへと改称しました。その間、結核はもとより難治性の呼吸器疾患とアレルギー疾患の専門病院として高度専門医療に対応してまいりました。平成22年には大阪府がん診療拠点病院に、平成30年には大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定されています。令和3年には大阪府より地域医療支援病院の承認を受け、南河内地域の基幹病院としての機能を提供すべく、院内整備を進めております。

令和5年5月に新病院が開院して、高度専門医療を提供できる体制が整いました。呼吸器・アレルギー・感染症などの専門医療の強みを活かしつつ、地域の中核病院として、ロボット支援手術システムやハイブリッド手術室など最新鋭の医療機器を整備し、急性期医療やがん診療などの機能強化を図るとともに、患者さんの利便性の向上や療養環境の充実も図っております。

今後も地域の先生方の御指導をいただきながら地域医療支援病院としての機能充実を図りつつ、南河内地域の医療の発展に寄与していきたいと考えております。今後とも御支援の程宜しくお願い申し上げます。本年報は、令和4年度の活動を報告するものです。関係者の皆様方にはご一読頂き、是非とも、ご助言を賜り、大阪はびきの医療センターの今後の発展にご指導いただきますようお願い申し上げます。

目 次

第 1 概要

1.	病院の概要	3
2.	沿革	4
3.	主な施設及び医療機器	7
4.	組織及び人事	10
5.	運営会議、幹部会、各種委員会	16
6.	経営状況（決算）	24

第 2 業務の状況

1.	令和4年度 地域医療支援病院 業務実績	30
2.	医事統計	31
3.	診療情報管理室統計	36

第 3 各部局の活動状況

1.	診療各科	50
2.	薬局	128
3.	看護部	135
4.	情報企画室	154
5.	診療情報管理室	155
6.	栄養管理室	156
7.	患者総合支援センター	158
8.	医療安全管理室	161
9.	感染対策室	166

第 1 概要

第1 概要

1. 病院の概要

名 称 大阪はびきの医療センター
 所 在 地 大阪府羽曳野市はびきの 3 丁目 7 番 1 号
 〒583-8588 電話 072-957-2121 (代表)
 設立団体 地方独立行政法人大阪府立病院機構
 管理者 院長 山口 誓司
 病床数 許可病床 結核病床 60 床 一般病床 360 床 感染症病床 6 床
 稼動病床 結核病床 60 床 一般病床 360 床 感染症病床 6 床
 (令和4年4月1日現在)
 主な医療機器 CT (マルチスライス CT 2台) MRI (1.5T 1台) RI アンギオ リニアック 他

- | | |
|--------|---|
| 病院機能指定 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院 ・大阪府アレルギー疾患医療拠点病院 ・結核指定医療機関 ・感染症法に基づく入院勧告患者受入病院 ・二次救急告示医療機関 ・特定診療災害医療センター ・労災保険指定医療機関 ・大阪府がん診療拠点病院（肺がん） ・第二種感染症指定医療機関 ・難治性多剤耐性結核の広域拠点病院 ・エイズ治療拠点病院 ・大阪府小児地域医療センター ・協力型臨床研修病院 ・日本医療機能評価機構認定病院 |
|--------|---|

(3rdG:Ver.2.0)

- | | |
|------|---|
| 施設認定 | <ul style="list-style-type: none"> WAO center of excellence 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本外科学会外科専門医制度修練施設（指定施設） 日本呼吸器学会内科系外科系指導施設 日本呼吸器学会（呼吸器内科領域専門研修制度）認定施設（基幹施設） 日本呼吸器学会（呼吸器内科領域専門研修制度）認定施設（関連施設） 日本臨床腫瘍学会認定施設（特別連携施設） 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器学会外科系指導施設 日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設（専門研修基幹施設） 日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（皮膚科・小児科・耳鼻咽喉科・アレルギー内科） 日本リウマチ学会教育施設 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 日本小児科学会専門医研修施設 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設 |
|------|---|

日本気管食道学会認定専門医研修施設（咽喉系）
 大阪大学附属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門研究プログラム専門研修連携施設
 日本感染症学会認定研修施設
 日本循環器学会認定専門医研修関連施設
 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本乳癌学会認定施設
 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建エキスパンダー実施施設
 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建インプラント実施施設
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（全部門）
 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設（MRI 安全管理に関する事項）
 日本麻醉科学会麻酔科認定病院
 日本病理学会登録施設
 日本病理学会研修認定施設 B
 日本臨床細胞学会教育研修施設（認定施設・教育研修施設）
 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設（基幹施設）
 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設（基幹施設）
 日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設
 薬学生実務実習受入施設
 認定臨床微生物検査技師研修施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修連携施設
 日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医研修施設
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

2. 沿革

昭和 27 年 12 月 12 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院として開院
昭和 28 年 1 月 10 日	業務開始 病床数 320 床
昭和 29 年 3 月 17 日	増床 病床数 850 床
昭和 32 年 10 月 3 日	小児病棟増床 病床数 1,000 床
昭和 47 年 2 月 14 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院附属高等看護学院が厚生大臣から看護婦養成所として指定
昭和 48 年 8 月 1 日	旧病棟閉鎖、新病棟業務開始
昭和 51 年 4 月 26 日	病院名称を大阪府立羽曳野病院に改称し、事業内容を、結核、アレルギー性疾患、その他これに伴う疾患に関する基幹病院としての医療、調査、研究及び研修に変更
昭和 51 年 5 月 19 日	管理診療棟業務開始
昭和 51 年 6 月 7 日	病床数の変更 結核病床 702 床 一般病床 208 床
昭和 52 年 8 月 1 日	病床数の変更 結核病床 648 床 一般病床 352 床

昭和 61 年 5 月 1 日	病床数の変更 結核病床 432 床 一般病床 568 床
平成 4 年 4 月 1 日	循環器内科設置
平成 6 年 4 月 1 日	内科一般(消化器)設置
平成 8 年 3 月 31 日	大阪府立羽曳野病院附属高等看護学院廃止
平成 10 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 320 床 一般病床 566 床
平成 10 年 6 月 1 日	外来リニューアルオープン
平成 12 年 10 月 28 日	病床数の変更 結核病床 316 床 一般病床 566 床
平成 13 年 2 月 28 日	結核外来棟新築工事竣工
平成 15 年 10 月 1 日	病院名称を、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターに改称
平成 16 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 200 床 一般病床 440 床
平成 17 年 5 月 29 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定
平成 18 年 4 月 1 日	地方独立行政法人大阪府立病院機構設立、事業移行
平成 20 年 3 月 10 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 440 床
平成 20 年 3 月 19 日	臨床研究部、研究棟の改修工事竣工
平成 20 年 3 月 28 日	小児病棟に結核モデル病室を設置
平成 20 年 4 月 1 日	消化器・乳腺外科設置
平成 20 年 7 月 4 日	マンモグラフィーによる乳がん検診の開始
平成 20 年 9 月 1 日	入院結核患者に対する人工透析治療の開始
平成 20 年 10 月 1 日	南河内北部広域小児急病診療事業（松原市、羽曳野市、藤井寺市による小児休日診療所）からの後送患者の受け入れを開始
平成 20 年 10 月 1 日	外来化学療法科設置
平成 21 年 3 月 30 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 412 床
平成 21 年 4 月 1 日	病理診断科、リハビリテーション科、集中治療科を設置
平成 21 年 4 月 1 日	一般病棟入院基本料（7 対 1 看護体制）7 対 1 入院基本料を適用
平成 21 年 7 月 31 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 400 床
平成 22 年 1 月 15 日	発熱外来棟竣工
平成 22 年 2 月 26 日	感染症用陰圧病床改築工事竣工
平成 22 年 4 月 1 日	大阪府がん診療拠点病院（肺がん）に指定
平成 22 年 4 月 1 日	結核内科から感染症内科に名称変更
平成 22 年 7 月 2 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定(V.6)
平成 23 年 1 月 31 日	緩和ケア病棟(4B)改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	12 階トイレ福祉対策改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	陰圧手術室設置工事竣工
平成 23 年 4 月 1 日	緩和ケア科設置 緩和ケア病棟開設（20 床）
平成 23 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 395 床
平成 24 年 3 月 30 日	管理診療棟耐震化工事竣工
平成 25 年 3 月 28 日	病床数の変更（感染症病床 増床）
平成 26 年 3 月 29 日	結核病床 150 床 一般病床 395 床 第二種感染症病床 6 床 第二種感染症病床設置工事竣工

平成26年4月1日 第二種感染症病床（6床）開設

平成26年6月27日 病棟給排水改修（第1期）工事竣工

平成27年7月1日 結核病棟入院基本料 7対1入院基本料を適用
 平成27年3月16日 病床数の変更（結核病床 減床）
 結核病床100床 一般病床395床 第二種感染症病床6床
 平成27年3月24日 病床数の変更（結核病床及び一般病床 減床）
 結核病床68床 一般病床390床 第二種感染症病床6床
 平成28年10月1日 地域包括ケア病棟設置（1病棟）
 平成29年3月1日 病床数の変更（結核病床 減床）
 結核病床60床 一般病床390床 第二種感染症病床6床
 平成29年4月1日 病院名称を大阪はびきの医療センターに改称
 耳鼻咽喉科及び臨床研究センターを設置
 平成30年3月31日 病床数の変更（一般病床 減床）
 結核病床60床 一般病床360床 第二種感染症病床6床
 平成30年6月1日 大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
 令和2年4月1日 泌尿器科設置
 令和2年6月5日 日本医療機能評価機構病院機能評価認定（3rdG:Ver.2.0）
 令和3年3月10日 地域医療支援病院として府の承認（令和3年4月より運用開始）
 令和4年4月1日 整形外科、救急診療科開設

3. 主な施設及び医療機器

(1) 土地・建物

敷地面積 88,470.00 m²

	名 称	敷地面積
A 地 区	管 診・病 棟周辺地区	88,470.00 m ²

建物面積

ア. 建 物 面 積 9,813.594 m²

イ. 延 面 積 44,618.680 m²

名 称	構 造	建築面積	延 面 積
病 棟 部 門	鉄筋コンクリート	m ²	m ²
	地上12階 地下0階	2,079.350	24,822.350
管 理 部 門	地上1階	107.640	107.640
	鉄筋コンクリート	7,626.604	19,688.690
合 計		9,813.594	44,618.680

(2) 主な医療機器

令和4年度に取得した1,000万円以上の医療機器一覧

令和5年3月31日時点

固定資産名	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
手術支援ロボット インテイティブ DaVinci サージカルシステム	2022/12/28	302,100,000	281,960,000
SOMATOM Drive	2023/3/31	202,513,636	202,513,636
MAGNETOM Vida	2023/3/31	179,495,455	179,495,455
血管造影X線診断装置 Azurion M20 FlexArm	2023/3/27	160,280,000	160,280,000
DRシステム AeroDR	2023/3/31	89,850,000	89,850,000
血管造影X線診断装置 Azurion 7 M20	2023/3/20	80,118,000	80,118,000
MAGNETOM avanto fit	2023/3/31	79,495,455	79,495,455
人工関節手術支援ロボット Mako	2022/11/30	63,000,000	57,750,000
電話交換機 一式	2023/3/31	60,500,000	60,500,000
結石破碎装置 モデュリスSLX F2	2023/3/20	57,950,000	57,950,000
シンビアE	2023/3/31	43,495,454	43,495,454
人工心肺装置 HASIII	2023/3/16	40,000,000	40,000,000
手術室用内視鏡システムセット	2023/3/27	37,315,000	37,315,000
デジタルX線透視撮影システム FlexVista	2023/3/20	29,950,000	29,950,000
CT用ワークステーション SYNAPSE VINCENT	2023/3/31	25,000,000	25,000,000
超音波画像診断装置 Vivid E95	2023/3/22	22,500,000	22,500,000
手術室内視鏡システムセット オリンパス	2022/9/26	22,400,000	20,222,223
心外用超音波診断装置 EPIQCvxi	2023/3/23	19,900,000	19,900,000
体外循環装置用遠心ポンプ 駆動装置	2023/3/17	18,412,000	18,412,000
超音波画像診断装置 ARIETTA750	2023/3/22	17,800,000	17,800,000
消化器内視鏡システム 富士フィルムメディカル	2023/3/22	17,300,000	17,300,000
ボーリングラフ RMC-5000M-01	2023/3/31	17,171,600	17,171,600
診断用X線装置RADspeedPro	2023/3/31	17,115,330	17,115,330
診断用X線装置RADspeedPro	2023/3/31	15,367,330	15,367,330
超音波画像診断装置 Aplio i800	2023/3/22	14,090,000	14,090,000
超音波診断装置 Vivid S70N Ultra	2023/3/22	14,035,000	14,035,000
診断用X線装置RADspeedPro	2023/3/31	12,967,340	12,967,340
手術用ナビゲーションシステム 日本トロニック FlexEnt	2023/1/26	12,000,000	11,500,000
MRI用3Dワークステーション ザイオステーション2PLUS	2023/3/31	12,000,000	12,000,000
呼吸機能検査装置CHESTAC	2023/3/24	11,096,000	11,096,000
プロラズマ滅菌システム ステラット 100S	2023/2/22	10,825,000	10,373,959
プロラズマ滅菌システム ステラット 100S	2023/2/22	10,825,000	10,373,959
ジェットウォッシャー S-86682003	2023/3/24	10,800,000	10,800,000
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450

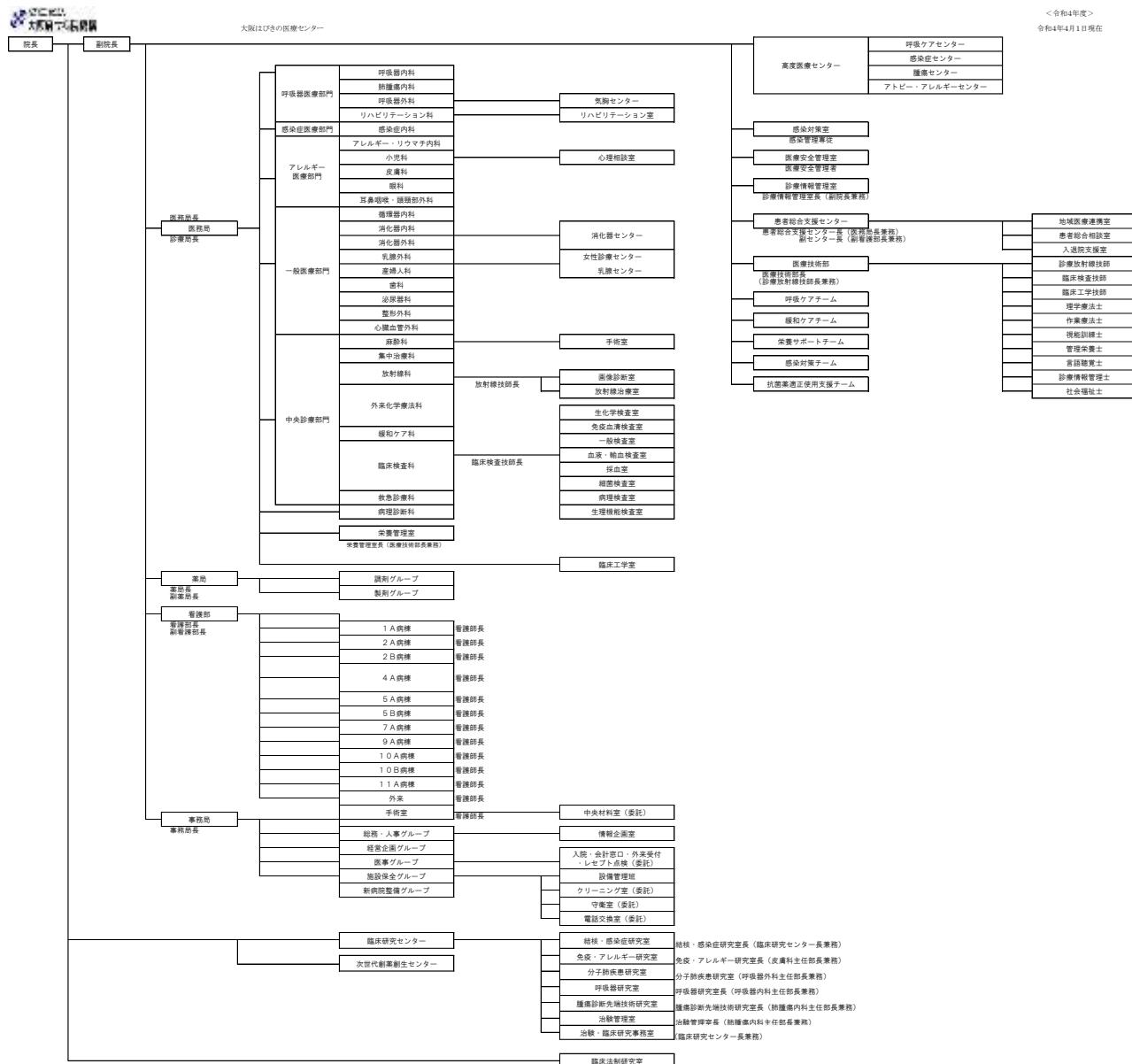
期末帳簿価格が1,000万以上の医療機器

令和5年3月31日時点

資産名称	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
手術支援ロボット インテュイティブ DaVinci サージカルシステム	2022/12/28	302,100,000	281,960,000
SOMATOM Drive	2023/3/31	202,513,636	202,513,636
MAGNETOM Vida	2023/3/31	179,495,455	179,495,455
血管造影X線診断装置 Azurion M20 FlexArm	2023/3/27	160,280,000	160,280,000
DRシステム AeroDR	2023/3/31	89,850,000	89,850,000
血管造影X線診断装置 Azurion 7 M20	2023/3/20	80,118,000	80,118,000
MAGNETOM avanto fit	2023/3/31	79,495,455	79,495,455
電話交換機 一式	2023/3/31	60,500,000	60,500,000
結石破碎装置 モデュリスSLX F2	2023/3/20	57,950,000	57,950,000
人工関節手術支援ロボット Mako	2022/11/30	63,000,000	57,750,000
シンビアE	2023/3/31	43,495,454	43,495,454
人工心肺装置 HASIII	2023/3/16	40,000,000	40,000,000
手術室用内視鏡システムセット	2023/3/27	37,315,000	37,315,000
デジタルX線透視撮影システム FlexVista	2023/3/20	29,950,000	29,950,000
CT用ワームステーション SYNAPSE VINCENT	2023/3/31	25,000,000	25,000,000
超音波画像診断装置 Vivid E95	2023/3/22	22,500,000	22,500,000
手術室内視鏡システムセット オリンパス	2022/9/26	22,400,000	20,222,223
心外用超音波診断装置 EPIQ Cvxi	2023/3/23	19,900,000	19,900,000
体外循環装置用遠心ポンプ 駆動装置	2023/3/17	18,412,000	18,412,000
超音波画像診断装置 ARIETTA750	2023/3/22	17,800,000	17,800,000
消化器内視鏡システム 富士フィルムメディカル	2023/3/22	17,300,000	17,300,000
ボーリングラフ RMC-5000M-01	2023/3/31	17,171,600	17,171,600
診断用X線装置 RADspeedPro	2023/3/31	17,115,330	17,115,330
診断用X線装置 RADspeedPro	2023/3/31	15,367,330	15,367,330
超音波画像診断装置 Aprio i800	2023/3/22	14,090,000	14,090,000
超音波診断装置 Vivid S70N Ultra	2023/3/22	14,035,000	14,035,000
診断用X線装置 RADspeedPro	2023/3/31	12,967,340	12,967,340
MRI用3Dワームステーションザイオステーション2PLUS	2023/3/31	12,000,000	12,000,000
手術用ナビゲーションシステム 日本トロニック FlexEnt	2023/1/26	12,000,000	11,500,000
呼吸機能検査装置 CHESTAC	2023/3/24	11,096,000	11,096,000
ジェットウォッシャー S-86682003	2023/3/24	10,800,000	10,800,000
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450
内視鏡システムセット EPK-i7010	2023/3/17	10,482,450	10,482,450
プロラズマ滅菌システム ステラット 100S	2023/2/22	10,825,000	10,373,959
プロラズマ滅菌システム ステラット 100S	2023/2/22	10,825,000	10,373,959

4. 組織及び人事

(1) 組織表



(2) 令和4(2022)年度職種別人員推移表

(単位:人)

給料表別 職種別 月例	行政職(一)							医務職(一)			医務職(二)										医務職(三)		合計		
	事務員	一般行員	建築工員	ボイラー技術員	設備管理技術員	水道施設士	病棟看護師	心療士	医師	歯科医師	薬剤師	栄養士	診療放射線技師	臨床検査技師	診療情報管理士	電子工学士	視能訓練士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学士	社会福祉士	看護師		
令和4(2022)年度定員	22	2	1	0	2	0	0	0	73	1	14	3	14	24	3	1	2	3	1	1	3	2	2	354	528
令和4(2022). 4. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	395	565
5. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	393	563
6. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	392	562
7. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	3	2	1	2	2	2	386	557
8. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	4	1	1	2	2	2	386	557
9. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	14	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	385	555
10. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	71	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	385	557
11. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	382	555
12. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	383	556
令和5(2023). 1. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	378	551
2. 1	24	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	377	550
3. 1	25	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	378	552
3. 31	25	2	1	0	2	0	0	0	72	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	2	378	552

(3) 主たる役職者

令和5(2023)年3月31日現在

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
院 長	山口 誓司		産婦人科主任部長	赤田 忍	
副院長兼皮膚科主任部長	片岡 葉子		産婦人科副部長	安川 久吉	
副院長	緒方 篤		耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長	(川島佳代子)	医務局長兼務
事務局長	中谷 健志		泌尿器科主任部長	福井 辰成	
医務局長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長	川島 佳代子		整形外科主任部長	塚本 泰徳	
診療局長	-	欠員	整形外科副部長	谷内 孝次	
呼吸器内科主任部長	松岡 洋人		救急診療科	廣田 哲也	
肺腫瘍内科主任部長	鈴木 秀和		歯科主任部長	-	欠員
呼吸器外科主任部長	門田 嘉久		麻酔科主任部長	高内 裕司	
呼吸器外科副部長	北原 直人		麻酔科副部長	播磨 恵	
集中治療科主任部長	柏 康三		放射線科主任部長	竹下 徹	
感染症内科主任部長	永井 崇之		放射線科副部長	堤 真一	
感染症内科副部長	韓 由紀		外来化学療法科主任部長	(鈴木 秀和)	肺腫瘍内科主任部長兼務
アレルギー・リウマチ内科主任部長	源 誠二郎		外来化学療法科副部長	森下 直子	
アレルギー・リウマチ内科部長	松野 治		臨床検査科主任部長	田村 嘉孝	
小児科主任部長	亀田 誠		病理診断科主任部長	-	欠員
小児科部長	吉田 之範		病院診断科部長	上田 佳世	
小児科副部長	高岡 有理		リハビリテーション科主任部長	森下 裕	
皮膚科主任部長	(片岡葉子)	副院長兼務	臨床研究センター長	橋本 章司	
眼科部長	-	欠員	教育研修センター長	江角 章	
循環器内科主任部長	原田 光一郎		次世代創薬創生センター長	松山 晃文	
循環器内科部長	(江角 章)	教育研修センター長	薬局長	金銅 葉子	
循環器内科副部長	原田 博		医療技術部長	別所 右一	
同	井内 敦彦		看護部長	岡田 知子	
消化器内科主任部長	-	欠員	副看護部長	羽澤 三恵子	
消化器内科部長	前山 晋吾		同	豊田 充代	
消化器外科主任部長	宮崎 知		副看護部長兼看護師長	近藤 勝美	
消化器外科部長	池田 公正		同	森本 恭子	
消化器外科副部長	酒田 和也		同	田中 真奈美	
乳腺外科主任部長	安積 達也		医療安全管理責任者	泉 和江	

(4) 医務局等組織一覧表

令和5(2023)年3月31日現在

院長	理事	山口 誠司						現員 4
副院長	部長級	片岡 葉子						
副院長	部長級	諸方 篤						
医務局長	部長級	川島 佳代子						

	主任	部長	部長	副部長	医長	診療主主任	医員	
呼吸器内科	松岡 洋人				馬越 泰生 田村 香菜子		樋口 貴俊 小牟田 清英	5
肺腫瘍内科	鈴木 秀和					佐藤 真吾	柳瀬 隆文 岡部 福子	4
呼吸器外科	門田 嘉久			北原 直人		谷口 聖治	杉浦 裕典 安藤 紘史郎	5
集中治療科	柏 庸三						岡田 英泰	2
感染症内科	永井 崇之			韓 由紀			北島 平太 坂屋 勇希	4
アレルギー・リウマチ内科	源 誠二郎	松野 治				石田 裕		3
小児科	亀田 誠	吉田 之範	高岡 有理	重川 周 深澤 陽平 鈴永 雄希	上野 瑠美			7
皮膚科	(兼務 片岡 葉子)					坂本 幸子	阿古目 純 益田 知可子 木村 優香	4
眼科								
循環器内科	原田 光一郎	(兼務 江角 章)	原田 博 井内 敦彦					3
消化器内科		前山 晋吾						1
消化器外科	宮崎 知	池田 公正	酒田 和也		野間 俊樹 西 秀美			5
乳腺外科	安積 達也							1
産婦人科	赤田 忍		安川 久吉	長安 実加	梶西 実加 中野 和俊			5
耳鼻咽喉・頭頸部外科	(兼務 川島 佳代子)			花田 有紀子	奥野 未佳	河辺 隆誠		3
泌尿器科	福井 辰成				大草 卓也			2
整形外科	塚本 泰徳		谷内 孝次					2
救急診療科	廣田 哲也							1
歯科								
麻酔科	高内 裕司		播磨 恵		安藝 裕子			3
放射線科								
(画像診断室)	竹下 徹					後藤 拓也		
(放射線治療室)				堤 真一				3
外来化学療法科	(兼務 鈴木 秀和)		森下 直子					1
臨床検査科	田村 嘉孝							1
病理診断科		上田 佳世			森 秀夫			2
リハビリテーション科	森下 裕							1
緩和ケア科								
呼吸器内視鏡内科								
臨床研究センター	橋本 章司							1
教育研修センター	江角 章							1
次世代創薬創生センター	松山 晃文							1
	21	5	11	7	13	14	71	

レジデント	山口 敦 (臨床検査科) 山口 智裕 (小児科) 九門 順子 (小児科) 中竹 俊伸 (小児科) 山手 和智 (小児科) 上山 康起 (呼吸器外科) 坂元 優太 (産婦人科)	合計7名
-------	--	------

(5) 看護部組織一覧表

令和4(2022)年4月1日現在

看護部長	岡田 知子
副看護部長	羽澤 三恵子 豊田 充代 森本 恭子 近藤 勝美 田中 真奈美
医療安全管理者	泉 和江

		病床数	看護師定数	看護師長
1A	産婦人科	25	34	中出 亜希代
2A	呼吸器外科 / 産婦人科 消化器外科 / 乳腺外科	44	25	中村 由利子
2B	集中治療科	8	25	福村 恵
4A	呼吸器内科 / 肺腫瘍内科 感染症内科/消化器内科/循環器内科	25	20	(田中 真奈美)
4B	呼吸器内科 / 肺腫瘍内科 消化器外科/乳腺外科/消化器内科	20	20	山本 攝子
5A	呼吸器内科 / 循環器内科 感染症内科	58	37	難波 美華
5B	HCU	8	21	倉田 悅子
7A	小児科/アレルギー・リウマチ内科 耳鼻咽喉・頭頸部外科/皮膚科	44	28	吉田 めぐみ
9A	皮膚科/アレルギー・リウマチ内科 耳鼻咽喉・頭頸部外科	46	21	関田 恵
10A	肺腫瘍内科/耳鼻咽喉・頭頸部外科 産婦人科/アレルギー・リウマチ内科	46	25	井上 理恵
10B	肺腫瘍内科 / 消化器外科 乳腺外科 / 感染症内科	42	25	榎本 かおり
11A	感染症内科	60	37	秦 順子
地域医療連携室				
入退院支援室			6	田中 久美
患者総合支援センター				(近藤 勝美)
外来		17		荻野 洋子
手術室		15		(森本 恭子)
中央材料室		0		(森本 恭子)
専門看護師		2		
看護部長室		5		
計	426	363		

(5) 現 員 表

令和5(2023)年3月31日現在

職名		現員	備考	
定数内	常勤職員	事務職員 30		
		技術職員 522		
	計			552
定数外	臨時の任用職員		0	看護師・准看護師 0
	非常勤職員		351	医師 95
				看護師 55
				非常勤嘱託員 0
				看護助手 24
	計		351	事務補助 143 医療技術 34
合計		903		

5. 運営会議、幹部会、各種委員会

名称	性格、機能 等
運営会議	管理運営基本協議機関
幹部会	関係部局間連絡調整機関

委員会名称	委員長	活動内容
医療情報管理委員会	リハビリテーション科 主任部長 森下 裕	1 医療情報の管理及び提供に関すること。 2 診療録の管理運営に関すること。 3 その他医療情報の管理に関すること。 4 がん登録に関すること。
クリニカルパス推進委員会	医務局長 川島 佳代子	1 クリニカルパスの管理および利用推進に関すること。 2 パス大会の運営に関すること。 3 その他クリニカルパスに関すること。
診療情報提供審査部会	副院長 片岡 葉子	1 診療情報提供の審査に関すること。
薬事委員会	消化器外科主任部長 宮崎 知	1 薬品の選定に関すること。 2 新規医薬品購入に関すること。 3 医薬品管理の改善に関すること。 4 医薬品情報に関すること。 5 その他薬事に関すること。
保険委員会	教育研修センター長 兼循環器内科部長 江角 章	1 診療報酬の適正化に関すること。 2 診療報酬の再請求に関すること。 3 診療に関する自主料金収入の確保に関すること。 4 保険診療にかかる情報の伝達に関すること。 5 保険診療の疑義の検討に関すること。 6 保険診療の研修及び指導に関すること。 7 その他保険診療に関すること。
DPCコーディング委員会	教育研修センター長 兼循環器内科部長 江角 章	1 適切なコーディングに関すること。 2 その他コーディングに関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

栄養委員会	呼吸器内科医長 馬越 泰生	1 納入運営に関すること。 2 栄養基準に関すること。 3 栄養指導に関すること。 4 その他納入に関すること。
感染対策委員会	感染症内科主任部長 永井 崇之	1 院内感染の予防に関すること。 2 院内感染発生時の対応策に関すること。 3 新型インフルエンザ対策に関すること。 4 その他感染対策に関すること。
職員研修委員会	副院長 緒方 篤	1 職員の研修に関すること。 2 人権研修に関すること。
医療機器等整備委員会	院長 山口 誓司	1 医療機器等整備計画策定に関すること。 2 医療機器等の購入方法等に関すること。 3 医療機器等の管理及び処分に関すること。 4 購入額が500万円以上の医療機器等の機種選定に関すること。 5 その他医療機器等の整備に関すること。
医療機器等機種選定委員会	院長 山口 誓司	1 医療機器等整備委員会で購入を決定した医療機器等のうち、購入額が500万円以上のものの機種の選定に関すること。
広報委員会	医務局長 川島 佳代子	1 広報に関すること。
医療安全管理委員会	副院長 片岡 葉子	1 医療安全管理の検討及び研究に関すること。 2 医療事故の分析及び再発防止策の検討等に関すること。 3 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること。 4 医療安全管理のための啓発、教育、広報に関すること。 5 医療訴訟に関すること。 6 その他、医療安全管理に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

医療安全推進委員会	副院長 片岡 葉子	<ul style="list-style-type: none"> 1 インシデント報告の把握、原因分析及び対策の検討に関すること。 2 院内の事故防止のための意識向上に関すること。 3 医療安全管理委員会の決定事項の周知に関すること。 4 その他、医療安全管理に関すること。
医療機器安全管理委員会	呼吸器外科主任部長 門田 嘉久	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療機器の保守点検に関すること。 2 医療機器の機種変更及び更新に関すること。 3 その他医療機器の安全管理に関すること。
安全衛生委員会	院長 山口 誓司	<ul style="list-style-type: none"> 1 職員の安全衛生に係る業務の企画に関すること。 2 職員の健康保持増進の基本対策に関すること。 3 労災の原因・再発防止で、安全衛生に関すること。 4 職員の危険、健康障害防止、健康保持増進に関すること。
医療ガス安全管理委員会	呼吸器内科主任部長 松岡 洋人	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療ガス設備の保守点検に関すること。 2 医療ガス設備の補修等についての安全の確保に関すること。 3 医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関すること。 4 その他医療ガスに関すること。
放射線安全委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	<ul style="list-style-type: none"> 1 放射性同位元素等及び放射線発生装置の管理状況 2 放射線障害防止に関する業務の改善に係る事項 3 その他、放射線障害防止に係る事項

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

医療放射線安全管理委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	1 診療用放射線の安全利用のための指針策定 2 放射線安全利用のための研修の実施 3 放射線過剰被ばくその他放射線診療に関する事例発生時の対応 4 被ばく線量の管理及び記録および安全利用を目的とした改善の方策の実施
治験審査委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	1 審査対象の治験の倫理的及び科学的な妥当性、その他当該治験の実施の可否を審査すること。 2 治験を適切に実施しているか調査し、当該治験の継続実施の適否を審査すること。
受託研究審査委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	1 研究の目的、内容及び方法等の妥当性並びにその変更の妥当性について審議すること。 2 患者の研究参加の同意確認が適切に得られているか確認すること。 3 研究の進行状況について報告を受け、また必要に応じて、自ら調査を行い、意見を述べること。
診療材料委員会	泌尿器科主任部長 福井 辰成	1 診療材料の採択及び廃止に関すること。 2 既使用材料の見直し及び企画の統一に関すること。 3 診療材料の効率的な在庫管理に関すること。
集中治療室運営委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	1 集中治療室の運営に関すること。
臨床検査適正化委員会	臨床検査科主任部長 田村 嘉孝	1 臨床検査科の運営に関すること。 2 参加した外部精度管理の結果報告。
褥瘡対策委員会	消化器外科部長 池田 公正	1 患者の褥瘡の発生予防、治療の情報収集等に関すること。
手術室運営委員会	麻酔科主任部長 高内 裕司	1 手術室の運営に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

NST 委員会	消化器外科主任部長 宮崎 知	1 入院患者の栄養状態の改善に関すること。
患者サービス向上委員会	アレルギー・リウマチ内科部長 松野 治	1 患者サービスの向上に関すること。
医学研究倫理委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	1 先進医療又は研究に関する実施計画の審査に関すること。 2 研究成果の出版等で医の倫理に係わる審査に関すること。 3 看護部倫理委員会が必要と認めた実施計画の審査に関すること。
地域連携推進委員会	医務局長 川島 佳代子	1 病診連携の推進に関すること。 2 病病連携の推進に関すること 3 入退院の促進に関すること。 4 地域医療支援病院の運営に関すること。
輸血療法委員会	産婦人科主任部長 赤田 忍	1 適正かつ安全な輸血療法に関すること。 2 有効な補助療法として血液製剤の投与基準に関すること。 3 血液製剤使用記録の保管に関すること。 4 輸血後副作用・感染症の有無に関すること。 5 自己血貯血・輸血に関すること。
病院機能評価実行委員会	小児科主任部長 亀田 誠	1 (財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の受審に関する諸問題を調査・審議すること。
化学療法委員会	乳腺外科主任部長 安積 達也	1 化学療法のレジメンの妥当性の評価及び承認に関すること。 2 外来化学療法の運営に関すること。 3 入院における化学療法に関すること。 4 その他、化学療法に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

システム管理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 病院情報システムの開発、改修及び廃止に関すること。 2 病院情報システムの運用及び管理に関すること。 3 その他、病院情報システムに関すること。 4 インターネットシステムの運営に関すること。
利益相反委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 利益相反による弊害を抑えるための方策に関すること。 2 利益相反管理の調査に関すること。 3 その他、利益相反の重要事項に関すること。
働き方改革委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 医師・看護師の負担軽減及び処遇改善計画に関すること。 2 勤務環境の改善等に関すること。 3 職員の定着及び満足度向上に関すること。 4 職員の育児・介護支援に関すること。
防火防災委員会	事務局長 中谷 健志	<ol style="list-style-type: none"> 1 防火防災訓練の企画に関すること。 2 防火防災マニュアルの整備に関すること。 3 職員に対する防火防災研修の企画に関すること。 4 その他、防火防災に関すること。
C P R 委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 蘇生法の教育に関すること。 2 蘇生のための物品管理に関すること。 3 RRSに関すること。
綱紀保持推進委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 綱紀保持方策の実施状況の点検・確認及び見直しに関すること。 2 セクハラ・パワハラ対策に関すること。
新生児特定集中治療室（N I C U）運営委員会	小児科部長 吉田 之範	<ol style="list-style-type: none"> 1 新生児特定集中治療室の運営に関すること。

第1 概要 5. 運営会議、幹部会、各種委員会

重症心身障がい児 ショートステイ運営 委員会	小児科部長 吉田 之範	1 重症心身障がい児のショートステイの運営 に関すること。
緩和ケア委員会	外来化学療法科副部長 森下 直子	1 生命（人体）を脅かす疾患による問題に直 面している患者およびその家族の QOL の 改善に関すること。 2 主治医と連携したチーム医療による治療支 援に関すること。 3 がん療養相談窓口に関すること。 4 緩和ケア活動の周知、啓発及び活動に関す ること。 5 その他、緩和ケアについて必要と認める活 動に関すること。
虐待対策委員会	副院長 片岡 葉子	1 各種虐待（疑いを含む）への迅速な対応及 び組織的な対応に関すること。 2 虐待対応マニュアルの整備に関すること。 3 その他、センターの患者に対する各種虐待 に関すること。
新内科専門医研修 制度管理委員会	副院長 緒方 篤	1 新内科専門医研修制度のプログラムの策定 に関すること。 2 その他、新内科専門医研修制度について必 要と認める活動に関すること。
救急委員会	救急診療科主任部長 廣田 哲也	1 診療フローの改善、マニュアルの整備と周 知に関すること。 2 インシデント・アクシデントの確認・対応 に関すること。 3 救急搬送受入件数増に向けた提案に関す ること。
臨床倫理委員会	副院長 緒方 篤	1 終末期医療の決定プロセス、治療上必要な 身体拘束等臨床医学等の倫理に係る審査に 関すること。
バイオセーフティ 管理委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	1 病原体等を取り扱う研究又は実験を行う場 合における病原体等への曝露及び事故の未 然防止に関すること。

臨床研修管理委員会 (準備委員会)	副院長 緒方 篤	1 研修プログラムの企画、立案、教育及び評価などに関すること。
図書設置委員会	病理診断科部長 上田 佳世	
ダイバーシティ 委員会	小児科副部長 高岡 有理	
病床再編検討委員会	院長 山口 誓司	

6. 経営状況（決算）

(1) 総括

当センターは、昭和27年に府域における結核医療の基幹病院として開設し、これまでの間、結核とともに難治性の呼吸器疾患（COPD、肺がんなど）とアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、難治性喘息、食物アレルギーなど）の専門病院として専門医療に対応してきた。

あわせて、「地域に信頼され、地域になくてはならない病院」を目指し、南河内地域の医療ニーズに応える総合的な医療の拠点病院としての取組みを進めている。

令和4年度は、救急・重症患者の受け入れ拡大や地域連携のさらなる推進や、救急搬送受入件数の増加、カバーする診療領域の拡大等による増患・集患ならびにDPC適正運用の徹底や各種加算・管理料の取得等による診療単価向上をはじめとする、経営改善に向けた各種取組みを実施するとともに、令和5年5月の新病院開院に向け、建設工事・機器整備等を進めてきた。

経営状況は、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応のため、府の要請に応えて病床の一部を専用病床として提供することにより、通常診療の一部を縮小（一部病棟の閉鎖や一時的な救急受入中止）したものの、地域医療連携等の取組みにより新入院患者数が増加した。また、DPC適正運用や手術件数増加等による入院単価の増により、医業収入が増加した。あわせて、府からの新型コロナウイルス感染症への対応に係る空床補償等の補助金の確保により、新病院整備を一部自己資金により行った上でも、資金収支は4.1億円の黒字となった。

(2) 事業実績

患者数

当年度における入院患者は延べ88,637人、外来患者数は延べ145,922人で、入院患者数は前年度比2.1%増（一般252人増、結核1,579人増）、外来患者数は前年度比0.3%増（369人増）であった。

【患者数等の推移】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延入院患者数	97,040人	86,806人	88,637人
病床利用率 ※	62.4%	55.8%	57.0%
新入院患者数	8,449人	8,735人	8,764人
退院患者数	8,527人	8,751人	8,793人
うち一般病床	8,342人	8,578人	8,609人
うち結核病床	185人	173人	186人
延外来患者数	147,693人	145,553人	145,922人

※ 病床利用率は稼働病床数（426床）に対する比率

損益計算書

令和4年(2022)4月1日～令和5年(2023)3月31日

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
営業費用	円 11,355,826,057	営業収益	円 11,876,165,521
医業費用	11,355,826,057	医業収益	8,480,082,098
給与費	5,881,641,482	入院収益	5,615,247,180
材料費	1,873,392,406	外来収益	2,375,583,109
減価償却費	1,347,921,588	その他医業収益	518,540,954
経費	2,099,395,347	保険等査定減	△ 29,289,145
研究研修費	153,475,234	運営費負担金収益	894,561,000
		補助金等収益	2,335,795,078
		寄付金収益	573,100
		資産見返補助金等戻入	99,268,416
		資産見返寄付金戻入	36,134,736
		資産見返物品受贈額戻入	29,751,093
		雑収益	0
営業外費用	387,662,539	営業外収益	164,742,011
財務費用	44,282,001	運営費負担金収益	12,625,000
控除対象外消費税	252,156,185	その他営業外収益	152,117,011
資産に係る控除対象外消費税償却	91,063,933		
その他営業外費用	160,420	臨時利益	99,849,200
臨時損失	300,738,899		
固定資産除却損	34,595,613		
前期損益修正損	211,057,356	合計	12,140,756,732
その他臨時損失	55,085,930		
当年度純利益	96,529,237		
合計	12,140,756,732		

第1 概要 6. 経営状況（決算）

貸借対照表

令和5年（2023）3月31日

資産の部		負債・資本の部	
科目	金額	科目	金額
資産	円 25,715,926,572	負債	円 27,954,381,873
有形固定資産	22,762,276,538	固定負債	21,999,006,018
土地	3,229,328,880	資産見返負債	1,318,759,419
建物	8,251,791,786	長期借入金	19,021,361,291
建物付属設備	6,585,588,911	引当金	3,077,281,286
構築物	1,172,268,530	リース債務	105,118,999
器械備品	3,360,493,709	施設間仮勘定	△ 1,703,514,977
器機備品（リース）	155,854,955	その他固定負債	180,000,000
車両	4	流動負債	5,955,375,855
建設仮勘定	6,949,763	寄付金債務	27,018,855
無形固定資産	9,279,056	一年以内返済予定施設長期借入金	1,432,993,602
ソフトウェア	6,913,154	医業未払金	336,116,133
施設利用権	2,250,902	未払金	3,806,881,253
その他の無形固定資産	115,000	一年以内支払リース債務	48,114,814
投資その他の資産	2,944,370,978	未払費用	64,349,128
施設整備等積立金	1,110,000,000	未払消費税及び地方消費税	△ 120,257,600
職員長期貸付金	4,200,000	預り金	78,785,000
長期前払費用	1,794,137,289	前受収益	0
退職給付引当金見返	36,033,689	引当金	281,374,670
流动資産	2,919,617,881	純資産	681,162,580
現金及び預金	670,168,442	資本金	△ 1,124,390,765
医業未収金	1,555,604,070	資本剩余额	1,466,745,508
未収金	591,210,035	積立金	242,278,600
医薬品	80,660,586	当期未処理損失	96,529,237
貯蔵品	33,685	合計	28,635,544,453
前払費用	10,547,453		
その他の	11,393,610		
合計	28,635,544,453		

第2 業務の状況

第2 業務の状況 1. 令和4年度 地域医療支援病院 業務実績（大阪府への報告内容より抜粋）

1. 令和4年度 地域医療支援病院 業務実績（大阪府への報告内容より抜粋）

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する紹介患者の実績（患者数は延べ人数）

紹介率	79.6%
逆紹介率	101.0%

救急医療を提供する能力、実績

重症救急患者を優先的に使用できる病床	6床（月曜日のみ8床）
地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬送された救急患者数	2,081人
救急搬送以外の救急患者数	2,486人

救急用自動車（保有台数）	1台
救急自動車の主な装備	酸素ボンベ、ストレッチャー

地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制

共同利用の実績（医療機関延べ数）	41医療機関
共同利用の範囲	開放病床、CT、MRI、RI等検査機器、図書室、研究室
登録医療機関数（二次医療圏外含む）	263機関
常時共同利用可能な病床数	5床

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

地域の医療従事者への研修実施回数	17回
研修者数 ※院外からの延べ参加人数	449人
病院全体として実施した研修会	
「はびきのアカデミー」「SOCC」「羽曳野臨床懇話会」	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧件数	33件
------	-----

医療法施行規則第9条の19条1項に規定する委員会の開催状況

委員会の開催回数	4回
----------	----

患者相談の実績

相談件数	5,064件
------	--------

2. 医事統計

a. 月別入退院患者数調

（令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで）

	月初在院数	当月入院数	当月退院数			月末在院数	当月延患者数	一日平均患者数	充床率
			治癒・ 軽快等	死亡	計				
令和4年	4月	人 199	人 657	人 665	人 14	人 679	人 177	人 6,741	人 224.7
	5月	177	693	643	20	663	207	7,230	233.2
	6月	207	770	722	19	741	236	7,532	251.1
	7月	236	813	799	20	819	230	8,171	263.6
	8月	230	873	829	23	852	251	8,312	268.1
	9月	251	688	706	26	732	207	7,621	254.0
	10月	207	660	620	23	643	224	7,454	240.5
	11月	224	722	676	25	701	245	7,480	249.3
	12月	245	710	781	25	806	149	7,244	233.7
	令和5年 1月	149	738	671	19	690	197	7,007	226.0
	2月	197	665	662	11	673	189	6,690	238.9
	3月	189	775	783	11	794	170	7,155	230.8
令和4年度計	—	8,764	8,557	236	8,793	2,482	88,637	242.8	54.4
令和3年度計	—	8,734	8,520	232	8,752	—	86,787	237.7	55.7
令和2年度計	—	8,449	8,274	253	8,527	—	97,040	265.9	62.4
令和元年度計	—	10,266	10,261	279	10,540	—	122,655	335.1	78.3

第2 業務の状況 2. 医事統計

b. 住所地別・月別新入院患者数

(単位:人)

区分	大阪府 内市 内 除 く	内訳							大阪市 内 計	内訳				他府 県	不詳	合計
		豊能 ブロッ ク	三島 ブロッ ク	北河内 ブロッ ク	中河内 ブロッ ク	南河内 ブロッ ク	堺市 ブロッ ク	泉州 ブロッ ク		北部 ブロッ ク	西部 ブロッ ク	東部 ブロッ ク	南部 ブロッ ク			
令和4年																
4月	567	8	8	9	68	415	43	16	45	7	2	12	24	44	0	656
5月	621	11	5	6	73	481	34	11	37	5	3	7	22	36	0	694
6月	684	5	2	5	94	517	51	10	43	5	2	10	26	43	0	770
7月	716	13	3	8	84	542	53	13	50	1	8	9	32	47	0	813
8月	765	10	4	11	105	573	49	13	56	9	6	11	30	50	0	871
9月	625	4	4	8	73	477	42	17	43	5	4	7	27	20	0	688
10月	595	8	2	4	80	458	31	12	41	3	4	9	25	21	0	657
11月	655	2	1	0	93	510	37	12	49	4	5	5	35	18	0	722
12月	645	7	11	7	82	468	57	13	36	4	4	6	22	25	0	706
令和5年																
1月	663	11	1	6	104	483	47	11	46	4	1	10	31	28	0	737
2月	588	6	4	1	87	431	48	11	49	2	3	9	35	28	0	665
3月	659	13	5	6	91	470	51	23	66	12	1	16	37	50	0	775
令和4年度 合計	7,783	98	50	71	1,034	5,825	543	162	561	61	43	111	346	410	0	8,754
令和3年度 合計	9,227	127	34	94	1,369	6,742	627	234	848	106	79	162	501	420	14	10,509
令和2年度 合計	8,884	110	45	141	1,164	6,543	628	253	1,062	89	109	202	662	502	12	10,460
令和元年度 合計	11,105	145	50	117	1,491	8,144	826	332	1,075	75	77	169	754	651	12	12,843

※大阪府内(大阪市内を除く)を7ブロック、大阪市内を4ブロックに分け集計した。

第1 (豊能) ブロック 池田市、箕面市、豊能町、能勢町、豊中市、吹田市

第2 (三島) ブロック 摂津市、茨木市、高槻市、島本町

第3 (北河内) ブロック 枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、四條畷市、交野市

第4 (中河内) ブロック 東大阪市、八尾市、柏原市

第5 (南河内) ブロック 松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、富田林市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村

第6 (堺市) ブロック 堀市

第7 (泉州) ブロック 和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、熊取町、田尻町、泉南市、阪南市、岬町

第8 (大阪市北部) ブロック 北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区

第9 (大阪市西部) ブロック 福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区

第10 (大阪市東部) ブロック 中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区

第11 (大阪市南部) ブロック 阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

c. 退院患者在院日数調

〔令和4年4月1日から
令和5年3月31日まで〕

$$\cdot \text{総 数} \quad \frac{88,637}{1/2 \ (8,764\text{人} + 8,784\text{人})} = 10.1\text{日}$$

$$\cdot \text{結 核} \quad \frac{12,634}{1/2 \ (179\text{人} + 186\text{人})} = 69.2\text{日}$$

$$\cdot \text{一 般} \quad \frac{76,003\text{人}}{1/2 \ (8,585\text{人} + 8,598\text{人})} = 8.8\text{日}$$

d. 科別・月別延べ入院患者数

区分	呼吸器 内科	肺腫瘍 内科	呼吸器 外科	感染症 内科	アレルギー・ リウマチ内科	小児科	皮膚科	眼科	循環器 内科	消化器 内科	消化器 外科	乳腺外科	産婦人科	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	救急	放射線科	集中 治療科	泌尿器科	整形外科	合計
令和4年4月	913	713	458	1,208	217	482	500	0	143	4	400	79	1,183	209	12	0	0	179	41	6,741
5月	1,119	618	431	1,549	218	431	618	0	173		470	124	994	198	16	0	0	162	109	7,230
6月	1,080	761	426	1,626	279	451	524	0	325	1	460	139	938	208	12	0	0	193	109	7,532
7月	1,301	740	438	1,534	435	660	598	0	411	1	389	78	1,035	190	28	0	2	167	164	8,171
8月	1,495	731	363	1,773	303	628	479	0	499	0	301	126	1,029	200	9	0	1	178	197	8,312
9月	1,163	559	404	1,803	280	618	397	0	307	0	301	118	1,052	254	7	0	22	205	131	7,621
10月	1,211	635	389	1,753	186	424	398	0	275	35	253	136	1,092	251	8	0	0	247	161	7,454
11月	1,251	548	421	1,645	229	530	433	0	225	63	253	113	1,017	299	25	0	3	232	193	7,480
12月	1,207	581	352	1,492	222	421	501	0	177	181	295	122	1,074	262	14	0	0	128	215	7,244
令和5年1月	1,205	760	353	1,447	341	478	294	0	236	96	269	97	883	162	21	0	0	147	218	7,007
2月	1,154	516	368	1,286	173	496	358	0	361	123	307	156	885	211	16	0	0	123	157	6,690
3月	1,002	603	364	1,395	225	541	483	0	287	102	444	164	955	268	16	0	2	123	181	7,155
令和4年度 合計	14,101	7,765	4,767	18,511	3,108	6,160	5,583	0	3,419	606	4,142	1,452	12,137	2,712	184	0	30	2,084	1,876	88,637
1日平均患者数	38.6	21.3	13.1	50.7	8.5	16.9	15.3	0.0	9.4	1.7	11.3	4.0	33.3	7.4	0.5	0.0	0.1	5.7	5.1	242.8
構成比 (%)	15.9%	8.8%	5.4%	20.9%	3.5%	6.9%	6.3%	0.0%	3.9%	0.7%	4.7%	1.6%	13.7%	3.1%	0.2%	0.0%	0.0%	2.4%	2.1%	100.0%
令和3年度 合計	14,437	10,461	5,496	15,331	3,006	6,145	5,517	304	3,990	1,231	2,744	1,646	12,096	3,131	309	0	1	924	0	86,769
令和2年度 合計	16,173	16,063	5,645	19,802	2,700	5,533	6,761	535	4,149	805	1,773	1,847	11,616	3,171	286	0	142	0	0	97,001
令和元年度 合計	20,786	21,806	7,749	23,103	2,873	8,631	7,653	2,475	3,752	1,137	2,140	1,734	12,972	3,395	300	0	1,474	0	0	121,980

e. 科別・月別延べ外来患者数

区分	呼吸器内科	肺腫瘍内科	呼吸器外科	感染症内科	アレルギー・リウマチ内科	小児科	皮膚科	眼科	循環器内科	消化器内科	消化器外科	乳腺外科	産婦人科	耳鼻咽喉・頭頸部外科	救急	放射線科	集中治療科	呼吸器総合外来	リハビリテーション科	泌尿器科	整形外科	腎臓内科	歯科	発熱外来	合計
令和4年4月	978	616	532	663	764	1,373	2,067	297	388	297	208	559	2,139	449	6	183	0	4	0	291	29	0	98	5	11,946
5月	912	602	499	673	702	1,210	2,022	275	376	240	202	557	2,154	423	8	231	2	8	0	306	62	0	96	1	11,561
6月	989	584	600	664	758	1,439	2,373	317	373	291	259	622	2,483	491	11	240	1	9	0	319	85	0	107	5	13,020
7月	915	612	613	666	697	1,483	2,045	301	386	317	234	549	2,074	510	71	99	0	5	0	284	72	6	106	97	12,142
8月	958	628	524	752	781	1,720	2,342	314	389	302	241	541	2,197	670	51	191	1	0	0	340	97	9	118	379	13,545
9月	944	646	595	716	700	1,414	2,118	299	365	296	285	530	2,110	469	26	196	1	2	0	294	81	18	117	119	12,341
10月	967	632	559	713	732	1,389	2,053	314	364	318	233	597	2,101	439	18	99	0	1	0	268	96	16	99	82	12,090
11月	903	583	501	707	712	1,290	2,009	271	385	337	226	595	2,010	441	39	82	0	3	0	293	115	13	102	127	11,744
12月	958	558	513	681	718	1,534	2,015	287	406	291	226	598	1,996	455	36	45	1	2	0	306	120	13	98	153	12,010
令和5年1月	836	532	525	645	721	1,395	1,904	249	419	327	230	579	1,745	411	45	23	3	1	0	313	125	21	88	150	11,287
2月	822	545	470	665	665	1,242	1,867	267	379	412	225	503	1,758	429	39	30	0	1	0	321	127	12	97	13	10,889
3月	906	606	536	768	837	1,728	2,281	302	420	436	256	737	2,104	681	38	57	1	1	0	352	129	30	111	17	13,334
令和4年度合計	11,088	7,144	6,467	8,313	8,787	17,217	25,096	3,493	4,650	3,864	2,825	6,967	24,871	5,868	388	1,476	10	37	0	3,687	1,138	138	1,237	1,148	145,909
1日平均患者数	45.8	29.5	26.7	34.4	36.3	71.1	103.7	14.4	19.2	16.0	11.7	28.8	102.8	24.2	1.6	6.1	0.0	0.2	0.0	15.2	4.7	0.6	5.1	4.7	602.9
構成比 (%)	7.6%	4.9%	4.4%	5.7%	6.0%	11.8%	17.2%	2.4%	3.2%	2.6%	1.9%	4.8%	17.0%	4.0%	0.3%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.8%	0.1%	0.8%	0.8%	100.0%
令和3年度合計	11,475	8,546	6,761	7,686	9,057	17,502	25,369	4,746	4,578	3,257	2,088	6,640	25,838	6,121	21	2,436	5	35	0	1,957	115	115	1,171	151	145,670
令和2年度合計	12,450	10,653	6,397	8,141	8,131	17,164	26,324	5,871	4,708	2,848	1,867	6,473	24,786	6,891	0	2,764	14	0	0	39	39	1,035	0	146,595	
令和元年度合計	14,168	12,381	6,573	9,255	11,751	19,771	28,667	8,114	5,205	3,141	1,819	6,646	27,294	8,537	102	2,768	4	293	3	0	21	21	1,609	0	168,143

3. 診療情報管理室統計

【病棟別・退院患者の状況】

病棟	1 A	2 A	2 B	4 A	5 A	7 A	9A	1 0 A	1 0 B	1 1 A	合計	平均
退院患者数	1,582	1,180	18	934	1,169	2,009	19	1,134	553	186	8,784	878.4
<うち死亡退院数>	0	1	12	52	67	1	0	48	25	21	227	22.7
(うち死亡数－48時間以内死亡数)	1	5	43	57	1	0	0	44	21	21	193	19.3
(うち剖検)										-	-	
平均在院日数	6.2	10.1	5.6	11.4	14.7	4.4	20.9	10.6	9.5	65.6	-	10.1
病床回転数	59.0	36.0	65.0	31.9	24.8	83.6	17.5	34.5	38.4	5.6	-	36.3

【月別・退院患者の状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
退院患者数	679	663	741	819	850	731	642	701	802	689	673	794	8,784	732.0
<うち死亡退院>	14	20	19	20	21	25	22	25	21	18	11	11	227	18.9
(うち死亡数－48時間以内死亡数)	10	14	17	16	19	23	20	22	18	17	8	9	193	16.1
(うち剖検)													-	-

【算出式】

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{退院患者延入院日数}}{\text{退院患者数}}$$

$$\text{粗死亡率} = \frac{\text{死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$$

$$\text{剖検率} = \frac{\text{剖検数} \times 100}{\text{死亡数}}$$

$$\text{病床回転数} = \frac{365\text{日}}{\text{平均在院日数}}$$

$$\text{精死亡率} = \frac{\text{死亡数} - 48\text{時間以内死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$$

平均在院日数=10.1日（10.0日）

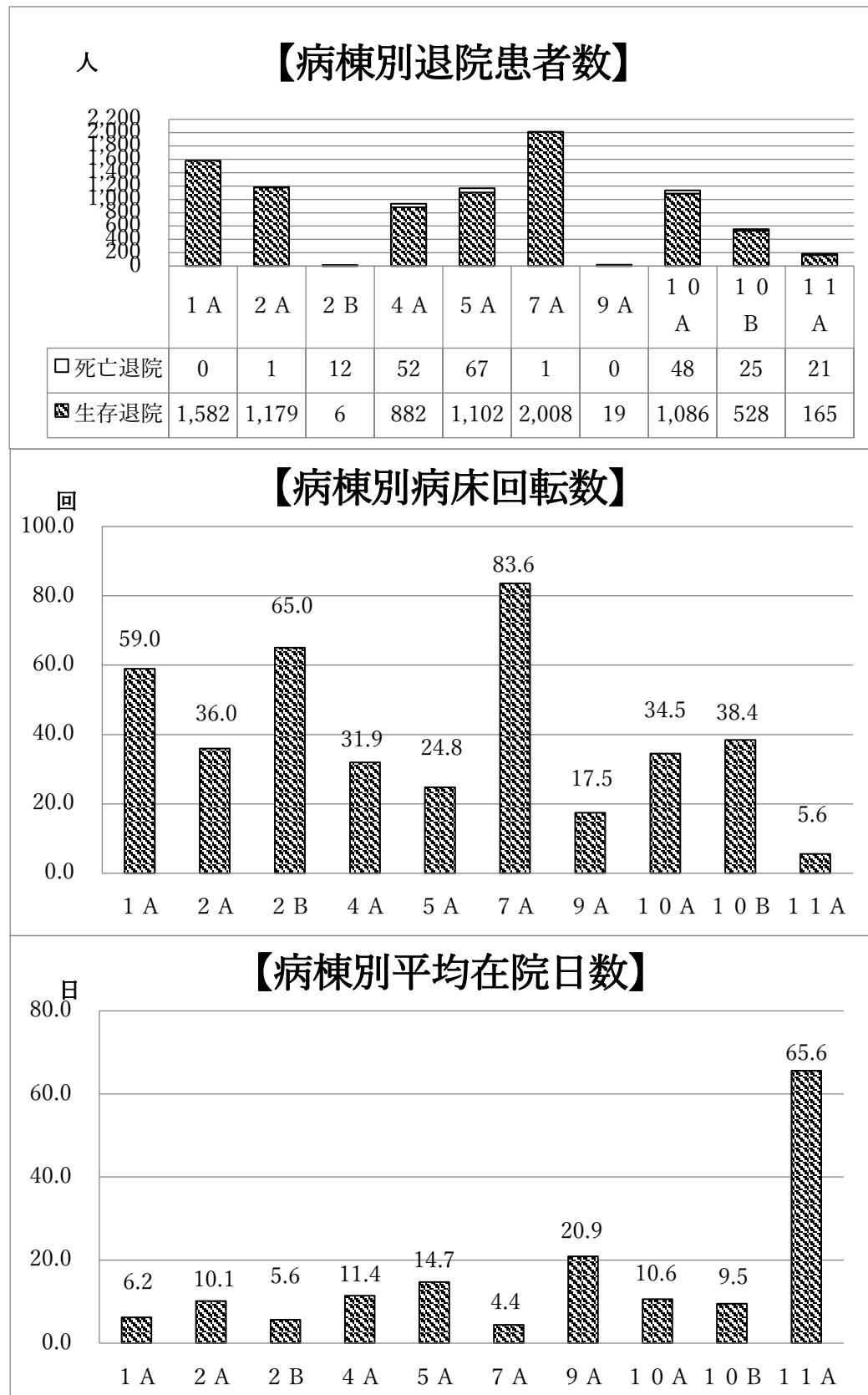
病床回転数=36.3回（36.6回）

粗死亡率=2.6%（2.7%）

精死亡率=2.2%（2.1%）

剖検率=0.0%（0.4%）

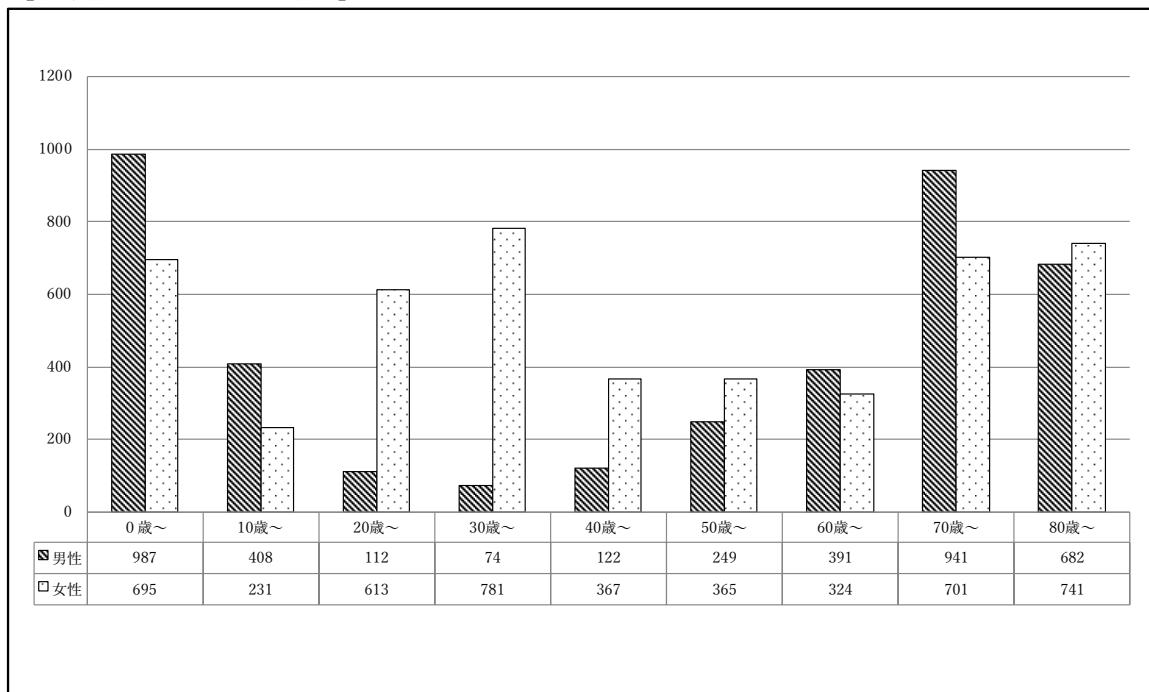
（括弧内は昨年度値）



[病棟別・在院期間別退院患者数]

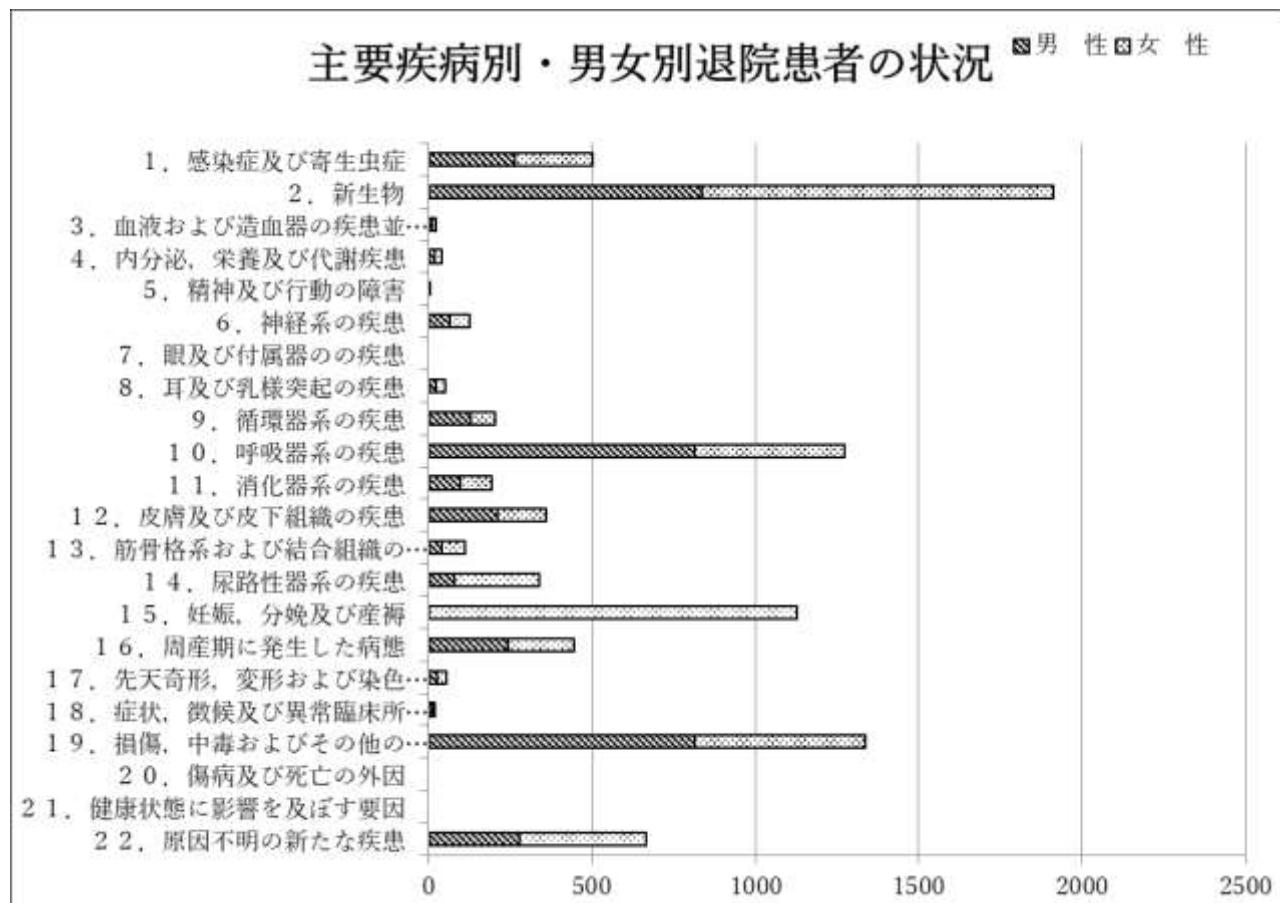
	1 A	2 A	2 B	4 A	5 A	7 A	9A	10A	10B	11A	合 計	平 均
1 ~ 8 日	1,429	651	13	513	525	1,707	5	636	264	3	5,746	574.6
9 ~ 15 日	118	333	3	227	307	204	4	242	232	8	1,678	167.8
16 ~ 22 日	16	104	2	86	133	36	3	138	33	8	559	55.9
23 ~ 31 日	9	48	0	53	89	33	2	64	18	13	329	32.9
32 ~ 61 日	9	35	0	48	91	25	5	49	5	56	323	32.3
62 ~ 91 日	1	7	0	4	18	3	0	4	1	65	103	10.3
3 ~ 6 ヶ月	0	1	0	3	6	1	0	1	0	31	43	4.3
6 ヶ月以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0.3
男 人 数	246	435	14	482	697	1,212	10	516	238	116	3,966	396.6
性 平均在院日数	5.9	11.9	6.3	12.1	15.0	4.3	26.6	11.9	10.2	65.8	11.2	-
女 人 数	1,336	745	4	452	472	797	9	618	315	70	4,818	481.8
性 平均在院日数	6.2	9.1	3.3	10.7	14.4	4.5	14.6	9.5	9.0	65.4	9.1	-
合 人 数	1,512	1,223	31	939	1,135	1,983	89	1,136	531	173	8,752	875.2
計 平均在院日数	6.2	10.1	5.6	11.4	14.7	4.4	20.9	10.6	9.5	65.6	10.1	-

[年齢層別・男女別退院患者数]



[主要疾病別・男女別退院患者の状況]

基本分類項目 (ICD-10準拠)	男性		女性		合計		構成比 (%)	平均在院日数	令和3年度		令和2年度	
		うち死亡数		うち死亡数		うち死亡数			合計	平均在院日数	合計	平均在院日数
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	263	25	239	15	502	40	5.7	32.6	459	34.6	443	41.8
2. 新生物(C00-D48)	837	44	1,074	22	1,911	66	21.8	9.7	2,070	9.2	2,265	11.1
3. 血液および造血器の疾患並びに免疫機構の障害 (D50-D89)	11	1	11	1	22	2	0.3	10.9	22	7.6	18	23.9
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	20	1	21	0	41	1	0.5	10.9	42	10.0	31	6.8
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	2	0	0	0	2	0	0.0	2.5	5	5.0	3	2.7
6. 神経系の疾患(G00-G99)	66	0	61	0	127	0	1.4	4.6	159	4.9	139	4.6
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0.0	-	104	3.0	234	2.3
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	21	0	31	0	52	0	0.6	8.1	75	8.1	93	10.0
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	129	9	75	5	204	14	2.3	15.0	233	14.4	225	17.8
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	816	48	457	17	1,273	65	14.5	14.3	1,138	14.3	1,088	17.0
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	96	2	97	3	193	5	2.2	9.3	159	8.4	129	7.6
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	210	0	149	0	359	0	4.1	13.6	340	12.4	320	18.0
13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	41	3	70	3	111	6	1.3	16.4	104	21.1	60	30.7
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	81	1	259	2	340	3	3.9	6.2	262	5.7	253	6.7
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)		0	1,128	0	1,128	0	12.8	6.3	1,114	6.4	1,085	6.5
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	242	0	202	0	444	0	5.1	6.2	437	6.4	380	6.1
17. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	27	0	28	0	55	0	0.6	4.4	46	5.9	59	4.9
18. 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	11	1	7	0	18	1	0.2	7.9	26	6.9	20	5.5
19. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	815	0	523	1	1,338	1	15.2	2.8	1,209	1.8	1,142	2.1
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	-	0	-
21. 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0.0	-	0	-	0	-
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	278	13	386	10	664	23	7.6	9.0	748	11.4	541	13.1
合 計	3,966	148	4,818	79	8,784	227						
構成比率	45.2%		54.8%		100%		10.1					
令和3年度	合 計	4,158	159	4,594	73	8,752	232		8,752			
	構成比率	47.5%		52.5%		100%				10.0		
令和2年度	合 計	4,002	168	4,526	85	8,528	253			8,528		
	構成比率	46.9%		53.1%		100%					11.5	



[主要疾病別・科別退院患者数]

基本分類項目(ICD-10 準拠)	呼内	肺腫瘍	呼外	感染症	ア内	小児	皮膚	眼科	耳鼻	循内	消内	消外	乳腺	産婦人	泌尿器	整形	合計	
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	65	4	2	281	11	50	32	0	23	0	6	13	0	4	9	2	502	
2. 新生物(C00-D48)	41	598	175	8	0	3	18	0	26	1	40	193	180	438	188	2	1,911	
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	8	1	0	0	1	0	4	0	2	2	1	3	0	0	0	0	22	
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	3	0	3	1	5	17	1	0	0	7	1	2	0	1	0	0	41	
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
6. 神経系の疾患(G00-G99)	53	0	0	2	2	42	1	0	22	2	2	1	0	0	0	0	127	
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	52	
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	19	1	0	6	4	1	3	0	0	169	0	0	0	0	1	0	204	
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	506	22	107	103	83	216	1	0	217	15	1	2	0	0	0	0	1,273	
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	5	0	0	1	3	9	1	0	3	4	38	122	0	5	2	0	193	
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	4	0	2	0	1	4	342	0	4	1	0	0	0	1	0	0	359	
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	37	0	0	0	37	13	8	0	1	1	0	1	0	1	0	12	111	
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	8	0	3	5	5	6	1	0	5	6	0	4	5	182	110	0	340	
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,128	0	0	1,128	
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	0	0	0	0	0	321	0	0	0	0	0	0	0	123	0	0	444	
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	0	0	2	0	0	45	0	0	4	1	0	0	0	1	2	0	55	
18. 症状、微候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	2	2	1	3	0	2	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	18	
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	5	1	11	3	11	1,169	43	0	5	5	0	3	0	7	1	74	1,338	
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	209	53	4	165	66	78	2	0	3	36	2	4	0	38	1	3	664	
合 計	965	682	310	578	230	1,977	457	0	375	250	91	348	185	1,929	314	93	8,784	
構成比率 (%)	11.0%	7.8%	3.5%	6.6%	2.6%	22.5%	5.2%	0.0%	4.3%	2.8%	1.0%	4.0%	2.1%	22.0%	3.6%	1.1%	100%	
科別平均在院日数(日)	14.7	11.8	15.2	31.3	13.7	3.1	12.1	-	7.2	14.1	6.6	12.0	7.7	6.3	6.6	19.9	10.1	
令和3年度	合 計	912	942	383	446	268	1,807	516	104	392	296	216	236	227	1,856	151	-	8,752
	平均在院日数	16.3	11.1	14.1	35.2	11.6	3.4	10.7	3.0	8.2	13.8	5.4	10.9	7.5	6.5	5.8	-	10.0
令和2年度	合 計	801	1,293	375	548	182	1,653	425	235	343	253	173	165	268	1814	-	-	8,528
	平均在院日数	20.9	12.8	15.9	35.7	15.2	3.4	16.4	2.3	9.3	16.7	4.5	12.0	7.0	6.4	-	-	11.5

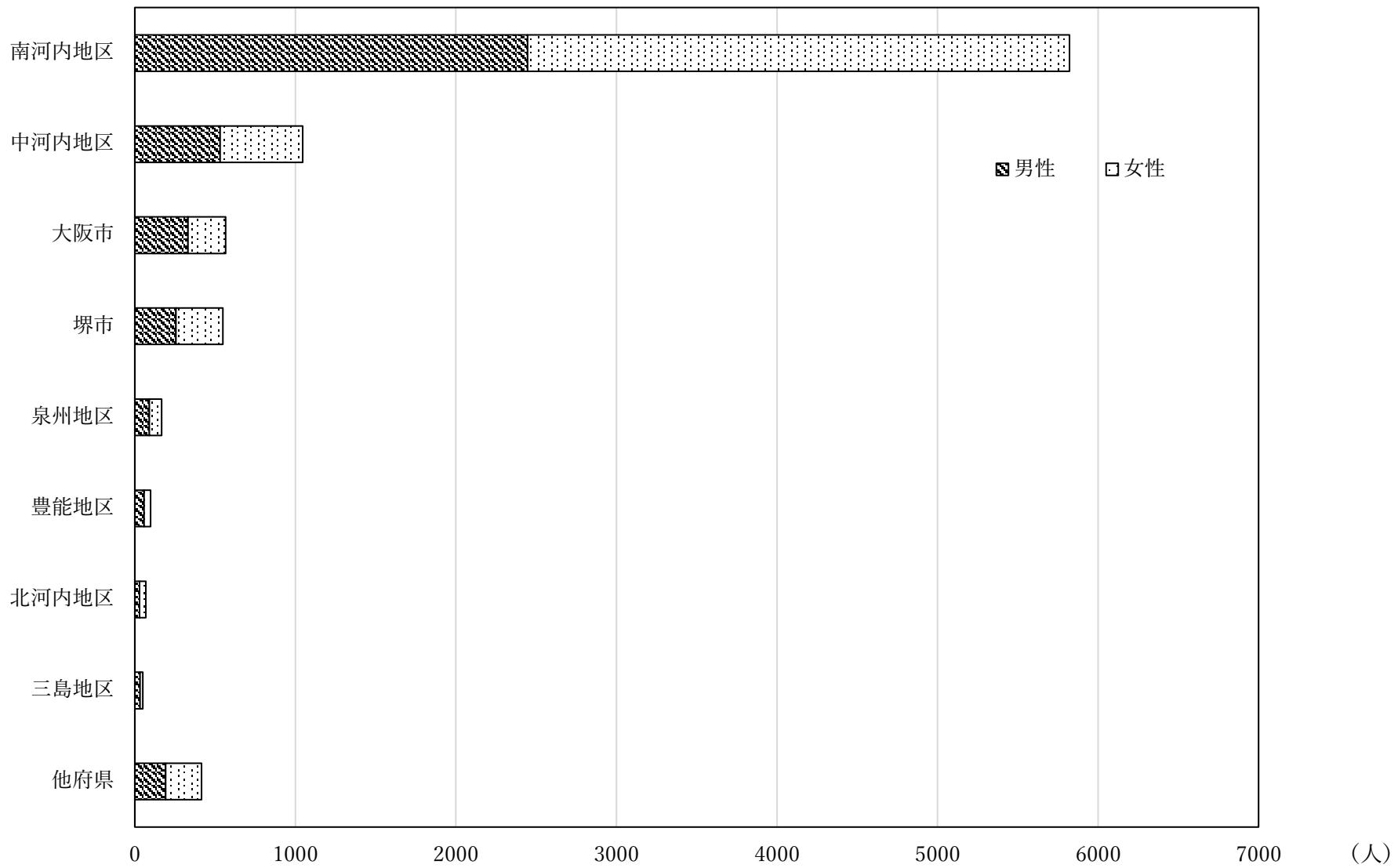
[主要疾患別・病棟別退院患者数]

基本分類項目 (ICD-10準拠)	1A	2A	2B	4A	5A	7A	9A	10A	10B	11A	合計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	2	13	4	56	140	76	3	27	1	180	502
2. 新生物(C00-D48)	16	674	1	281	60	20	0	854	5	0	1,911
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	0	0	0	2	10	4	0	6	0	0	22
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	1	4	0	3	9	17	1	5	1	0	41
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
6. 神経系の疾患(G00-G99)	0	0	0	65	13	43	0	5	1	0	127
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	1	0	0	8	35	7	0	1	0	0	52
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	0	0	4	33	152	5	1	6	2	1	204
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	0	95	6	195	636	243	2	81	13	2	1,273
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	1	82	1	25	13	11	0	59	0	1	193
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	0	3	0	40	10	290	8	5	3	0	359
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	0	5	0	20	30	22	0	34	0	0	111
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	26	228	0	31	19	10	0	22	3	1	340
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	1,076	14	0	10	0	13	0	7	8	0	1,128
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	426	0	0	0	0	18	0	0	0	0	444
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	30	2	0	2	3	18	0	0	0	0	55
18. 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	0	1	0	5	9	2	0	1	0	0	18
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	3	58	0	22	22	1,208	4	19	1	1	1,338
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	0	1	2	136	8	1	0	1	515	0	664
合 計	1,582	1,180	18	934	1,169	2,009	19	1,134	553	186	8,784
構成比率 (%)	18.0%	13.4%	0.2%	10.6%	13.3%	22.9%	0.2%	12.9%	6.3%	2.1%	100%

[主要疾病別・診療圈別退院患者数]

基本分類項目 (ICD-10準拠)	大阪市	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	他府県	合計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	96	9	8	12	90	224	26	11	26	502
2. 新生物(C00-D48)	40	0	0	7	212	1,532	77	6	37	1,911
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	0	0	0	0	2	14	3	3	0	22
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	0	0	0	2	3	34	1	0	1	41
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
6. 神経系の疾患(G00-G99)	1	0	0	0	21	101	4	0	0	127
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	0	0	0	0	2	48	1	0	1	52
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	4	0	0	1	29	156	13	1	0	204
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	56	1	3	8	224	885	53	15	28	1,273
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	3	0	0	0	17	166	4	1	2	193
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	47	7	7	12	42	126	39	23	56	359
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	2	0	0	0	19	80	3	3	4	111
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	9	0	0	1	25	296	6	1	2	340
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	53	3	5	9	81	834	53	5	85	1,128
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	20	2	3	2	27	330	15	3	42	444
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	1	0	0	0	7	42	0	0	5	55
18. 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	1	0	0	0	4	12	1	0	0	18
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	200	76	22	14	134	473	215	93	111	1,338
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	33	1	2	1	106	468	35	2	16	664
合計	566	99	50	69	1,045	5,823	549	167	416	8,784
構成比率 (%)	6.4%	1.1%	0.6%	0.8%	11.9%	66.3%	6.3%	1.9%	4.7%	100%
令和3年度 合計	633	106	27	73	1,101	5,700	567	191	354	8,752
令和2年度 合計	698	94	39	103	913	5,532	520	196	433	8,528

地域別・男女別退院患者の状況

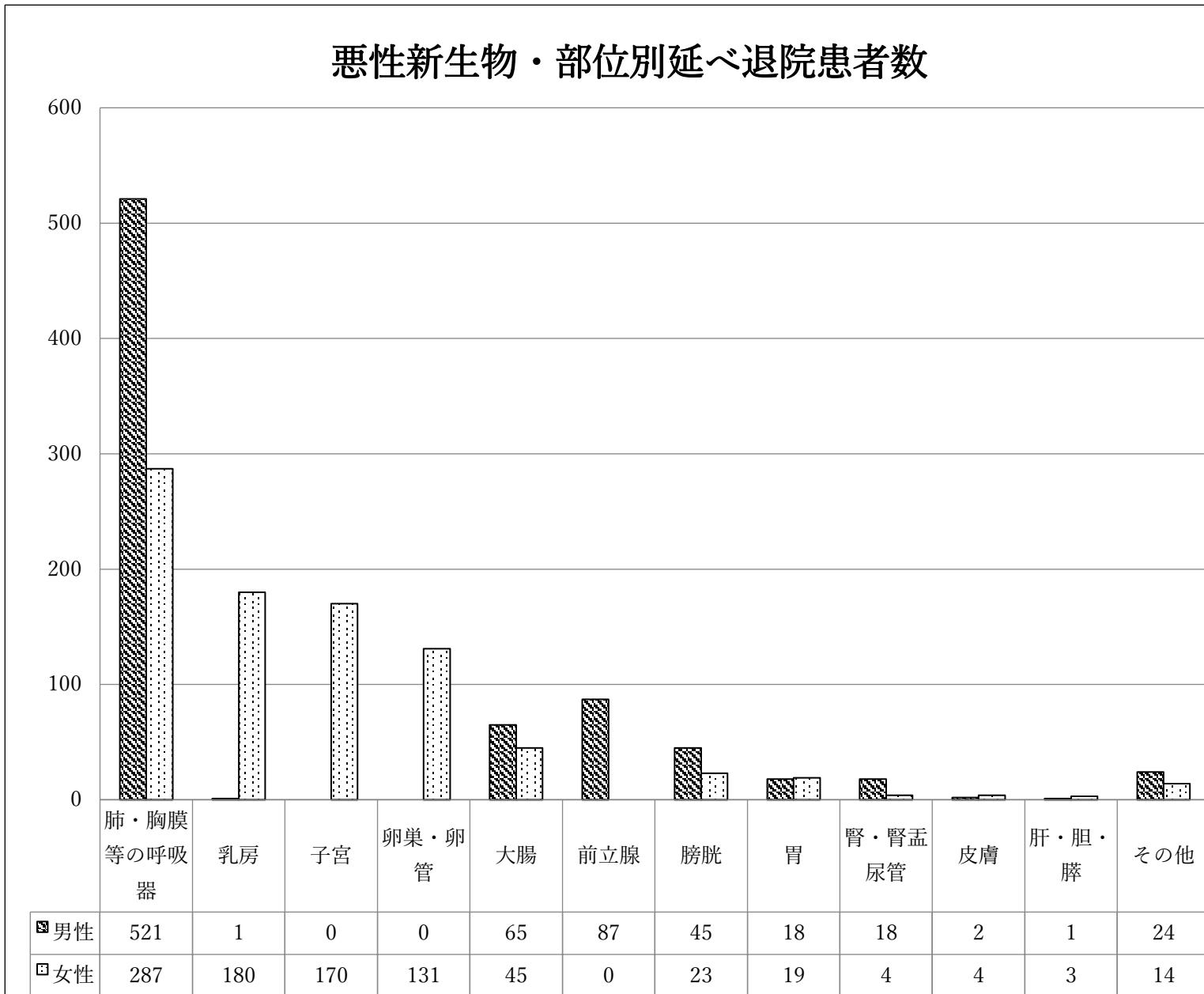


[主要疾病別・年齢別退院患者数]

基本分類項目 (ICD-10準拠)	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	合計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	44	12	13	11	13	41	59	161	148	502
2. 新生物(C00-D48)	4	7	31	31	169	313	337	723	296	1,911
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	0	0	2	0	2	4	2	8	4	22
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)	17	0	1	0	0	1	2	10	10	41
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
6. 神経系の疾患(G00-G99)	15	28	5	4	21	19	20	10	5	127
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	2	5	5	4	6	5	11	12	2	52
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	0	1	0	0	5	12	22	61	103	204
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	191	63	83	41	55	58	109	319	354	1,273
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	6	6	3	11	5	23	24	47	68	193
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	40	90	49	43	29	29	21	28	30	359
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	13	0	2	9	4	11	10	30	32	111
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	5	6	16	38	65	48	32	84	46	340
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)	0	10	451	603	64	0	0	0	0	1,128
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	444	0	0	0	0	0	0	0	0	444
17. 先天奇形、変形及び染色体異常(Q00-Q99)	49	0	2	1	1	0	1	0	1	55
18. 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	2	1	1	0	0	1	3	5	5	18
19. 損傷、中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	790	387	16	10	10	7	17	39	62	1,338
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	60	22	45	48	40	42	45	105	257	664
合計	1,682	639	725	855	489	614	715	1,642	1,423	8,784
構成比率 (%)	19.1%	7.3%	8.3%	9.7%	5.6%	7.0%	8.1%	18.7%	16.2%	100%
令和3年度 合計	1,576	582	678	915	630	663	828	1,663	1,217	8,752
令和2年度 合計	1,396	532	686	836	536	626	831	1,847	1,238	8,528

年齢階層別上位疾患順位別退院患者数 ★女性★	年齢階層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位	合計(人)
		年齢層別退院数										
		比率										
0~9歳	T78 : 有害作用、 他に分類されない もの	P22 : 新生児の呼 吸窮<促>迫	P05 : 胎児発育遅延 <成長遅滞>およ び胎児栄養失調	U07 : COVID-19	J46 : 喘息発作重 積状態	J12 : ウィルス性 肺炎	P00 : 現在の妊娠と は無関係の母体の 病態により影響を 受けた新生児	L20 : アトピー性 皮膚炎	J20 : 急性気管支 炎	P92 : 新生児の哺 乳上の問題	541	
		301	93	24	23	20	19	18	16	15	12	695
10~19歳	T78 : 有害作用、 他に分類されない もの	L20 : アトピー性 皮膚炎	U07 : COVID-19	G80 : 脳性麻痺	G40 : てんかん	D27 : 卵巣の良性 新生物	J46 : 喘息発作重 積状態	T88 : 薬物過敏症	J45 : 喘息	J15 : 細菌性肺 炎、他に分類され ないもの	193	
		110	37	14	9	6	4	4	3	3	3	231
20~29歳	O62 : 婦出力の異 常	O68 : 胎児ストレ ス【仮死】を合併 する分娩	O42 : 前期破水	U07 : COVID-19	O70 : 分娩におけ る会陰裂傷<la ceration	O48 : 遅延妊娠	O34 : 母体骨盤臓器 の異常またはその 疑いのための母体 ケア	O60 : 早産	O65 : 母体の骨盤 異常による分娩停 止	O34 : その他の既知 の胎児側の問題ま たはその疑いのた めの母体ケア	355	
		93	42	39	35	35	28	26	21	18	18	613
30~39歳	O62 : 婦出力の異 常	O68 : 胎児ストレ ス【仮死】を合併 する分娩	O42 : 前期破水	U07 : COVID-19	O70 : 分娩におけ る会陰裂傷<la ceration	O34 : その他の既知 の胎児側の問題ま たはその疑いのた めの母体ケア	O48 : 遅延妊娠	O60 : 早産	O02 : 受胎のその 他の異常生成物	L20 : アトピー性 皮膚炎	473	
		157	51	47	44	42	40	28	28	20	16	781
40~49歳	D25 : 子宮平滑筋 腫	C54 : 子宮体部の 悪性新生物	C50 : 乳房の悪性 新生物	U07 : COVID-19	N84 : 女性性器の ポリープ	C56 : 卵巣の悪性 新生物	O62 : 婦出力の異 常	N87 : 子宮頸 (部) の異形成	C53 : 子宮頸部の 悪性新生物	N80 : 子宮内膜症	213	
	41	34	34	26	20	13	12	11	11	11	11	367
50~59歳	C50 : 乳房の悪性 新生物	C56 : 卵巣の悪性 新生物	C54 : 子宮体部の 悪性新生物	C34 : 気管支およ び肺の悪性新生物	U07 : COVID-19	D25 : 子宮平滑筋 腫	C53 : 子宮頸部の 悪性新生物	N84 : 女性性器の ポリープ	D27 : 卵巣の良性 新生物	L20 : アトピー性 皮膚炎	236	
	41	39	34	24	24	20	17	15	12	10	10	365
60~69歳	C34 : 気管支およ び肺の悪性新生物	C50 : 乳房の悪性 新生物	C54 : 子宮体部の 悪性新生物	U07 : COVID-19	C56 : 卵巣の悪性 新生物	C57 : その他およ び部位不明の女性生 殖器の悪性新生物	A31 : その他非 結核性抗酸菌によ る感染症	C20 : 直腸の悪性 腫瘍	J32 : 慢性副鼻腔 炎	D27 : 卵巣の良性 新生物	174	
	41	31	24	20	16	15	7	7	7	6	6	324
70~79歳	C34 : 気管支およ び肺の悪性新生物	C50 : 乳房の悪性 新生物	U07 : COVID-19	A31 : その他の非 結核性抗酸菌によ る感染症	C56 : 卵巣の悪性 新生物	J15 : 細菌性肺 炎、他に分類され ないもの	N81 : 女性性器脱 落	J84 : その他の間 質性肺疾患	D12 : 結腸、直 腸、肛門および肛 門管の良性新生物	C54 : 子宮体部の 悪性新生物	375	
	136	54	40	32	30	21	20	16	13	13	13	701
80歳以上	U07 : COVID-19	C34 : 気管支およ び肺の悪性新生物	J15 : 細菌性肺 炎、他に分類され ないもの	I50 : 心不全	A15 : 呼吸器結核	J84 : その他の間 質性肺疾患	J69 : 誤嚥性肺炎	A31 : その他の非 結核性抗酸菌によ る感染症	S72 : 大腿骨骨折	C67 : 膀胱の悪性 腫瘍	440	
	160	58	39	34	33	31	27	23	19	16	16	741

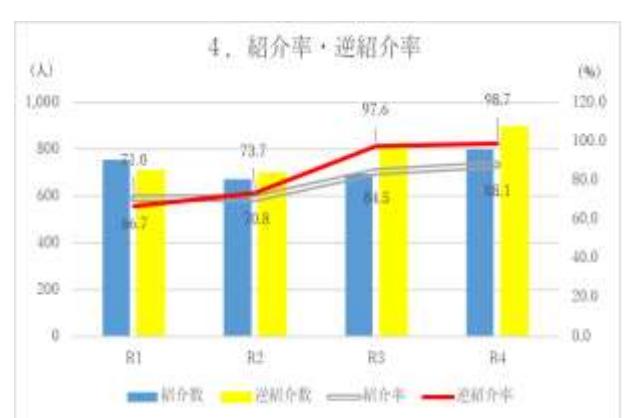
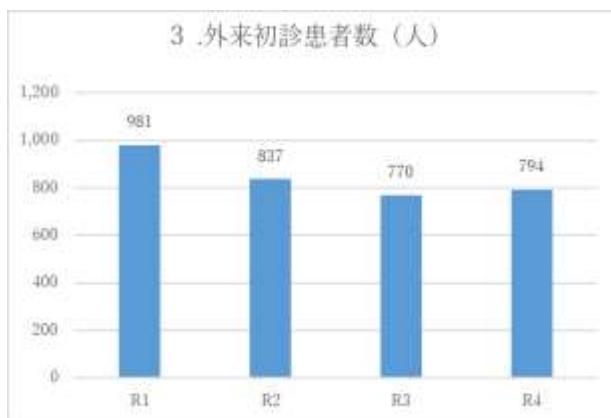
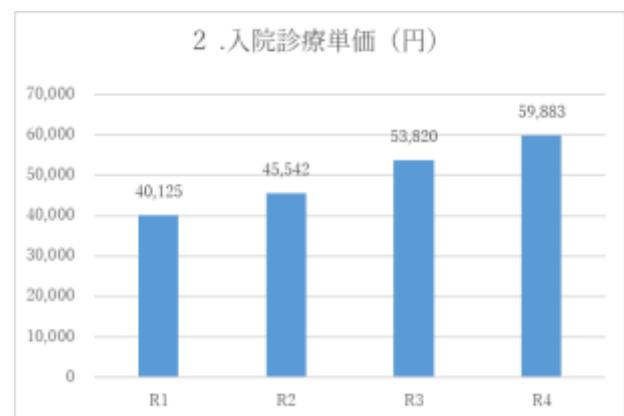
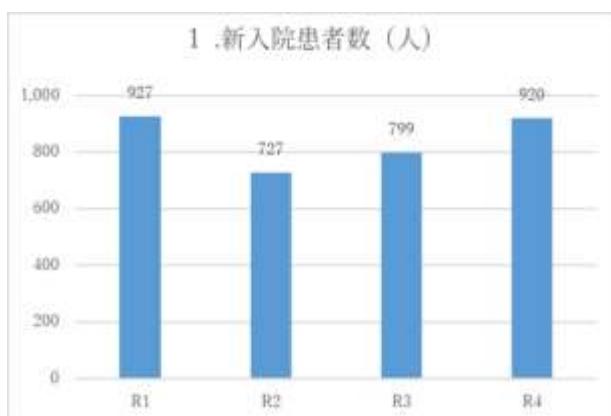
※ U07の3桁分類名については、便宜上COVID-19と表記。



第3 各部局の活動状況

呼吸器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
松岡洋人	主任部長	日本内科学会総合内科専門医・指導医
	呼吸器研究室室長	日本呼吸器学会専門医・指導医
	呼吸ケアセンター長	
馬越泰生	医長	日本内科学会総合内科専門医
田村香菜子	医長	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医 日本医師会認定産業医
樋口貴俊	医員	緩和ケア研修修了
小牟田清英	医員	

3. 診療概要

呼吸器内科は大阪府立結核療養所羽曳野病院の昭和48年からの新病棟業務開始より第4内科と中治療科が非がん呼吸器疾患の診療を開始することに始まる。呼吸不全を中心とした各種症例に対する包括的呼吸器ケアを掲げ診療を行ってきた。最近の画像診断の進歩に加え、呼吸器病理診断を自院で行うことによりびまん性肺疾患の診断にも重きを置いている。外来受診した間質性肺炎の病名のついた患者は500人以上にもなる。

慢性疾患看護専門看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が、外来、入院ともに急性期から慢性期まで呼吸器疾患患者に対する質の高い看護を提供し、他の看護師に対する教育や啓蒙、看護システム構築などを行っている。またアドバンス・ケア・プランニングや抗線維化薬投与開始においてもこれらの看護師が大いに関与している。さらに呼吸器リハビリテーションも専門的に行い、在宅酸素療法導入や酸素流量調整などにも寄与している。

在宅酸素療法（HOT）の処方数については230名程度となっている。高流量酸素を必要とする症例もあり、酸素濃縮器（7L機）を2台設置せざるを得ない場合もある。呼吸機能以外は保たれている症例の場合、高流量酸素でのHOTをすることにより入院の長期化を避け、在宅療養を可能とすることができる。

慢性定期のマスク型人工呼吸療法（NPPV）の処方数は30名程度で推移している。最近は疾病構造の変化から、肺結核後遺症などの拘束性胸郭疾患の新規導入が減少している。

平成12年から睡眠時無呼吸症候群に対する診療を行っている。CPAP処方数は90名程度である。

令和2年からは、新型コロナウィルス感染症の診療も行うこととなり、業務量がかなり増加した。当院では、酸素投与を要する中等症（II）の症例の入院要請が多くあった。また、慢性人工透析の必要な症例も受け入れた。その中でも、専門性を要する呼吸器診療は堅持できたと考える。

研究では、浜松医科大学、名古屋大学の主導するびまん性肺疾患、特発性肺線維症のデータベース構築（PROMISE試験、IBiS試験）に参加することとした。

4. 診療実績

延べ外来患者数 11,087人

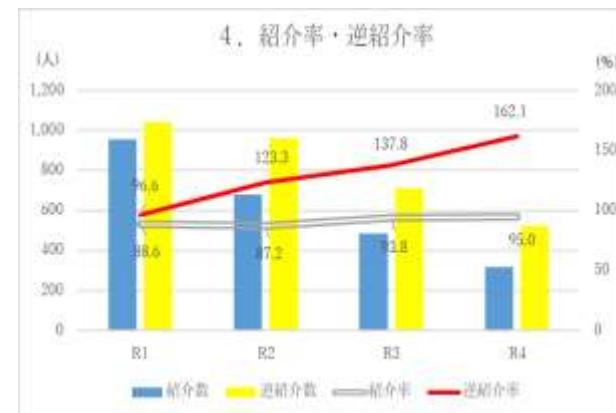
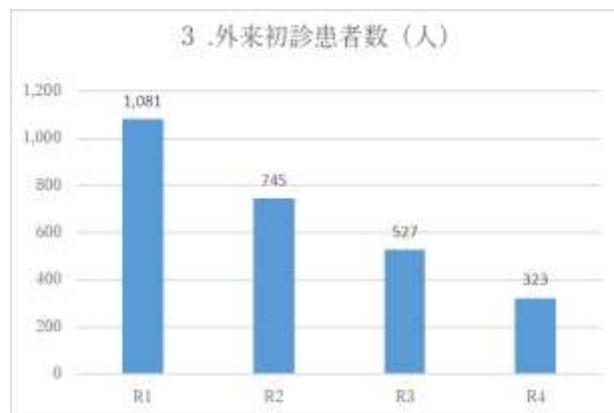
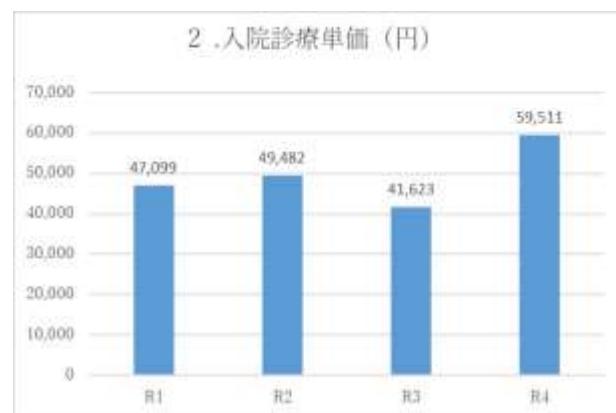
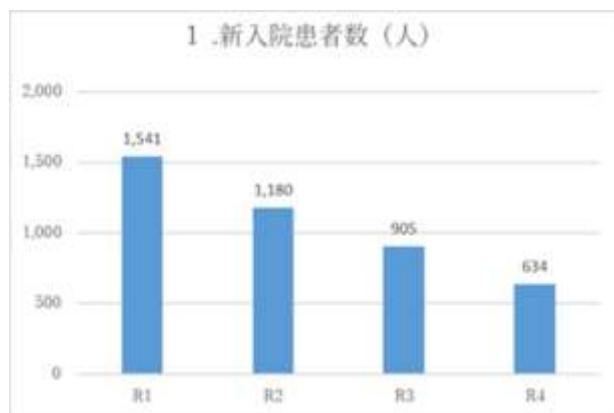
延べ入院患者数 14,101人

実入院患者数 920人

(主な疾患 間質性肺炎 176人、慢性閉塞性肺疾患 59人、睡眠時無呼吸症候群 52人、
肺がん 31人、肺炎・肺化膿症 218人、気管支喘息・気管支拡張症 9人、気胸
21人、COVID-19 204人 結核、肺非結核性抗酸菌症 15人 他)

肺腫瘍内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
鈴木秀和	主任部長	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
	外来化学療法科 主任部長	日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医 緩和ケア研修修了
佐藤真吾	診療主任	日本内科学会認定内科医、日本呼吸器学会専門医
森下直子	外来化学療法科 副部長	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医、緩和ケア研修修了
柳瀬隆文	医員	緩和ケア研修修了
岡部福子	医員	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

当科は呼吸器悪性腫瘍について、診断から終末期に至るまで他科および医療チームと連携しながら専門性の高い診療を行ってきた。これは世界的な Covid-19 感染症のなかでも継続された。診断に関しては最新の遺伝子パネル検査、免疫染色などを随時導入し常に標準治療を行える体制を整え、臨床試験にも積極的に参加してきた。今年度からはさらに幅広い呼吸器疾患への対応に配慮し、呼吸器内科との連携強化を目指している。

当科の特色としては診断の早い時期からの入院、外来を通じ、専門スタッフによるチーム医療が行われていることである。安全性に配慮し、原則として新規抗がん剤導入は入院にて行っている。最近は特にがん治療の外来の占める割合が大きくなっており外来化学療法についても充実してきている。

4. 診療実績

延べ外来患者数	7,144 人
延べ入院患者数	7,765 人
実入院患者数	634 人
(主な疾患	肺がん 527 人、その他の悪性腫瘍 24 人 他)
外来化学療法実施患者数	1,722 人

5. 業績

【論文】

Fujimoto Kosuke, Koyama Shohei, Naito Yujiro, Osa Akio, Hirai Takashi, Suzuki Hidekazu, Okamoto Norio, Shiroyama Takayuki, Nishino Kazumi, Adachi Yuichi, Nii Takuro, Kinugasa-Katayama Yumi, Kajihara Akiko, Morita Takayoshi, Imoto Seiya, Uematsu Satoshi, Irie Takuma, Okuzaki Daisuke, Aoshi Taiki, Takeda Yoshito, Kumagai Toru, Hirashima Tomonori, Kumanogoh Atsushi.Bronchoalveolar lavage fluid reveals factors contributing to the efficacy of PD-1 blockade in lung cancer.JCI Insight.7:e157915-e157915,2022.

Sato Yuki, Sumikawa Hiromitsu, Shibaki Ryota, Morimoto Takeshi, Sakata Yoshihiko, Oya Yuko,

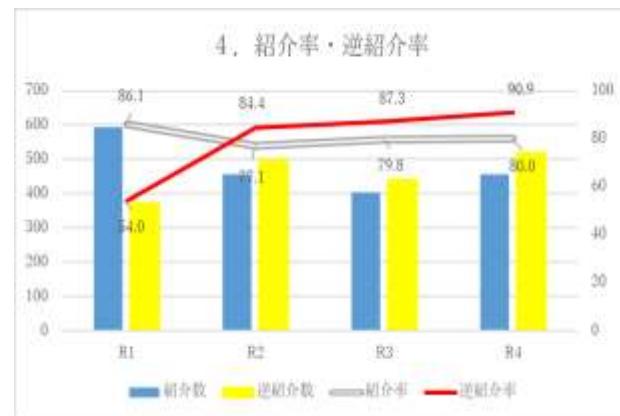
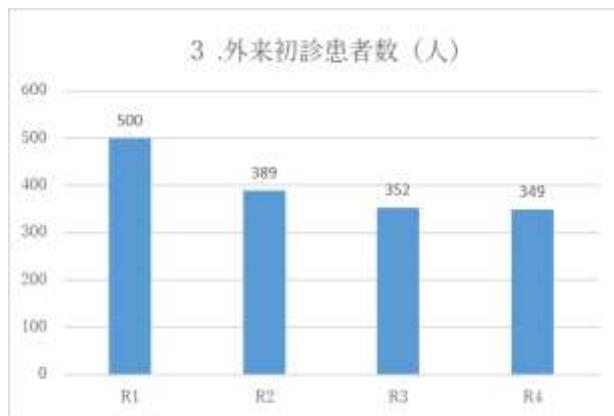
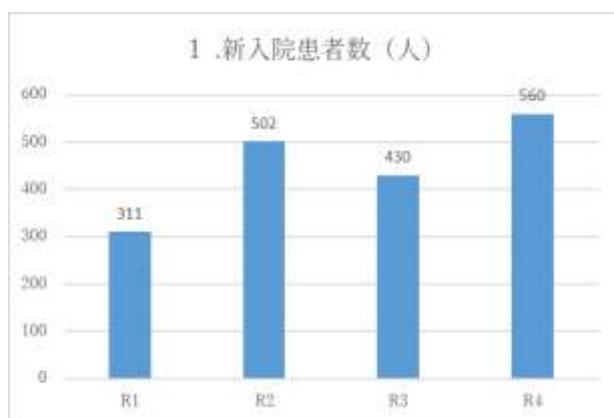
Tamiya Motohiro, Suzuki Hidekazu, Matsumoto Hirotaka, Yokoi Takashi, Hashimoto Kazuki, Kobe Hiroshi, Hino Aoi, Inaba Megumi, Tsukita Yoko, Ikeda Hideki, Arai Daisuke, Maruyama Hirotaka, Hara Satoshi, Tsumura Shinsuke, Sakata Shinya, Fujimoto Daichi. Drug-Related Pneumonitis Induced by Osimertinib as First-Line Treatment for Epidermal Growth Factor Receptor Mutation-Positive Non-Small Cell Lung Cancer: A Real-World Setting. *Chest* 162:1188-1198, 2022.

【学会発表】

小牟田清英, 橋口貴俊, 岡部福子, 柳瀬隆文, 佐藤真吾, 森下直子, 鈴木秀和. 内視鏡通過困難な全周性食道狭窄による嚥下困難を認めた肺腺癌食道転移の症例. 第 117 回日本肺癌学会関西支部会 令和 5 年 2 月 18 日, 大阪.

感染症内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
永井崇之	主任部長	日本感染症学会推薦 ICD
韓由紀	副部長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
北島平太	医員	日本内科学会認定医、日本エイズ学会認定医
仮屋勇希	医員	
田村嘉孝	臨床検査科主任部長 感染症センター長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
橋本章司	臨床研究センター長	日本感染症学会推薦 ICD、日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本感染症学会専門医・指導医、 日本結核・非結核抗酸菌症指導医 日本臨床研修協議会プログラム責任者

3. 診療概要

当科は肺抗酸菌感染症を中心に診療を行っており、大阪府下発生新規結核患者の約1/5、多剤耐性結核（初回治療例の0.5%）に関しては府下発生患者の約1/2を当院にて治療している。耐性結核蔓延防止の為には脱落をふせぐことが重要であり、多職種にて週1回の結核教室を定期開催し患者教育を継続的に実施している。患者教育の充実により脱落率は年間1%以下と良好な治療成績である。近年新規抗結核薬（多剤耐性専用薬）の開発にて、耐性結核の治療成績は劇的に改善している。

平成26年度～令和元年度における耐性結核治療成績は以下の通り

MDR（多剤耐性結核）21例；治癒15例、他疾患死亡1例、転院帰国4例、脱落1例

XDR（超多剤耐性結核）16例；治癒9例、他疾患死亡4例、転院帰国1例、脱落2例

37症例全例にて6ヶ月以内の排菌陰性化が得られた。

難治性肺MAC症に対して標準治療薬として吸入リポソーマルアミカシンが使用可能となった。

当院では15例（2023/7）の使用経験を有する。

結核の早期診断/治療などの情報を発信、講演を中心とした啓蒙活動を継続している。また結核早期診断を目的とした、新たな診断ツール（核酸増幅法）の開発研究を民間企業と合同で行っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 8,313人

延べ入院患者数 18,511人

実入院患者数 560人

(主な疾患 肺結核、結核性胸膜炎など182人、肺非結核性抗酸菌症 44人、肺アスペルギルス症 16人、COVID-19 168人 他)

5. 業績

【学会発表】

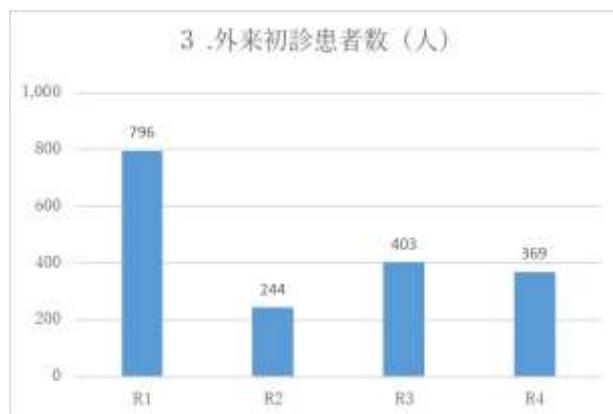
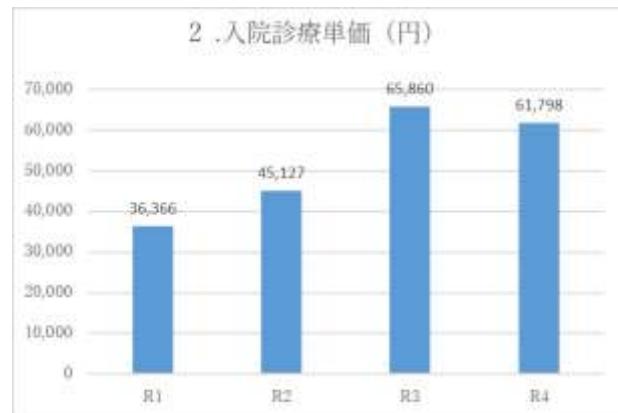
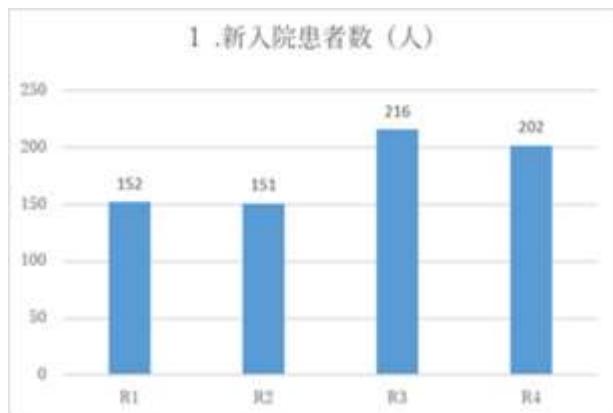
仮屋勇希, 永井崇之, 田村嘉孝, 韓由紀, 橋本章司.肺 MAC 症で経過観察中に生じた *Mycobacterium fortuitum* による有瘻性膿胸の 1 例. 第 97 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 令和 4 年 7 月 1-2 日, 北海道.

【著作・著書】

田村嘉孝.集学的結核治療.基礎からわかる結核診療ハンドブック.(御手洗聰、斎藤武文) 中外医学社, 東京, pp.249-255, 2022.

アレルギー・リウマチ内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
源 誠二郎	主任部長	日本内科学会認定医、日本アレルギー学会専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医、日本リウマチ学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
松野 治	部長	日本内科学会総合内科専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医・指導医
石田 裕	診療主任	日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医、緩和ケア研修修了
緒方 篤	副院長	日本内科学会認定医・総合内科専門医、 日本リウマチ学会専門医・指導医、日本リウマチ財団登録医、 難病指定医、日本臨床免疫学会免疫療法認定医、 日本医師会認定産業医、緩和ケア研修修了、 臨床研修プログラム責任者養成講習会修了

3. 診療概要

当科では、気管支喘息を中心とした呼吸器アレルギー疾患（アレルギー性気管支肺アスペルギルス症（ABPA）、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）など）を大きなテーマとして診療を行っている。気管支喘息の診療患者数は大阪府下では最も多く、全国でもトップクラスの症例数を診療している。治療方針としては、吸入指導の徹底を基本として喘息治療を行い、重症患者に対しては抗体製剤の使用を行って、よりよいコントロール状態をめざしている。

また、リウマチ性疾患として、関節リウマチや膠原病などの診療を行っている。これらの疾患を適切に管理できる施設は、大阪府下でも限られている。アレルギー性疾患に加えて、リウマチ性疾患も、受診患者数が徐々に増えている。令和3年度より、新たに2名の日本リウマチ学会専門医が加わって、より一層の充実した診療が行えるようになった。

令和4年度は、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延で、最前線で、COVID-19患者の対応を、呼吸器関連内科の一つとして担当した。そのような状況下で、病棟などの診療体制が大きく変わり、今までの診療を維持することが難しくなっているなかでも、当科として、喘息やリウマチ性疾患などの診療に支障が出ないよう努めた。

4. 診療実績

延べ外来患者数 8,787人

延べ入院患者数 3,154人

実入院患者 202人

(主な疾患 気管支喘息・咳喘息 26人、関節リウマチ・膠原病 23人、アナフィラキシー 6人
他)

以下の設備も整え、呼吸器アレルギー疾患の診療経験が豊富な医師が適切に診断・診療している。

●精密呼吸機能検査 ●呼気一酸化窒素(FeNO)の測定 ●高分解能 CT 検査

●アストグラフを用いた気道過敏性テスト ●モストグラフによる呼吸抵抗の測定

●FACS スキヤン ●皮膚テスト ●関節エコー

5. 業績

【論文】

Matsuno O, Minamoto S.COVID-19 in a patient with severe eosinophil asthma on benralizumab therapy: A case report and review of literature.Cureus13:e20644-,2021.

Matsuno O, Minamoto S.Benralizumab monotherapy was insufficient to induce remission in patients with active eosinophilic granulomatopuos with polyangitis.Respir Med Case Report40:101763-,2022.

Nomura N, Matsumono H, Yokoyama A, Nishimura Y, Asano K, Niimi A, Tohda Y, Harada N, Nagase H, Nagata M, Inoue H, Kondo M, Horiguchi T, Miyahara N, Hizawa N, Hojo M, Hattori N, Hashimoto N, Yamasaki A, Kadokami T, Kimura T, Miki M, Taniguchi H, Toyoshima M, Kawamura T, Matsuno O, Sato Y, Sunadome H, Ngasaki T, Oguma T, Hirai T.BEXAS study. Nationwide survey of refractory asthma with bronchiectasis by inflammatory subtypes.Respir Res 23:23-,2022.

【学会発表】

松野 治.Triple therapy が適する患者像を考える.第6回日本呼吸ケアリハビリテーション学会 近畿支部学術集会 ランチョンセミナー 令和4年7月30日, 神戸(WEB).

松野 治.重症喘息の好酸球性炎症から考える難治化病態とその治療.第7回日本アレルギー学会近畿地方会 ランチョンセミナー 令和4年6月5日, 姫路.

緒方 篤.COVID-19 に対する治療（抗ウイルス、抗炎症）.第66回日本リウマチ学会総会学術集会 令和4年4月25-27日, 横浜(WEB).

【著作・著書】

石田 裕, 緒方 篤.IL-6 阻害薬による関節リウマチ.リウマチ科.:東京-67,21191262022 雜誌.

石田 裕, 緒方 篤.トシリズマブ.日本臨床増刊号 最新関節リウマチ学（第2版）-寛解・治癒を目指した研究と最新治療-.:東京-80,44034082022 雜誌.

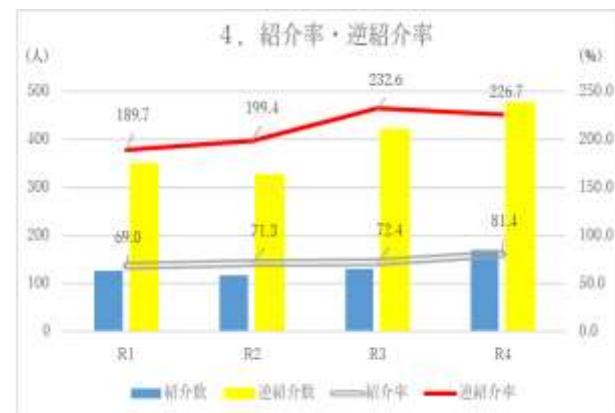
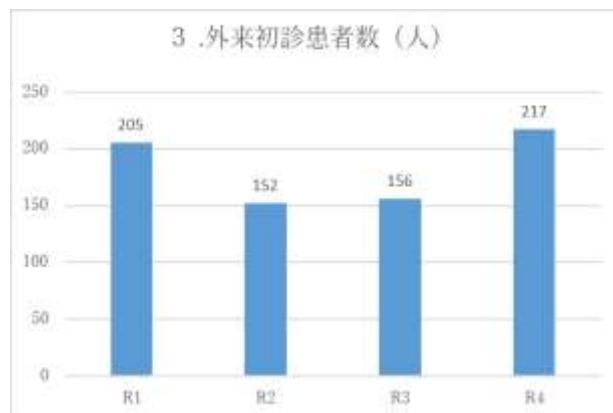
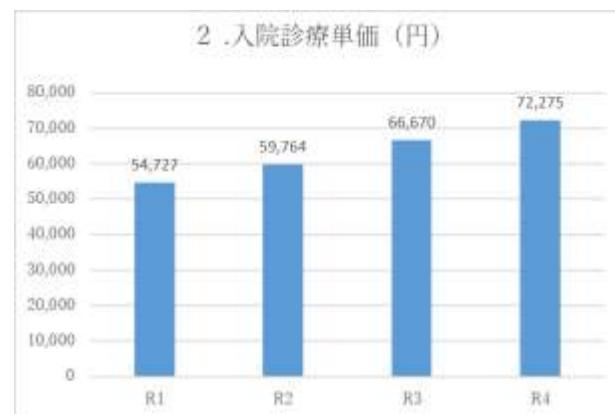
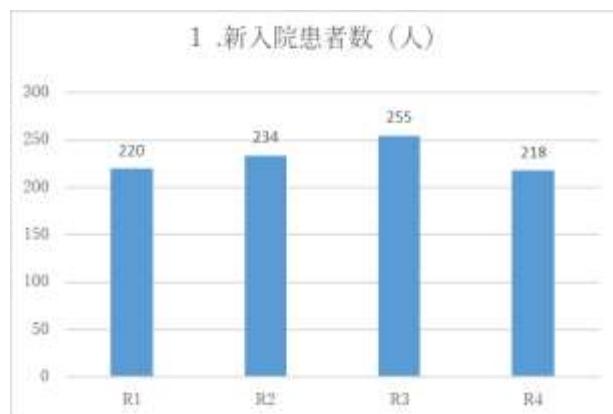
阿古目 純, 渡邊祥奈, 益田知可子, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子, 松野 治.両足背に難治性皮膚潰瘍を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例.皮膚の科学.:大阪-21,1612022 雜誌.

【啓発・研修活動】

松野 治.Dupilumab 投与後に末梢血好酸球数が著増した症例の検討.第7回臨床アレルギーセミナー in はびきの（当院）.

循環器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
原田光一郎	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医・臨床内科指導医 日本循環器学会専門医、Fellow of Japanese Circulation Society 日本血管インターベーション治療学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導医、日本脈管学会専門医、日本循環器学会 ITC-ACLS インストラクター、日本救急医学会 ICLS インストラクター、日本内科学会 JMECC インストラクター、日本静脈学会弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター、日本医師会認定産業医、身体障害者福祉指定法（心臓機能障害）、大阪府難病指定医、臨床研修指導医、緩和ケア研修修了、心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了
江角 章	教育研究センター長 部長	日本内科学会認定医・日本内科学会総合内科専門医、 日本循環器学会専門医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医、緩和ケア研修修了
原田 博	副部長	緩和ケア研修修了
井内敦彦	副部長	日本心血管インターベンション治療学会認定医、 日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、臨床研修指導医、緩和ケア研修修了

3. 診療概要

虚血性心疾患をはじめとする心血管疾患を中心に、肺循環疾患を含め循環器疾患全般にわたる診療を行っている。

身体障害者福祉法に基づく心臓機能障害認定診断を行っている。

- 虚血性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、不整脈などの心臓疾患及び肺高血圧、肺循環障害
- 急性心臓疾患（急性心筋梗塞、不安定狭心症、重症不整脈など）に対する集中治療
- 冠動脈疾患、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療
- 心房細動など不整脈に対するアブレーション治療
- 高血圧症、高脂血症、循環器系生活習慣病など

令和元年度より、外来診療体制の充実のため、外来診療を月、火、金に2診体制とした。

令和4年10月から原田光一郎医師が着任し、4名体制となった。

3. 診療実績

延べ外来患者数 4,650人

延べ入院患者数 3,419人

実入院患者数 218人

(主な疾患 心不全94人、狭心症33例、不整脈23例、心筋梗塞・心筋症4例、肺動脈血栓症静脈血栓症4例、肺高血圧症2例 他)

各種件数	心臓カテーテル検査	68 件
	PCI	17 件
	ペースメーカー新規埋込	11 件
	アブレーション	5 件

冠動脈疾患、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療、不整脈に対するアブレーション治療、ペースメーカー植込術、心不全治療に取り組んでいる。地域医療支援病院の循環器診療部門として地域医療に貢献している。また、心房細動など不整脈に対するアブレーション治療も積極的に行っている。

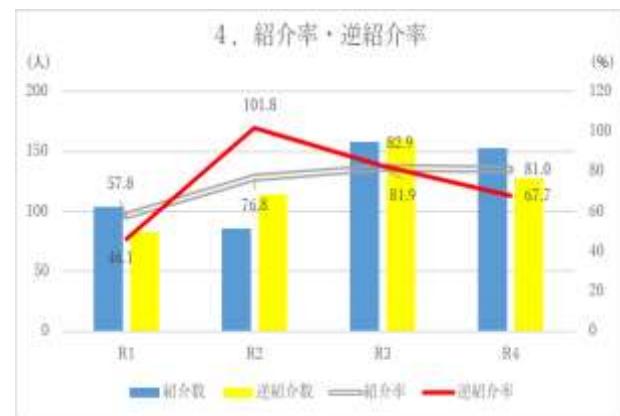
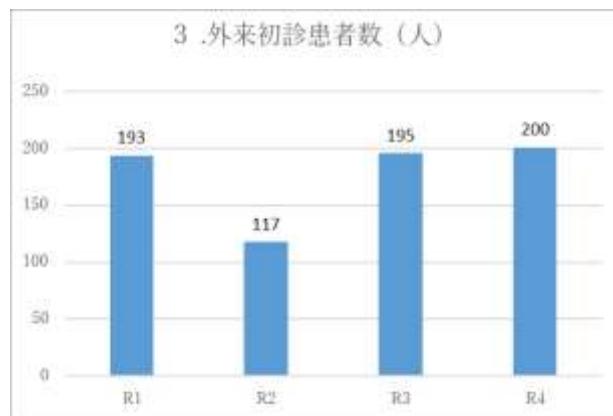
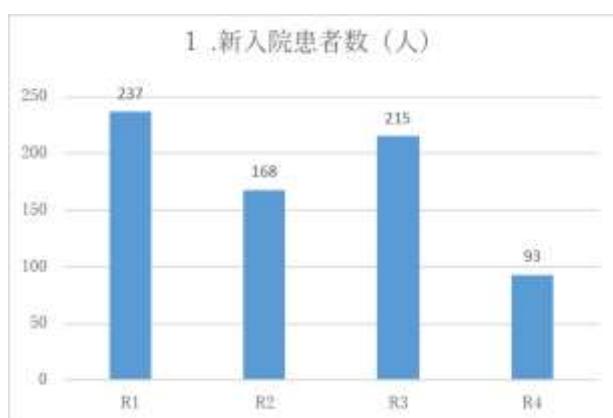
4. 業績

【啓発・研修活動】

原田光一郎, 田中克弥, 冠野昂太郎.心臓 MRI 検査を使用し、繰り返す一過性意識障害の原因を推定し得た冠攣縮性狭心症疑診の 1 例.第 39 回日本心血管インターベンション治療学会 令和 4 年 10 月 8 日,大阪.

消化器内科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
前山晋吾	部長	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本内科学会内科指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器内視鏡学会上部消化管内視鏡スクリーニング認定医 日本消化器内視鏡学会大腸内視鏡スクリーニング認定医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本肝臓学会肝臓暫定指導医 日本医師会認定産業医 大阪府難病指定医 嚥下機能研修修了 緩和ケア研修修了

3. 診療概要

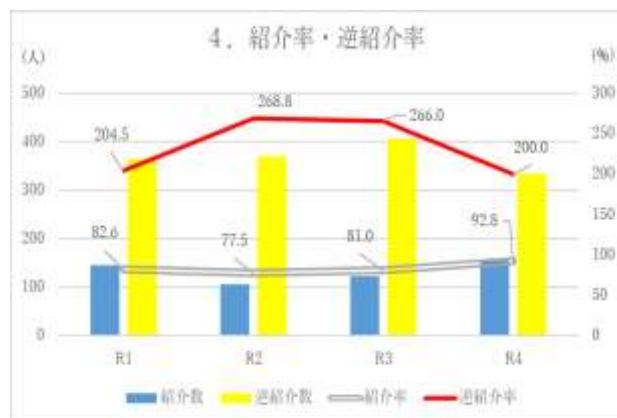
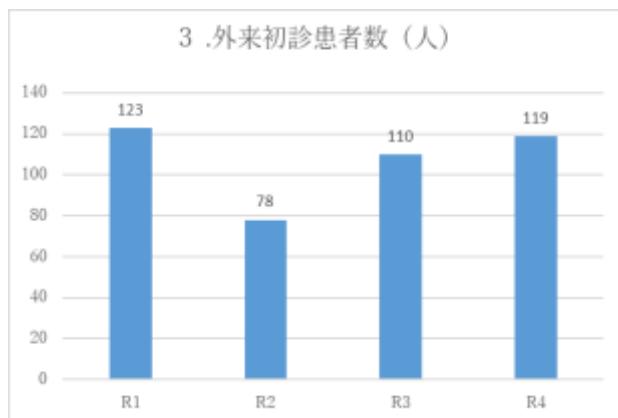
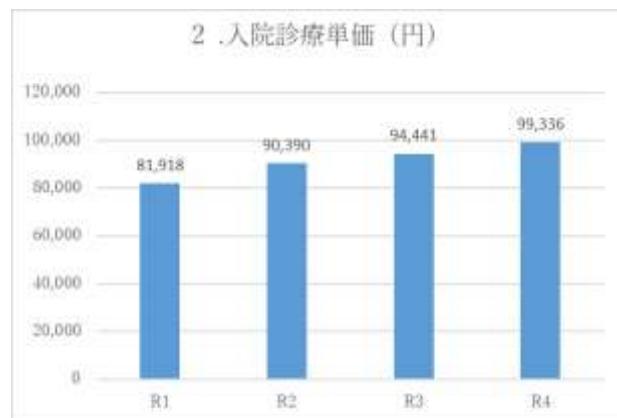
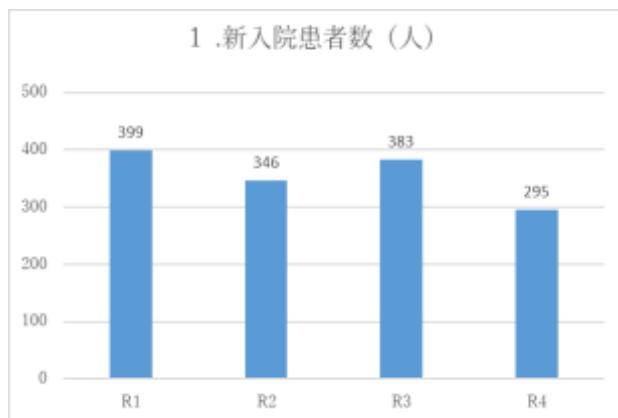
当科は、主に消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸など）疾患に対する消化器内視鏡検査、消化器内視鏡治療、薬物治療を行っている。消化管関連がんに対しては、進行度に応じて消化器外科、肺腫瘍内科、放射線科と連携し消化器内視鏡治療、腹腔鏡下手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っている。肝臓、胆嚢、脾臓疾患に関しても、エコー検査、CT検査、MRI検査、薬物治療を組み合わせた診断治療を行っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数	3,864人
延べ入院患者数	607人
実入院患者数	93人
(主な疾患	大腸ポリープ 40人、胃がん 2人、大腸がん 1人、胆管結石・胆管炎 7人、その他消化器疾患 38人 他)

呼吸器外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
門田嘉久	主任部長	日本外科学会専門医・指導医、日本胸部外科学会認定医
	気胸センター長	日本呼吸器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		がんリハビリテーション研修修了、大阪大学医学部臨床教授
北原直人	副部長	日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
杉浦裕典	医員	緩和ケア研修修了
安藤紘史郎	医員	緩和ケア研修修了
福山 馨	医員	緩和ケア研修修了
上山廉起	レジデント	

3. 診療概要

主な診療対象疾患は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、囊胞性肺疾患・気胸、炎症性肺疾患、膿胸などである。

肺癌に対しては約 120 例の手術が施行された。画像診断の進歩に及び高齢者人口の増加により小型肺癌が増加しており低侵襲手術のニーズが高まっている。

当科では胸腔鏡手術を積極的に行っている。肺癌手術の胸腔鏡手術は約 80% を占めた。縦隔疾患、気胸、肺囊胞手術では 90% を超える症例で胸腔鏡下手術を行った。1 期肺癌に対して単項式胸腔鏡手術を導入しさらに治療の低侵襲化をすすめている。今年度も引き続き入院診療の効率化をすすめ、入院期間の短縮をはかることができた。

進行肺癌に対しては肺腫瘍内科・放射線科と連携し外科治療を含む集学的治療を行っている。また COPD、間質性肺臓炎、結核などの呼吸器合併症や高齢者に多い心、肝、腎、糖尿病などの合併症による耐術能低下を伴う症例に対しても縮小手術による外科治療を積極的に行っている。また癌の進行にともなう中枢気道を狭窄には肺腫瘍内科及び麻酔科の協力の下に全身麻酔下に硬性気管支鏡を用いた気道ステント挿入術とバルーン拡張術を行っている。

耐性結核、NTM、肺真菌症などの難治性の感染症には病勢コントロールを目的とした外科治療が依然求められており、高度な技術を要する対象となっている。急性膿胸には積極的な治療介入により治療期間の短縮を図ることが出来ている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 6,470 人

延べ入院患者数 4,767 人

実入院患者数 295 人

(主な疾患 肺がん 142 人、 気胸 65 人、 炎症性肺疾患 34 人、 縦隔腫瘍 6 人 他)

手術件数 239 件

(主な手術 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 94 件、 胸腔鏡下肺切除術 52 件、 肺悪性腫瘍手術 22 件
肺切除術 4 件 他)

5. 業績

【論文発表】

杉浦裕典, 安藤紘史郎, 福山 馨, 北原直人, 門田嘉久.胃癌周術期に低血糖症状が顕著となった孤立性纖維製胸膜腫瘍の1例.日本呼吸器外科学会雑誌.36.827-832.2022

【学会発表】

杉浦裕典, 北原直人, 安藤紘史郎, 福山 馨, 上山廉起, 門田嘉久.縦隔奇形種の手術アプローチについての検討.日本肺癌学会総会(63) 令和4年12月2日, 福岡.

福山 馨, 北原直人, 安藤紘史郎, 杉浦裕典, 門田嘉久.第1肋間から胸腔ドレナージを施行した2症例.日本呼吸器外科学会学術集会総会(39) 令和4年5月20日, 東京.

北原直人, 門田嘉久, 永井崇之.当院における胸囲結核に対する外科治療の検討.日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会(97) 令和4年7月2日, 旭川.

北原直人, 門田嘉久, 永井崇之.多発する胸囲結核に対し切除後局所陰圧療法を施行した1例.日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会(98) 令和4年7月1日, 旭川.

北原直人, 安藤紘史郎, 福山 馨, 杉浦裕典, 上山廉起, 門田嘉久, 太田三徳.良性腫瘍による気道狭窄に対するアプローチ.日本胸部外科学会学術集会(75) 令和4年10月8日, 横浜.

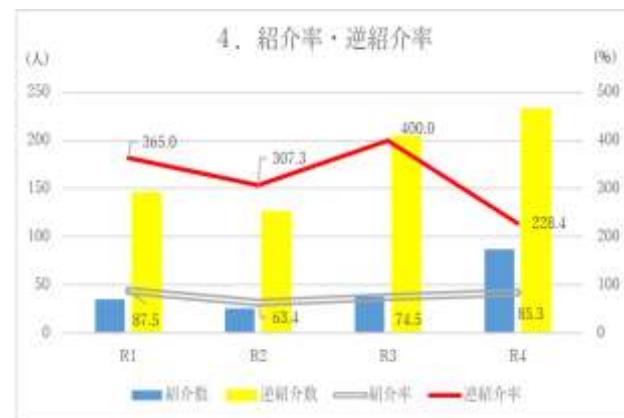
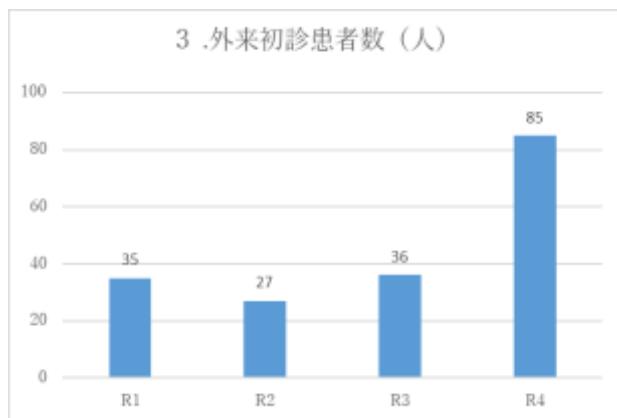
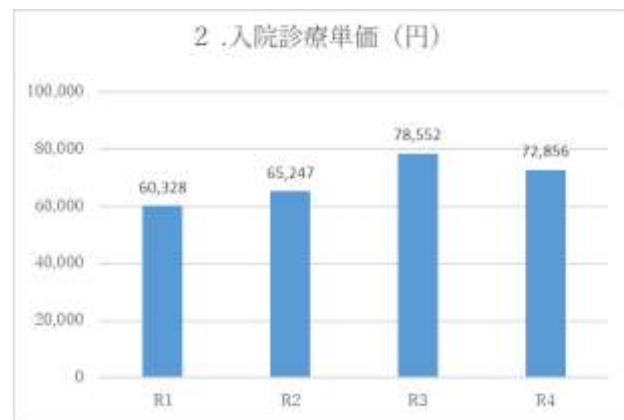
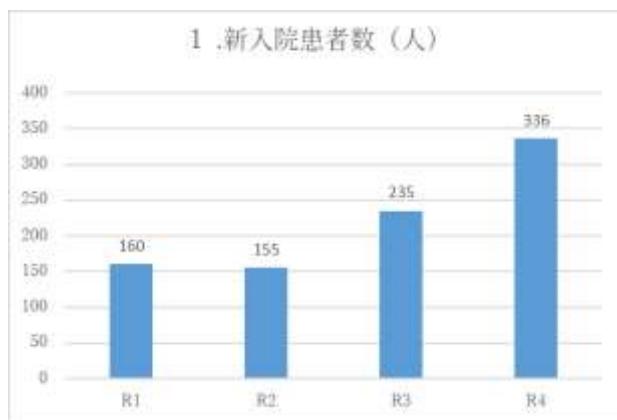
北原直人, 安藤紘史郎, 福山 馨, 杉浦裕典, 上山廉起, 門田嘉久.高齢者肺癌再治療における手術症例の検討.日本肺癌学会総会(63) 令和4年12月1日, 福岡.

安藤紘史郎, 北原直人, 福山 馨, 杉浦裕典, 門田嘉久.右肺下葉に発生し、原発性肺癌肺内転移との鑑別を要した Ciliated muconodular papillary tumor の1切除例.日本呼吸器外科学会学術集会総会(39) 令和4年5月20日, 東京.

安藤紘史郎, 北原直人, 福山 馨, 杉浦裕典, 門田嘉久.肺癌との鑑別を要したすりガラス影を呈する Ciliated muconodular papillary tumor の1切除例.日本肺癌学会総会(63) 令和4年12月1日, 福岡.

消化器外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
宮崎 知	主任部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定取得 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医 臨床研修指導医、日本肝胆脾外科学会・近畿外科学会評議員、 緩和ケア研修修了
池田公正	部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 難病指定医、臨床研修指導医、臨床研修・治験従事者研修終了 医療コンフリクトマネジメント研修終了 がんリハビリテーション研修修了、緩和ケア研修終了
酒田和也	副部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医 日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会専門医（外科） 近畿外科学会評議員、緩和ケア研修修了
野間俊樹	診療主任	緩和ケア研修終了
西 秀美	診療主任	日本外科学会認定医・専門医、日本消化器外科認定医・専門医・消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、JATEC・JPTEC プロバイダー、マンモグラフィ読影認定医、緩和ケア研修修了

3. 診療概要

平成 28 年 3 月までは消化器乳腺外科として近畿大学外科学教室からの派遣であったが、平成 29 年 1 月より大阪大学消化器外科教室からの派遣となり、4 月から乳腺外科は独立して近畿大学からの派遣となった。令和 4 年度は、主任部長 宮崎 知（昭和 59 年卒）、部長 池田公正（平成元年卒）、副部長 酒田和也（平成 7 年卒）、診療主任 野間俊樹（平成 22 年卒）、西秀美（平成 23 年度卒）の常勤医 5 名で診療を行った。近年は消化器外科も専門臓器別の診療が行われるようになり、上部消化管・一般外科は宮崎、上部消化管・ヘルニアは野間、肝胆脾・ヘルニアは西、下部消化管は池田・酒田が担当した。肝胆脾領域の悪性腫瘍は長年高次医療機関に紹介していたが西医師が着任してから、大阪大学の応援を頂き、腹腔鏡下の肝臓切除も可能となった。

また、令和 3 年度より腹部救急の診療を開始し、消化器内科、消化器外科、泌尿器科、婦人科疾患と協力しての救急疾患に対応している。

長年不在であった消化器内科医が令和 3 年度より常勤医として 2 名赴任し、消化器内科の外来診察及び消化管内視鏡検査が毎日施行が可能となった。令和 4 年度から再度常勤医は不在となり、大阪大学、兵庫医大の支援により非常勤医師による消化器内科診療、内視鏡検査をおこなった。10 月からは常勤医 1 名が赴任した。

消化管内視鏡検査の光学技術の向上に伴い、従来発見できなかった早期癌の診断が可能となり、当科でも早期胃癌の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を施行している。

令和4年度の手術症例数は187例であった。ポート留置は手術場に透視装置が無く放射線科のTV室で19例を行った。当科で手術例の特徴は低肺機能症例が少なからず含まれるが、麻酔科、集中管理科の協力により術後経過に特に大きな合併症は認めなかった。コロナ禍は現在5類へ移行したが当院では入院時全例PCR検査を施行し、周術期にコロナ感染患者は認めていない。

手術枠については、予定手術は木曜日の1日枠のみであったが手術症例数や併存合併症により調整枠の火曜日を最大限利用している。手術死亡は幸い認めなかった。胃癌術後縫合不全1例、急性胆囊炎合併腹腔内出血はいずれもICU管理となつたが無事に退院した。胃瘻造設術は内視鏡室で行い、依頼の多い結核患者は放射線6撮影室で行った。

入院診療については、手術患者は2A病棟で診療し、下部内視鏡検査入院、化学療法や再発症例等は新型コロナ患者の受け入れ前は10B病棟であったが、現在は10A病棟で診療にあたり、結核患者は11Aで診療を行った。

外来診療については、月曜日を宮崎（上部消化管）・池田（下部消化管）・野間（上部消化管・ヘルニア）、水曜日を西（ヘルニア）、金曜日を酒田（下部消化管）が担当した。令和4年度は胃癌、大腸癌以外の鼠径ヘルニア、虫垂炎、腹壁瘢痕ヘルニアに対しても極力腹腔鏡下の手術を施行している。食道裂孔ヘルニアに対しても2021年から腹腔鏡下手術を導入し、2022年からは胆嚢癌や肝臓癌にも腹腔鏡手術を導入している。

4. 診療実績

延べ外来患者数 2,824人

延べ入院患者数 4,132人

実入院患者数 336人

(主な疾患 大腸がん80人、胃がん31人、胆管結石・胆管炎35人、大腸ポリープ1人、ヘルニア26人、腸閉塞11人、消化管穿孔性疾患10人、虫垂炎14人 他)

手術件数 187件

(主な手術 直腸切除術21件 腹腔鏡下直腸切除術9件

結腸切除術21件 腹腔鏡下結腸切除術12件

胃全摘術3件 胃切除術4件 腹腔鏡下胃切除術2件

ヘルニア手術16件 腹腔鏡下ヘルニア手術12件

胆嚢摘出術3件 腹腔鏡下胆嚢摘出術27件

虫垂切除術6件 腹腔鏡下虫垂切除術5件 他)

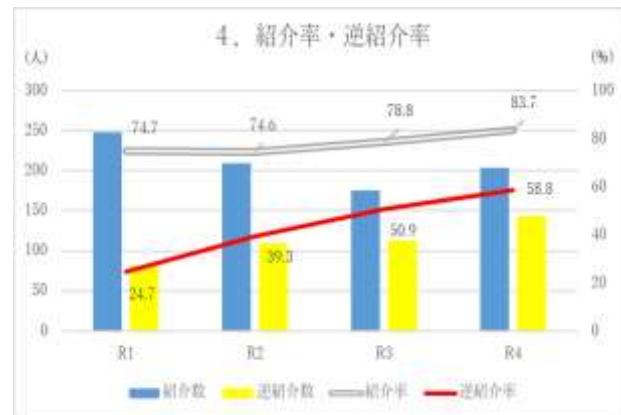
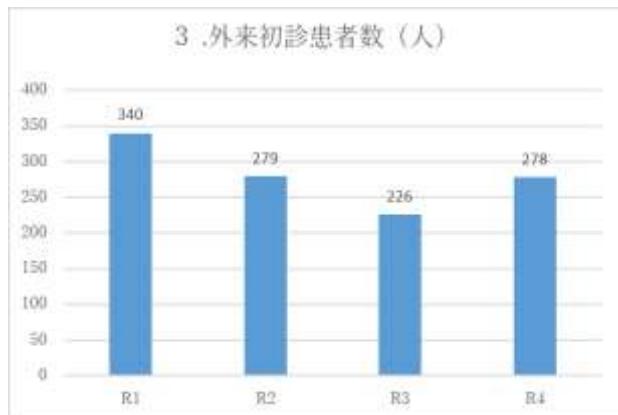
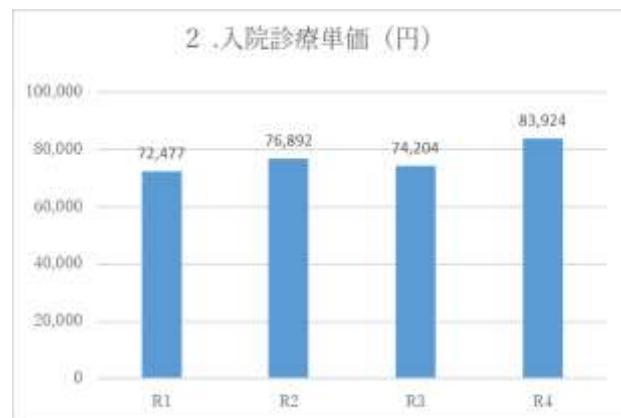
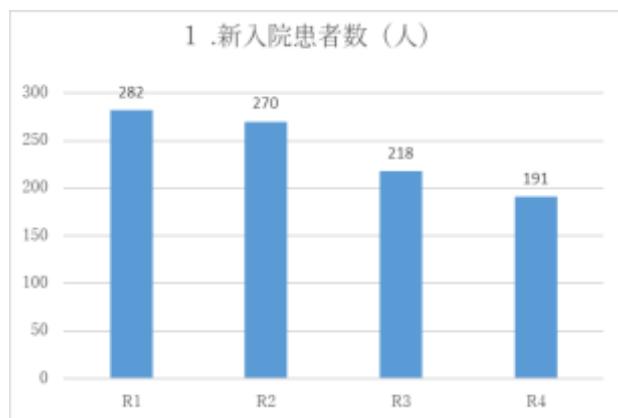
5. 業績

【学会発表】

西谷暁子、池田公正、酒田和也、野間俊樹、宮崎 知. 3次治療 nivolumab が奏功し conversion surgery が施行し得た進行胃癌の1例. 第44回日本癌局所療法研究会 令和4年7月1日, 大阪.

乳腺外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
安積達也	主任部長	日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	兼乳腺	マンモグラフィ読影認定医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
	センター長	乳腺超音波技術認定医、日本医師会認定産業医

2. 診療概要

当科では、乳腺疾患や甲状腺疾患の診断治療を行っている。

乳腺疾患では乳癌検診の一次検診および二次検診をはじめとし、乳腺疾患の診断・治療、乳癌の診断・治療を行っている。

乳癌の診断としては、マンモグラフィーやエコー等の画像検査を始め、穿刺細胞診や針生検、吸引式針生検を行い、迅速・確実に病理診断を行う事を心がけている。

乳癌の治療としては、当センターは日本乳癌学会の認定施設であり、乳癌の治療について、手術および放射線治療、薬物療法を同一施設で行っており、乳癌術後の乳房再建手術については、近畿大学形成外科の協力のもと、自家組織を用いた乳房再建を乳癌手術と同時に行っている。

乳癌術後や乳癌の再発の治療として、薬物療法（化学療法、ホルモン療法）も行っている。

また遺伝性乳癌卵巣癌症候群についても、遺伝カウンセラーによる定期的な遺伝カウンセリングを行うことが可能となり、また BRACAnalysis 診断システムによる検査も行うことが出来る体制が整っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数 6,967 人

延べ入院患者数 1,452 人

実入院患者数 191 人

(主な疾患 乳がん 177 人、乳房の良性腫瘍 10 人 他)

乳がん手術 65 例 吸引式乳腺組織生検 29 例 他

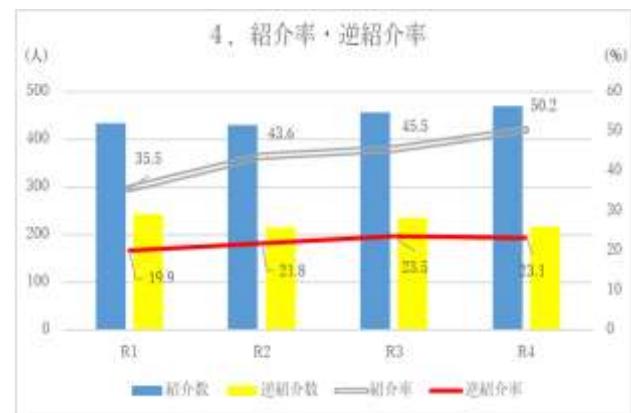
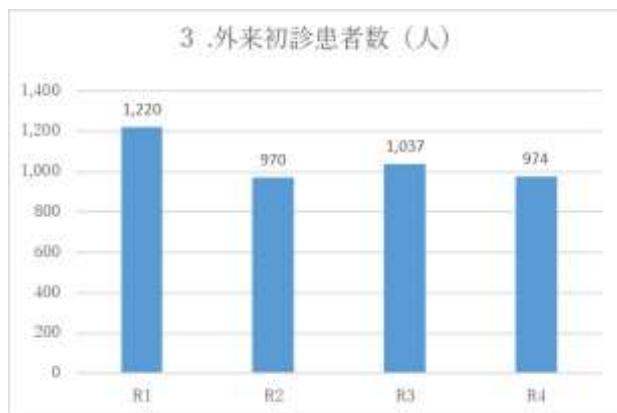
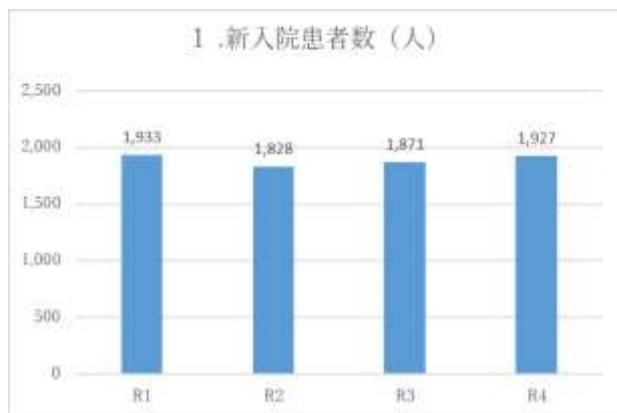
4. 業績

【学会発表】

安積達也.CDK4/6 阻害剤の内服指導について.第 30 回日本乳癌学会学術総会 令和 4 年 6 月 30 日-7 月 2 日,横浜.

産婦人科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
赤田 忍	主任部長	奈良県立医科大学臨床教授、奈良県立医科大学非常勤医師 日本産婦人科学会認定指導責任者、産婦人科専門医、母体保護法指定医 難病指定医
安川久吉	副部長	日本産婦人科学会認定指導医、産婦人科専門医、母体保護法指定医
長安実加	医長	日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医 日本内視鏡外科学会技術認定（産科婦人科） 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
小川憲二	診療主任	日本産婦人科学会認定指導医、母体保護法指定医、超音波専門医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、臨床研修指導医
中野和俊	診療主任	日本産婦人科学会認定専門医、母体保護法指定医、超音波専門医 日本胎児心臓病学会胎児エコー認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
梶西実加	診療主任	日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医 緩和ケア研修修了
坂元優太	レジデント	

3. 診療概要

勤務体制の面では、令和4年4月に西川恭平先生が大学へ異動となり、その交代で後期研修医である坂元優太先生が奈良医大から赴任された。西川先生が新たに非常勤医師となり、岩井加奈先生、脇啓太先生、智多先生昌哉先生に加え、非常勤4名となり、4月時点では常勤5名(指導医4名)+非常勤4名体制となった。9月に小川憲二医師が退職となり、10月より長安実加医師と後期研修医である梶西実加医師が新しく常勤医師に加わり、常勤6名(指導医4名)+非常勤4名体制となつた。

診療の面では、婦人科悪性腫瘍に関しては、長安先生が加わり、赤田部長を中心に悪性腫瘍手術は例年通り実施できた。内視鏡専門医である長安先生のお陰で、内視鏡手術を中心とした良性手術も例年どおりに実施できた。産科分野では、無痛分娩の恩恵が大きく、分娩件数を例年なみに維持できた。産科スタッフのお陰で大きな事故なく無痛分娩を提供できている一方で、増えていく無痛分娩に対して不安の残る1年でもあった。COVID-19感染が長引く中、COVID-19感染妊婦の経腔分娩も実施できるようになってきた。また、積極的に治験にも参加できた1年でした。

4. 診療実績

延べ外来患者数 24,871人

延べ入院患者数 12,137人

実入院患者数 1,927人

(主な疾患 子宮がん 109人、卵巣・卵管がん 106人 他)

分娩件数	958 件（うち無痛分娩 254 件）
手術件数	645 件（うち腹腔鏡下手術 181 件、子宮鏡下手術 75 件）

患者さんの QOL を考慮した腹腔鏡を中心とした内視鏡手術や円錐切除などの日帰り手術、根治性を目指した悪性腫瘍手術、PARP 阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤を積極的に取り入れた化学療法、満足度の高い無痛分娩を行っている。産婦人科でお困りの際は当センターへご相談ください。

5. 業績

【論文】

西川恭平, 中野和俊, 小川憲二, 安川久吉, 河原邦光, 赤田 忍.奇形腫から発生したと考えられた大腸型の腸型腺癌の1例.産婦人科の進歩.74:171-178,2022.

【学会発表】

坂元優太, 中野和俊, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.SET パターンを認めた HRD の卵巣癌の1例.第 146 回近畿産科婦人科学術集会 令和 4 年 6 月 18 日-19 日,京都.

中野和俊, 坂元優太, 智多昌哉, 小川憲二, 安川久吉, 上田佳世, 赤田 忍.胎胞脱出に対し待機管理中に絨毛膜羊膜炎となり、急激に敗血症性ショックに至った1例.第 8 回南大阪地区産婦人科研究会 令和 4 年 7 月 9 日, 大阪.

安川久吉, 中野和俊, 小川憲二, 西川恭平, 藤田由布, 赤田 忍.当センターの飛び込み無痛分娩の現状について.第 58 回日本周産期・新生児学会学術集会 令和 4 年 7 月 10 日-12 日(ポスター),横浜.

西川恭平, 藤田由布, 中野和俊, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.当院での Niraparib に使用経験について.第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術集会 令和 4 年 7 月 14 日-16 日(ポスター),久留米.

安川久吉, 小川憲二, 中野和俊, 西川恭平, 藤田由布, 赤田 忍.当センターの“飛び込み無痛分娩”的現状.第 74 回日本産科婦人科学会学術集会 令和 4 年 8 月 5 日-7 日(ポスター),福岡.

Kazutoshi Nakano, Kyouhei Nishikawa, Yu Fujita, Kenji Ogawa, Hisayoshi Yasukawa, Shinobu Akada.Sudden onset pneumothorax in the intrapartum period.第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 4 年 8 月 5 日-7 日(ポスター),福岡.

西川恭平, 中野和俊, 藤田由布, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.当院での Niraparib に使用経験について.第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 4 年 8 月 5 日-7 日(ポスター),福岡.

坂元優太, 中野和俊, 智多昌哉, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.無痛分娩後に判明した後腹膜血腫の1例.第 147 回近畿産科婦人科学術集会 令和 4 年 10 月 30 日(口演),京都.

第3 各部局の活動状況 1. 診療各科 産婦人科

坂元優太, 中野和俊, 穂西実加, 長安実加, 安川久吉, 赤田 忍.帝王切開時の弛緩出血に対して子宮圧迫縫合法で止血を得た1例.令和4年大阪産婦人科医会南河内ブロック年末勉強会 令和4年12月3日(口演), 大阪.

安川久吉.当センターの無痛分娩の軌跡.第16回はびきやまセミナー, 令和4年12月7日(口演), 大阪.

中野和俊, 秋葉洋平, 小川紋奈.初期出生前検査.日本産婦人科超音波研究会(JSUOG)第3回超ベーシックサマーセミナー 令和4年8月20日(口演), 東京.

中野和俊.Lecture 25CVと3VVと3VTV.第29回胎児教育遠隔研究会 TC-STIC Basic Seminar 令和4年9月18日(口演), WEB.

中野和俊.瘢痕切除について.第2回2期生OGOGプロジェクト 令和4年10月8日, 東京.

中野和俊.食道閉鎖の出生前診断に関する文献的考察.第2回胎児食道研究会プログラム 令和4年11月3日(口演), WEB.

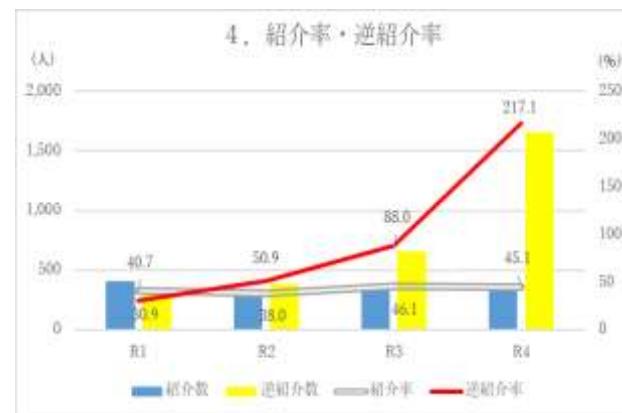
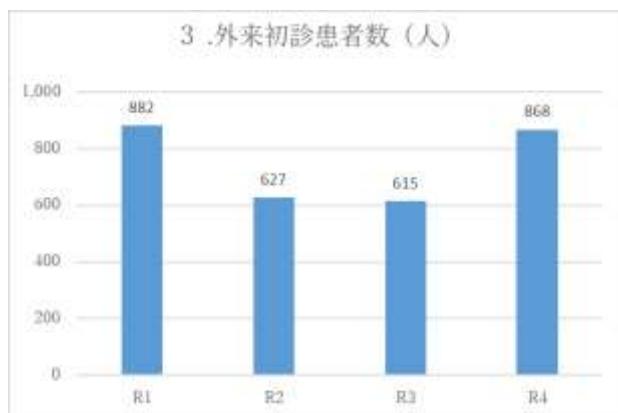
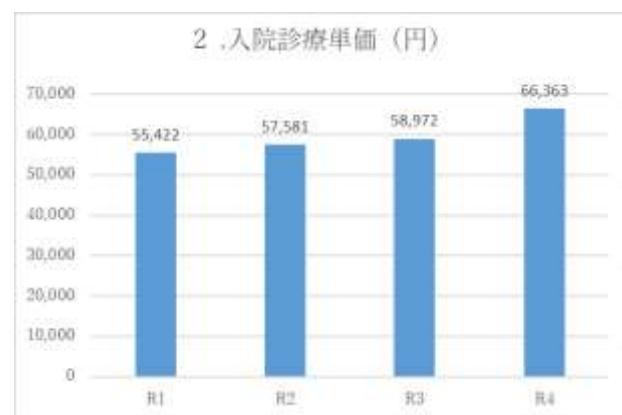
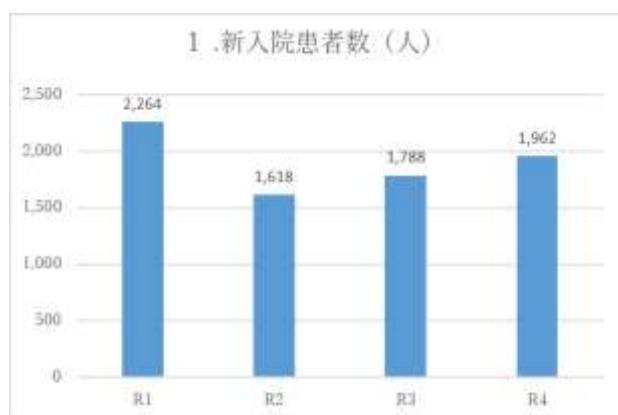
安川久吉.産婦人科における遺伝子検査について.第9回はびきのアカデミー 令和4年11月19日(口演), 大阪.

【マスコミ発表】

中野和俊.手術瘢痕切除を考える ~きれいな創治癒を目指した瘢痕切除法~.産科と婦人科 令和4年9月1日.

小児科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
亀田 誠	主任部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
吉田之範	部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医
高岡有理	副部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医 日本医師会認定産業医
重川 周	医長	日本小児科学会専門医
深澤陽平	医長	日本小児科学会専門医・指導医
釣永雄希	医長	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医、 日本小児感染症学会小児感染症認定医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（A コース）修了
上野瑠美	診療主任	日本小児科学会専門医
山口智裕	レジデント	小児科専門医
九門順子	レジデント	小児科専門医
中竹俊伸	レジデント	日本専門医機構認定小児科専門医
山手和智	レジデント	
大野由梨	レジデント	

3. 診療概要

令和4年度は新型コロナ感染症の影響が残るもの、乳幼児ではRSV感染症が増加するなど徐々に以前の診療が戻ってきた印象がある。新型コロナ感染症では有熱時の痙攣と喉頭炎症状が目立つようになった。

呼吸器感染症の増加とともに当科が主に取り組んでいるアレルギー疾患診療も紹介患者が増加に転じた。主には食物アレルギー関連であるが、合併するアトピー性皮膚炎の診療、また以前から取り組んでいる喘鳴性疾患の鑑別、診療でも紹介が増えた印象がある。当科の特徴は、合併する各種アレルギー疾患を総合的に診療することである。このため各疾患の診療ガイドラインを意識し、その上で最新の知見も取り入れて診療にあたっている。また新たな治療方法の模索、確立に向けて研究的な治療にも引き続き取り組んでいる。特に食物アレルギーと気管支喘息では重症、難治症例が数多く集まることから全国的な臨床研究や新規薬剤の治験にも参画している。アレルギー疾患以外では大阪急性期・総合医療センターの協力で開設した循環器外来も順調に運用されており、さらに少数ながら神経発達症関連の診療にも取り組みだした。

地域医療に貢献することも重要な役割である。中でも地域の救急搬送患者の受け入れを24時間受け入れ可能としたことは特記すべきである。結果として救急搬送受け入れ件数は令和3年度139名から令和4年度は528名に増加した。近隣の小児科からの要入院患者にも例年通り対応することができた。

新生児部門では、当センター産婦人科が多数の分娩を扱っていることから新生児医療の充実にも引き続き取り組み、より安全な周産期医療の構築に努めている。

また社会的にニーズの高まりがあるレスパイト入院も継続して受け入れを行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数 17,217 人

延べ入院患者数 6,160 人

実入院患者数 1,962 人

(主な疾患 食物アレルギー 1,152 人、気管支喘息 78 人、肺炎・気管支炎 73 人、新生児疾患・先天性疾患 311 人 その他 303 人 他)

食物アレルギー関連の入院が 1,152 名である。その殆どが経口負荷テストで全国でも屈指の実施数である。

診療に加え、学会活動にも積極的に参画している。

なお「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2020」「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」の作成に携わっている。

5. 業績

【論文】

吉田之範, 深澤陽平, 九門順子, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 中野珠菜, 重川 周, 高岡有理, 亀田 誠. 気管支喘息児の学童初期の肺機能は思春期年齢の治療レベルを予測する因子の一つとなる. アレルギー. 71:221-230,2022.

高岡有理, 長尾みづほ. ガイドライン解説 食物アレルギー診療ガイドライン 2021(第 12-1 章) 鶏卵アレルギー (第 12-2 章) 牛乳アレルギー (第 12-3 章) 小麦アレルギー. 日本小児アレルギー学会誌. 36:554-561,2022.

Yamamoto Hanada K, Kobayashi T, Mikami M, Williams HC, Saito H, Saito-Abe M, Sato M, Irahara M, Miyaji Y, Ishihara F, Tsuchiya K, Tamagawa-Mineoka R, Takaoka Y, Takemura Y, Sato S, Wakiguchi H, Hoshi M, Natsume O, Yamaide F, Seike M, Ohya Y; PACI Study investigators. Enhanced early skin treatment for atopic dermatitis in infants reduces food allergy. J Allergy Clin Immunol. 152:126-135, 2023.

Atsuko Nakano , Akihiro Maeta , Yuri Takaoka , Keigo Saeki , Masaaki Hamada , Yukiko Hiraguchi , Tomoko Kawakami , Ikuo Okafuji , Yutaka Takemura , Kyoko Takahashi , Makoto Kameda. The parent's fears about hospital visits and trait anxiety in the COVID-19 pandemic. Healthcare. 11:1080-1080, 2023.

亀田 誠. 【小児科学レビュー-最新主要文献とガイドライン-】アレルギー疾患 気管支喘息. 小児科臨床. 76:161-166, 2023.

Yuri Takaoka , Yoichi M Ito , Junko Kumon , Tomohiro Yamaguchi , Rumi Ueno , Yuki Tsurinaga , Tamana Nakano , Yohei Fukasawa , Amane Shigekawa , Yukinori Yoshida , Makoto Kameda , Satoru

Doi.Efficacy and safety of low-and high- dose slow oral egg immnotherapy for hen's egg allergy:single-center non inferiority randomized trial.Asiapac J Allergy Immunol.:-,2023.

深澤陽平, 安楽正輝, 広瀬晴奈, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 河原隆二, 片岡葉子, 亀田 誠.市中型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌による皮下膿瘍の家族例.日本小児科学会雑誌.127:707-713,2023.

【著作・著書】

亀田 誠.気管支喘息.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.287-292, 2022.

重川 周.アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.293-298, 2022.

吉田之範.アトピー性皮膚炎.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.299-305, 2022.

釣永雄希.蕁麻疹、血管性浮腫、多型滲出性紅斑.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.306-310, 2022.

高岡有理.食物アレルギー.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.311-317, 2022.

亀田 誠.アナフィラキシー.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.318-320, 2022.

上野瑠美.新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸炎.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.325-329, 2022.

釣永雄希.薬物アレルギー.小児科診療指針エッセンス. (別所一彦, 北畠康司, 窪田拓生, 酒井規夫, 下野久理子, 青天目 信, 宮村能子 ,成田 淳, 亀田 誠, 吉田寿雄, 錦戸知喜.) 中外医薬社, 東京, pp.330-335, 2022.

吉田之範.無気肺（肺気腫）.小児科診療指針エッセンス.（別所一彦，北畠康司，窪田拓生，酒井規夫，下野久理子，青天目 信，宮村能子，成田 淳，亀田 誠，吉田寿雄，錦戸知喜。）中外医薬社，東京，pp.425-431, 2022.

【学会発表】

大野由梨，深澤陽平，中竹俊伸，山手和智，九門順子，山口智裕，上野瑠美，釣永雄希，重川 周，高岡有理，吉田之範，亀田 誠.当院における小麦アレルギーに対する急速経口免疫療法の長期経過と背景因子の検討.第 59 回日本小児アレルギー学会 令和 4 年 11 月 12-13 日，沖縄.

盛光涼子，高岡有理，山口智裕，釣永雄希，深澤陽平，重川 周，吉田之範，亀田 誠，関田 恵，吉田めぐみ.重症食物アレルギーをもつ学童期以降の児の治療への関わりに関する調査.第 59 回日本小児アレルギー学会 令和 4 年 11 月 12-14 日，沖縄.

是松聖悟，安田泰明，手塚純一郎，三浦克志，長谷川俊史，小林一郎，亀田 誠，岡田賢司，藤澤隆夫.小児喘息発作入院サーベイランスによる 2020-2021 年度の発生状況.第 59 回日本小児アレルギー学会 令和 4 年 11 月 12-15 日，沖縄.

山手和智，深澤陽平，大野由梨，中竹俊伸，九門順子，山口智裕，上野瑠美，釣永雄希，重川 周，高岡有理，吉田之範，亀田 誠.当院における鶏卵アレルギーに対する急速免疫療法の長期経過と背景因子の検討.第 59 回日本小児アレルギー学会 令和 4 年 11 月 12-16 日，沖縄.

佐藤奈由，岩脇由希子，二村恭子，高岡有理，下條尚志，中村政志，鈴木加余子，松井照明，亀田 誠，矢上晶子，伊藤浩明，松永佳世子.食物アレルギー:アレルゲンコンポーネント スペイスアレルギー 7 例の検討.第 71 回日本アレルギー学会学術集会 令和 4 年 10 月 9 日，東京.

前田晃宏，高岡有理，亀田 誠，高橋享子.食物アレルギーの最新情報 安心・安全で効果的な経口免疫療法の開発を目指して.第 76 回日本栄養・食糧学会大会 令和 4 年 6 月 11 日，兵庫.

釣永雄希，永井崇之，亀田 誠.乳児の多剤耐性結核に対して LVFX を使用した 1 例.第 97 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術集会 令和 4 年 7 月 1 日，北海道.

河辺隆誠，花田有紀子，奥野未佳，山口智裕，上野 瑠美，釣永雄希，深澤陽平，重川 周，高岡有理，吉田之範，亀田 誠，川島佳代子.アレルゲン・抗原・免疫療法・検査法 小児アレルギー性鼻炎患者に対するダニ舌下免疫療法の有効性の検討.第 71 回日本アレルギー学会学術集会 令和 4 年 10 月 9 日，東京.

高岡有理.市民公開講座「小児の気管支喘息」.第 38 回日本小児臨床アレルギー学会学術集会 令和 4 年 7 月 2-3 日，東京.

吉田之範.小児重症喘息における生物学的製剤の選択.第38回日本小児臨床アレルギー学会 令和4年7月2日, 東京.

高岡有理, 佐藤奈由, 中村政志, 松永佳世子, 上野瑠美, 釣永雄希, 山口智裕, 深澤陽平, 重川 周, 吉田之範, 亀田 誠.アボカドおよびトウモロコシによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーが合併した一例.第71回日本アレルギー学会学術集会 令和4年10月8日, 東京.

高岡有理.食物アレルギーにおけるリスクファクター・増悪因子.第59回日本小児アレルギー学会 令和4年11月12日, 沖縄.

亀田 誠.アレルギーをもつ子をうまくケアするコツ.日本小児科学会鳥取地方会第75回例会 令和4年6月26日, 米子.

亀田 誠.食物アレルギーに於ける移行期医療～エピペン® を含めた患者指導.第38回日本小児臨床アレルギー学会 令和4年7月2日, 東京.

亀田 誠.思春期・青年期喘息における移行期医療.日本アレルギー学会 令和4年10月7日, 東京.

亀田 誠.小児気管支ぜん息における寛解を考える.日本アレルギー学会近畿地方会 令和4年10月23日, 大阪.

亀田 誠.思春期から成人期へ～ぜん息の移行期医療～.第59回日本小児アレルギー学会 令和4年11月13日, 沖縄.

【啓発・研修活動】

高岡有理.食物アレルギー研修.食物アレルギー研修 令和4年7月26日, 大阪.

高岡有理.食物アレルギー研修.食物アレルギー研修 令和4年10月24日, 大阪.

亀田 誠.乳幼児期の食物アレルギーについて.吹田市教育・保育施設職員研修 令和4年6月2日, 大阪.

亀田 誠.食物アレルギーと緊急時の対応.大阪市私立幼稚園連合会 令和4年6月10日, 大阪.

亀田 誠.小児科におけるアトピー性皮膚炎治療のコツ.鳥居薬品(株)主催 小児アレルギーExpert Meeting 令和4年7月23日, WEB.

亀田 誠.学校におけるアレルギー疾患対応 食物アレルギーを中心に.令和4年度文部科学省補助事業 日本学校保健会主催 アレルギー講習会（学校における普及啓発講習会） 令和4年7月28日, 奈良.

第3 各部局の活動状況 1. 診療各科 小児科

亀田 誠.食物アレルギーへの適切な対応について.大阪府立東淀川支援学校主催校内研修 令和4年7月29日, 大阪.

亀田 誠.気管支喘息治療・管理ガイドライン 2020～改訂のポイント～.大阪小児科医会救急・新生児研修会小児救急セミナー 令和4年9月17日, 大阪.

亀田 誠.神経発達症とアレルギー疾患.福島県県南小児科医会・武田薬品工業共催 ND Symposium in Fukushima 令和4年11月21日, WEB.

亀田 誠.保育所・こども園での食物アレルギー対応.日本ハム食の未来財団 保育者向け食物アレルギーセミナー 令和4年11月27日, 茨城.

亀田 誠.学校における食物アレルギー対応ガイドライン.大阪府医師会学校保健講習会 令和4年12月14日, 大阪.

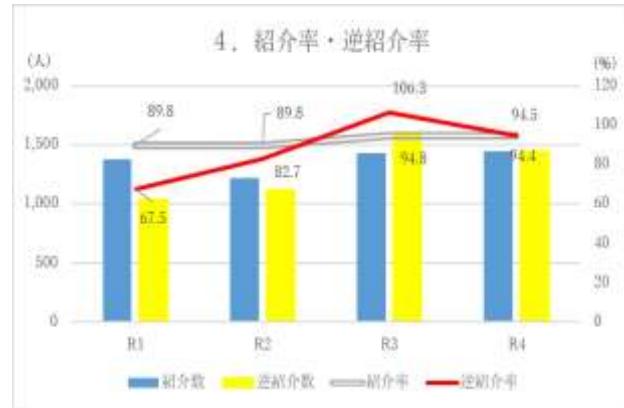
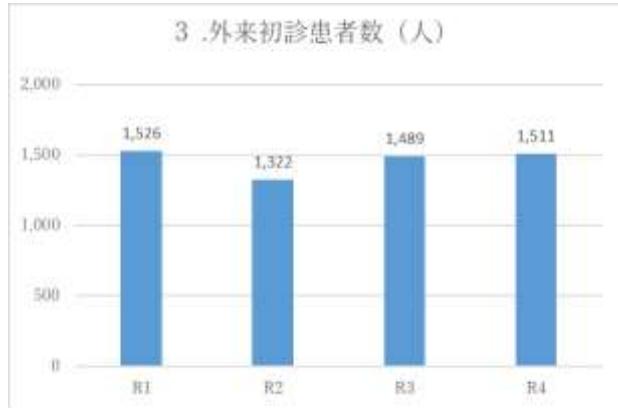
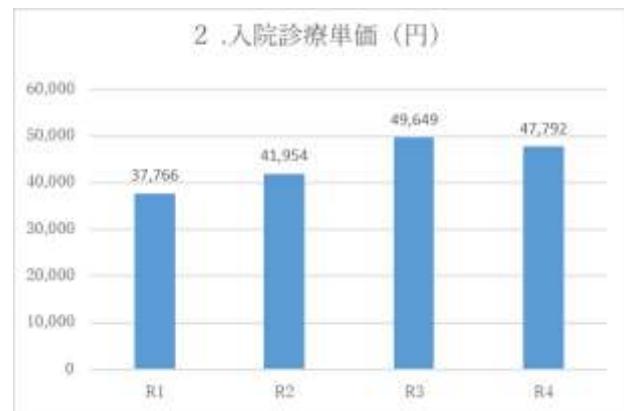
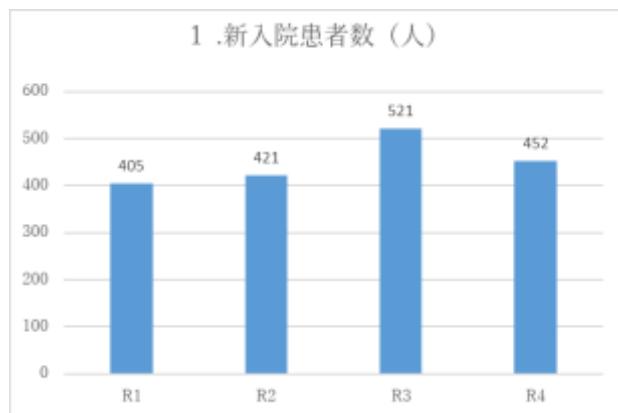
亀田 誠.学校におけるアレルギー疾患対応 食物アレルギーを中心に.令和4年度文部科学省補助事業日本学校保健会主催アレルギー講習会（学校における普及啓発講習会） 令和4年12月19日, 島根.

亀田 誠.小児アレルギー疾患と学校生活での注意点.千葉県学校薬剤師会研修会 令和5年3月5日, WEB.

亀田 誠.乳幼児の食物アレルギー・ぜん息の予防について.東大阪市アレルギー講習会 令和5年3月20日, 大阪.

皮膚科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
片岡葉子	副院長	日本皮膚科学会指導医、日本アレルギー学会指導医
	兼主任部長	日本心身医学会専門医
	兼アトピー・	
		アレルギーセンター長
坂本幸子	診療主任	
阿古目純	医員	緩和ケア研修修了
益田知可子	医員	緩和ケア研修修了
木村優香	医員	緩和ケア研修修了

3. 診療概要

令和3年度は、3名の常勤医師、3名のレジデント、2名の外来応援医師が診療担当した。広瀬医師は大分大学の助教として同大学の病棟医長なども歴任しているキャリアのある医師であるが、アトピー性皮膚炎診療において、全国的に有名な当院での研修を希望して、令和2年度から今年度の2年間、皮膚科医長として勤務した。アトピー性皮膚炎診療だけでなく、皮膚科診療一般、さらにCOVID-19患者の当番や当直においても積極的に診療に加わり当院の診療に大きく貢献された。

アトピー性皮膚炎診療においては2018年から保険適用となった dupilumab に加え、JAK 阻害薬内服薬が新たに保険適用となり、当科に受診する数多くの重症難治性患者の症状のよりよい改善が期待されるようになってきている。しかし、重症患者の総てが既存治療に抵抗性というわけではなく、既存治療の効果を最大化することで長期寛解を維持することの可能な患者は多く存在しており、以前から当科が取り組んでいる外用薬による寛解導入をかねた患者教育”アトピーカレッジ”は依然大きな需要がある。

アトピー性皮膚炎以外の重症難治性疾患の診療にも注力し、拡大することを意識している。また地域に皮膚科専門医が少ないため、地域連携の促進とプライマリケア医の啓発のためにWebを用いた勉強会“はびきのDチャンネル”を隔月定例開催として開始した。御紹介いただいた症例の検討あるいは治療経過を報告し、タイムリーな情報共有に役立てている。さらに、若手医師が経験症例を要約し、検討、提示するトレーニングとしても役立っている。

4. 診療実績

延べ外来患者数 25,097人

延べ入院患者数 5,583人

実入院患者数 452人

(主な疾患 アトピー性皮膚炎（重症・成人含む） 239人、蕁疹・薬物過敏症 17人

食物アレルギー・アナフィラキシー 23人、帯状疱疹 27人、悪性腫瘍 7人、蜂窩織炎
11人 他)

アトピーカレッジ（入院）参加者 158人

手術件数 45件

(皮膚悪性腫瘍摘出 10例、良性腫瘍摘出 18例 他)

5. 業績

【論文】

Amy S Paller , Emma Guttman-Yassky , Marie L A Schuttelaar , Alan D Irvine , Eulalia Baselga , Yoko Kataoka , Martti Antila , Marjolein S de Bruin-Weller , Danielle Marcoux , Alvina Abramova , Elena Rizova , Chunyuan Liu , Annie Zhang.Disease characteristics, comorbidities, treatment patterns and quality of life impact in children <12 years old with atopic dermatitis: Interim results from the PEDISTAD Real-World Registry.J Am Acad Dermatol.87:1104-1108,2022.

片岡葉子.生物学的製剤はどのようにアトピー性皮膚炎治療を変えたか.皮膚科.2:343-350,2022.

Rai Fujimoto , Yoko Kataoka.Psoriasis-like eruptions developed in an atopic dermatitis patient treated with dupilumab.J Cutan Immunol Allergy.5:231-232,2022.

Norito Katoh , Hidehisa Saeki , Yoko Kataoka , Takafumi Etoh , Satoshi Teramukai , Hiroki Takagi , Hiroyuki Fujita , Marius Ardeleanu , Elena Rizova , Kazuhiko Arima , the ADDRESS-J Investigators.Evaluation of standard treatments for managing adult Japanese patients with inadequately controlled moderate - to - severe atopic dermatitis: Two - year data from the ADDRESS - J disease registry.J Dermatol.49:903-911,2022.

片岡葉子.【アトピー性皮膚炎診療の最前線-新規治療をどう取り入れ,既存治療を使いこなすか-】新規治療薬・病勢マーカーを使いこなす Dupilumab はいつまでどのように続けるべきか Derma.:35-42,2022.

Nakahara T , Izuhara K , Onozuka D , Saeki H , Nunomura S , Takenaka M , Matsumoto M , Kataoka Y , Fujimoto R , Kaneko S , Morita E , Tanaka A , Hide M , Okano T , Miyagaki T , Aoki N , Nakajima K , Ichiyama S , Kido-Nakahara M , Tonomura K , Nakagawa Y , Tamagawa-Mineoka R , Masuda K , Takeichi T , Akiyama M , Ishiuji Y , Katsuta M , Kinoshita Y , Tateishi C , Yamamoto A , Morita A , Matsuda-Hirose H , Hatano Y , Kawasaki H , Tanese K , Ohtsuki M , Kamiya K , Kabata Y , Abe R , Mitsui H , Kawamura T , Tsuji G , Katoh N , Furue M.Exploring biomarkers to predict clinical improvement of atopic dermatitis in patients treated with dupilumab (B-PAD study).Clin Exp Allergy.53:233-238,2023.

【著作・著書】

片岡葉子.デュピルマブはいつ止められるのか?. 皮膚科診療 Controversy. : -, 2022.

片岡葉子.Dupilumab はいつまでどのように続けるべきか. Monthly Book Derma. 327: 35-42, 2022.

片岡葉子.ステロイド外用剤によるタイトコントロールと教育入院.まるごとアトピー アトピー性皮膚炎の病態から最新薬剤、患者コミュニケーションまで.(大塚篤司.) 医学書院., 東京, pp.121-127, 2022.

室田浩之, 片岡葉子, 吉田めぐみ, 関田 恵, 中村祥子, 松下一樹, 森石加世子, 山形久美子.今すぐできる!多職種連携アトピー・カレッジインタビュー. Visual Dermatology. 22: 47-57, 2022.

片岡葉子.基礎と臨床から考えるアトピー性皮膚炎. 皮膚アレルギーフロンティア. 20: 6-14, 2022.

【学会発表】

片岡葉子.アトピー性皮膚炎と眼瞼疾患～皮膚科医の立場から～.第 126 回日本眼科学会総会 令和 4 年 4 月 17 日, 大阪市.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～新しい JAK 阻害薬 abrocitinib への期待～.第 38 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 令和 4 年 4 月 23 日, WEB.

阿古目 純, 木村優香, 益田知可子, 坂本幸子, 片岡葉子.口腔内の多発性腫瘍.第 235 回大阪皮膚科症例検討会 令和 4 年 5 月 26 日, WEB.

片岡葉子.新時代をむかえたアトピー性皮膚炎の治療～新しい JAK 阻害薬 abrocitinib への期待～.第 121 回日本皮膚科学会総会 令和 4 年 6 月 2 日, WEB.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎 (AD) の治療戦略 update.第 121 回日本皮膚科学会総会 令和 4 年 6 月 4 日, WEB.

片岡葉子.新時代をむかえたアトピー性皮膚炎 (AD) の治療.第 7 回日本アレルギー学会近畿地方会 令和 4 年 6 月 5 日, 姫路.

益田知可子, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子.難治性アトピー性皮膚炎”として加療されていたダリエー病の 2 例.第 7 回日本アレルギー学会近畿地方会 令和 4 年 6 月 5 日, 姫路.

片岡葉子.長期寛解維持を目指すアトピー性皮膚炎治療～皮膚科専門医の夢と責務～.日本皮膚科学会岩手地方会第 399 回例会 令和 4 年 7 月 2 日, WEB.

片岡葉子.長期寛解維持から読み解く治療戦略.第 86 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 令和 4 年 8 月 28 日, 新潟.

Lynda Spelman , Dédée F. Murrell , Yoko Kataoka , Chia-Yu Chu , Wen-Hung Chung , Marius Ardeleanu , Richard Worrell.BASELINE DEMOGRAPHICS, COMORBIDITIES, AND TREATMENT PATTERNS IN ASIAN ADULTS WITH ATOPIC DERMATITIS WHO RECEIVED DUPILUMAB IN A REAL-WORLD SETTING.the 32nd Annual Conference of the Australasian Society of Clinical Immunology and Allergy (ASCIA 2022) August 30–September 02 2022, Melbourne, Australia.

片岡葉子, M Antika , D Marcoux , I Betlloch , R Gupta , T Tong , 繩田寿克 , A Zhang.中等症から重症の小児アトピー性皮膚炎患者の疾病負荷：PEDISTAD 観察研究 732 名の結果より.第 71 回日本アレルギー学会学術大会 令和 4 年 10 月 7 日, 東京.

片岡葉子.重症小児アトピー性皮膚炎の治療戦略.第 71 回日本アレルギー学会学術大会 令和 4 年 10 月 8 日, 東京.

片岡葉子, 龜井数正, 湯本真代, 廣瀬智弘, 藤田華世, 吉田瑞樹, 中村洸樹.アブロシチニブのアトピー性皮膚炎に対する有効性：アジア集団および体重・BMI 別の解析.第 71 回日本アレルギー学会学術大会 令和 4 年 10 月 8 日, 東京.

片岡葉子.IL-4R 抗体によるアトピー性皮膚炎治療の進歩と Dupilumab-associated ocular surface disease(DAOSD).第 5 回日本眼科アレルギー学会学術集会 令和 4 年 11 月 5 日, 島根.

片岡葉子.思春期とアレルギー性皮膚疾患～過去・現在・未来～.第 13 回日本皮膚科心身医学会 令和 4 年 11 月 6 日, WEB.

片岡葉子.新時代をむかえたアトピー性皮膚炎の治療.第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会 令和 4 年 11 月 12 日, WEB.

木村優香, 益田知可子, 阿古目 純, 坂本幸子, 片岡葉子.GOVID-19 ワクチン接種後病変と思われていたアセトアミノフェンの固定薬疹の 1 例.第 236 回大阪皮膚科症例検討会 令和 4 年 11 月 26 日, WEB.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略～アトピー・アレルギーセンター 10 余年間の取り組みと成果～.日本臨床皮膚科医会大阪支部学術講演会（大阪皮膚科医会 92 回例会） 令和 4 年 12 月 3 日, 大阪.

木村優香, 益田知可子, 阿古目 純, 坂本幸子, 片岡葉子.COVID-19 ワクチン接種後病変と思われていたアセトアミノフェンによる固定薬疹の 1 例.第 494 回日本皮膚科学会大阪地方会 令和 4 年 12 月 10 日, 大阪.

【啓発・研修活動】

片岡葉子.グローバル及び日本人サブ解析からみるサイバインコの有効性.サイバインコ®新発売記念講演会 令和 4 年 4 月 8 日, WEB.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～皮膚科専門医の夢と責務～.長野県アトピー性皮膚炎 Web 講演会 令和 4 年 4 月 14 日, WEB.

片岡葉子.新時代を迎えたアトピー性皮膚炎の治療～abrocitinibへの期待と皮膚科専門医の役割～.サイバインコ®発売記念講演会 in 名古屋 令和4年4月21日, 愛知.

片岡葉子.Chronology から考える思春期アトピー性皮膚炎の治療.会津医学会学術講演会 令和4年5月18日, WEB.

片岡葉子.新時代をむかえたアトピー性皮膚炎の治療～新しいJAK阻害薬 abrocitinib*への期待と皮膚科専門医の役割～.第176回浦安皮膚臨床懇話会 令和4年6月16日, WEB.

片岡葉子.それもアトピー性皮膚炎？アトピー性皮膚炎治療中に併存する病変を正しく見分けていますか.アトピー性皮膚炎治療 Update In Hiroshima 令和4年6月23日, 広島.

片岡葉子.新時代を迎えたアトピー性皮膚炎の治療戦略.Atopic Dermatitis National Forum 2022 令和4年6月26日, WEB.

阿古目 純.緊満性水疱を初発とした尋常性天疱瘡の1例～水腎症・悪性リンパ腫を合併していた例～.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

阿古目 純.小児のLMDF(丘疹性酒さ)の1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

益田知可子.9歳小児の酒さ様皮膚炎の1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

木村優香.4歳幼児の酒さ様皮膚炎の1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

木村優香.全身播種状にみられたeruptive syringomaの1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

阿古目 純.難治性創傷として加療されていた手背の有棘細胞癌の1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

益田知可子.外陰部壊死性筋膜炎の1例.はびきのDチャンネル 令和4年6月30日, WEB.

片岡葉子.新時代をむかえたアトピー性皮膚炎の治療～新しいJAK阻害薬 abrocitinibへの期待と皮膚科専門医の役割～.サイバインコ®発売記念講演会 in 大阪 令和4年6月30日, 大阪.

片岡葉子.It's about time for Long-term control 患者・患者・医師・医師のギャップを超えて.新時代のアトピー性皮膚炎治療を考える～長期寛解維持を目指したアトピー性皮膚炎治療～ 令和4年7月8日, 大分.

第3 各部局の活動状況 1. 診療各科 皮膚科

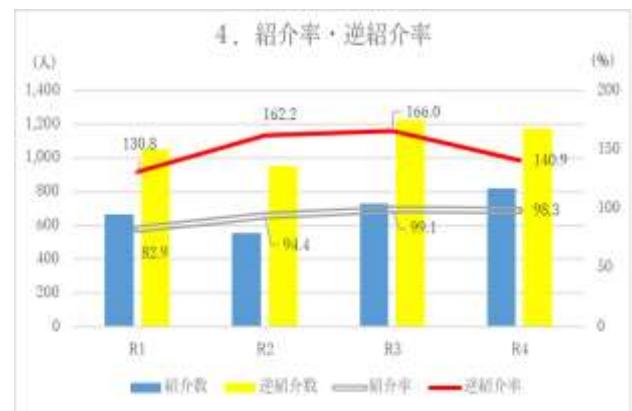
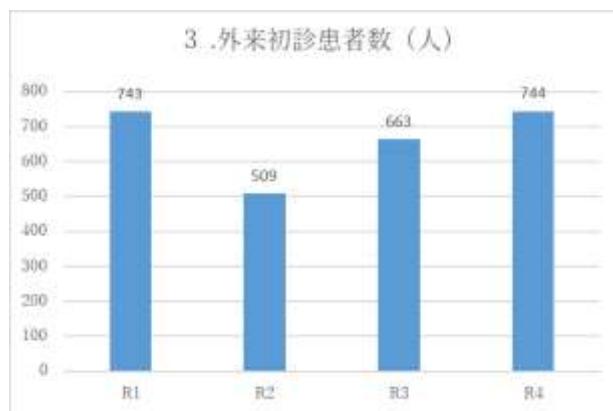
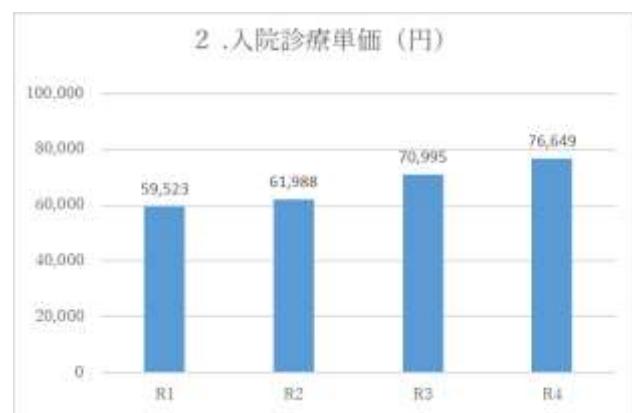
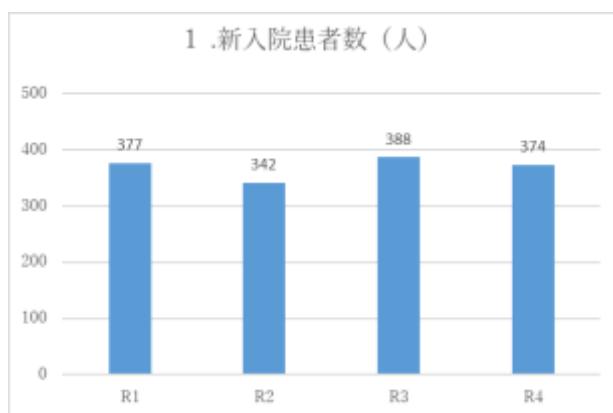
片岡葉子.サイバインコのエビデンス成人ADの有効性・安全性.CIBINQO Clinical Trials Deep Dive Online Meeting 令和4年7月17日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎のT2T：その意義・方法とDupilumabによる進歩.デュピクセント発売4周年記念講演会 アトピー性皮膚炎治療新時代～IL4/IL13の重要性～ 令和4年8月6日, 大阪.

木村優香.月経時にくりかえす重症多型滲出性紅斑？の1例.はびきのDチャンネル 令和4年8月25日, WEB.

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
川島佳代子	医務局長	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
	兼主任部長	日本アレルギー学会専門医・指導医 日本鼻科学会鼻科手術暫定指導医 厚生労働省認定補聴器適合判定医 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医 身体障害者福祉法15条指定医、日本医師会認定産業医、難病指定医、厚生労働省臨床研究・治験従事者研修修了 緩和ケア研修修了、TNT研修修了、嚥下機能評価研修修了 厚生労働省オンライン診療研修修了
花田有紀子	医長	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 日本気管食道科学会専門医、厚生労働省認定補聴器適合判定医 日本医師会認定産業医、難病指定医、緩和ケア研修修了
奥野未佳	診療主任	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、緩和ケア研修修了 TNT研修修了、嚥下機能評価研修修了 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医、難病指定医 緩和ケア研修修了、嚥下機能評価研修修了
河辺隆誠	医員	厚生労働省オンライン診療研修修了

3. 診療概要

スタッフ4名体制で昨年度とメンバーは同じであった。

今年度も手術内容は、当科の特色であるアレルギー、鼻科領域の専門的な治療とともに、頭頸部良性腫瘍の手術についても積極的に施行し、昨年度より手術件数として47件上回った。救急対応、地域医療機関からの緊急対応依頼についても引き続き積極的に受け入れを行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数	5,868人
延べ入院患者数	2,712人
実入院患者数	374人
(主な疾患	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎64人、慢性副鼻腔炎63人、 突発性難聴35人、前庭機能障害26人、顔面神経障害24人 他)
手術件数	483件
疾患部位別手術件数	
耳	8件
鼻	353件
咽頭喉頭	102件
頭頸部	16件
その他	4件

主な手術

内視鏡下鼻・副鼻腔手術II型（副鼻腔单洞手術）	4件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術III型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	43件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術IV型（汎副鼻腔手術）	78件
鼻副鼻腔腫瘍摘出術（悪性含む）	3件
鼻中隔矯正術	65件
内視鏡下鼻腔手術I型（下鼻甲介手術）	157件
アデノイド切除術	3件
口蓋扁桃手術（摘出）	90件
気管切開術	2件
喉頭・声帯ポリープ切除	
（直達喉頭鑑又はファイバースコープによるもの）	3件
嚥下機能手術（喉頭全摘術）	1件
頬粘膜腫瘍摘出術	1件
舌腫瘍摘出術（粘液囊胞摘出術）	1件
口唇腫瘍摘出術（粘液囊胞摘出術）	3件
唾石摘出術（表在性のもの）	4件
頸下線摘出術	1件
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	2件
甲状腺部分切除／甲状腺腫摘出術（片葉のみ）	1件
甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	2件
頸瘻、頸囊摘出術	1件

5. 業績

【論文】

川島佳代子.抗 IgE 製剤による抗体製剤治療が有効であった小児アレルギー性鼻炎の 2 症例.日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会誌.2:65-69,2022.

奥野未佳, 川島佳代子, 花田有紀子, 河辺隆誠, 山本雅司, 田中晶平, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠.スギ舌下免疫療法施行小児患者の 2021 年のスギ花粉飛散期の評価.日鼻誌.61:622-631,2022.

花田有紀子, 奥野未佳, 河辺隆誠, 山本雅司, 田中晶平, 佐々木崇博, 川島佳代子.手術前の呼吸機能検査で異常を認めた鼻副鼻腔手術症例の検討.日耳鼻会報.125:1680-1687,2022.

Hashimotoi Y, Kawata M, Mino N, Ogino S, Takeda N, Kawashima K, Takagi H, Wakasa Y, Takano M, Tanaka M, Tohda Y, Tanaka T.Clinical trials of Cry j 1 and Cry j 2 T-cell epitope peptide-expressing rice in patients with Japanese cedar pollinosis.Asian Pac J Allergy Immunol .40:386-392,2022.

辻村 慶, 端山昌樹, 北村公二, 永田明弘, 前田陽平, 河辺隆誠, 花田有紀子, 川島佳代子, 猪原秀典.

術前診断に苦慮した鼻腔多形腺腫例.日鼻誌.61:656-662,2022.

南豊彦, 川嶋良明, 中村晶彦, 坂哲郎, 川島佳代子.大阪府における在宅療養支援診療所主治医の耳鼻咽喉科在宅診療に対する意識調査.日耳鼻会報.125:1570-1577,2022.

Imai T, Uno A, Yamato A, Takimoto Y, Sato G, Matsuda K, Takeda N, Nishiike S, Kawashima K, Iga T, Ueno Y, Ohta Y, Sato T, Kamakura T, Shingai-Higashi K, Mikami S, Kimura N, Nakajima T, Tanaka A, Inohara H.Comparison of the efficacy of the Epley maneuver and repeated Dix-Hallpike tests for eliminating positional nystagmus: A multicenter randomized studyFront Neurol27:-,2023.

【著作・著書】

川島佳代子.検査結果・検査報告書をどう読むかー感染症・生理機能検査編 インフルエンザウイルスの適切な検体の取り方と結果の見方 JOHNS.加我君孝, 市村恵一, 小川 郁.:東京-38,43783822022 雑誌

川島佳代子.【薬にまつわる疑問に答える】耳鼻咽喉科頭頸部外科の症状別の薬 鼻閉 JOHNS.加我君孝, 市村恵一, 小川 郁.:東京-38,9119712002022 雑誌

【学会発表】

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療選択のポイント第 84 回耳鼻咽喉科臨床学会 共催セミナー「鼻アレルギー診療 Up To Date」令和 4 年 7 月 8-9 日, 広島.

川島佳代子.上気道からの One airway One disease アプローチ第 3 回喘息学会シンポジウム 2 令和 4 年 7 月 16-17 日, 名古屋.

川島佳代子.ダイバーシティ推進シンポジウム:多職種の相互理解と意識改革 多職種で取り組む小児に対する舌下免疫療法.第 17 回小児耳鼻咽喉科学会 特別企画 2 令和 4 年 7 月 21-22 日, 富山.

河辺隆誠, 花田有紀子, 奥野未佳, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠, 川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎患者に対するダニ舌下免疫療法の有効性の検討.第 71 回日本アレルギー学会学術大会 令和 4 年 10 月 7-9 日, 東京.

川島佳代子, 河辺隆誠, 奥野未佳, 花田有紀子.ダニ舌下免疫療法を施行している小児におけるスギに対する新規感作抑制効果の検討.第 123 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 総会・学術講演会 令和 4 年 5 月 25-28 日, 神戸.

川島佳代子.新世紀女性力-女性の活躍推進による学会の発展を目指して- 鼻科学とダイバーシティ魅力ある学問を伝えたい.第 61 回 日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和 4 年 10 月 13-15 日, 金沢.

川島佳代子.小児に対する舌下免疫療法 より良い鼻炎治療をめざして.第61回 日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和4年10月13-15日,金沢. ランチョンセミナー.

川島佳代子, 河辺隆誠, 奥野未佳, 花田有紀子.治療目標からみた小児スギ舌下免疫療法の有効性の検討.第61回 日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和4年10月13-15日,金沢.

奥野未佳, 河辺隆誠, 花田有紀子, 川島佳代子, 端山昌樹, 猪原秀典.Open Essenceを用いたCOVID-19患者の嗅覚障害の検討.第61回 日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和4年10月13-15日,金沢.

辻村 慶, 端山昌樹, 永田明弘, 前田陽平, 河辺隆誠, 花田有紀子, 川島佳代子, 猪原秀典.術前診断に苦慮した鼻腔多形腺腫の2例.第61回 日本鼻科学会 総会・学術講演会 令和4年10月13-15日,金沢.

川島佳代子.耳鼻咽喉科で取り組む好酸球性副鼻腔炎と喘息の治療.第36回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 秋季大会 令和4年11月5-6日,大阪.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎「ガイドライン(ベーシック)」日本アレルギー学会 第9回総合アレルギー講習会 令和5年3月17-8日,大阪.

【啓発・研修活動】

川島佳代子.アレルギー性鼻炎関連疾患～EGPAとOASについて～.第40回京都耳鼻咽喉科研究会プログラム 令和4年4月12日, 京都市.

川島佳代子.これからアレルギー性鼻炎に対する治療戦略.令和4年耳鼻咽喉科春季セミナー 令和4年4月21日,WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎におけるトピックスについて.大阪狭山市医師会講演会 令和4年6月6日.

川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法.第5回山陽アレルゲン免疫療法研究会 令和4年7月28日,WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎と関連疾患について.第15回鼻アレルギーフォーラム inSaitama 令和4年11月10日,WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎およびその周辺疾患のトピックス.第30回 Auris Nasus Larynx 石川(ANLI)学術講演会 令和4年11月12日, 金沢.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎とその周辺疾患のトピックス.アレルギー診療エキスパートセミナー

令和5年1月26日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎とその周辺疾患のトピックス.栃木県耳鼻科医会学術講演会 令和5年2月7日, WEB.

川島佳代子.知りておきたい上気道疾患—COVID 19 も含めてー.四国地区臨床内科医会学術講演会 令和5年2月17日, 徳島.

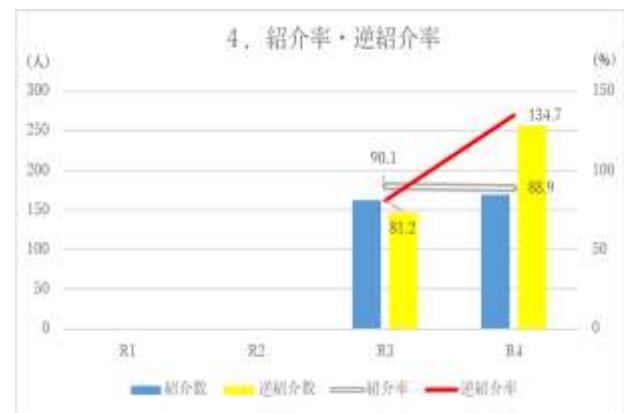
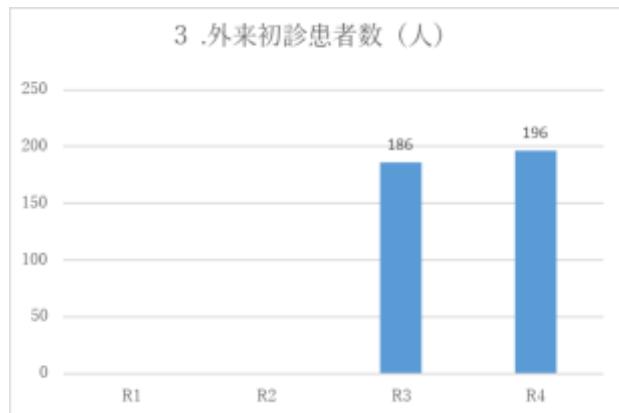
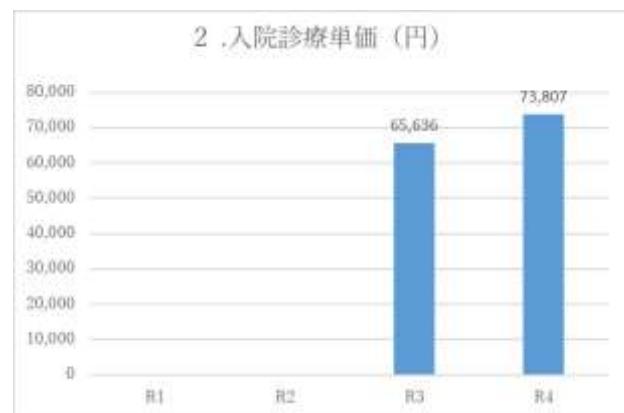
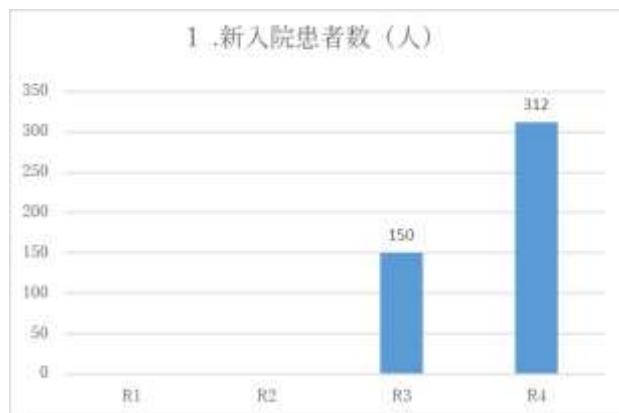
川島佳代子.アレルギー性鼻炎とその周辺疾患についてのトピックス.水鏡会学術講演会 令和5年3月15日, WEB.

川島佳代子.鼻科診療 Up to Date アレルギー性鼻炎と その関連疾患についてのトピックス .第 78 回岡山耳鼻咽喉科フォーラム, 令和5年3月23日,WEB.

奥野未佳.好酸球性副鼻腔炎とその周辺疾患について.第5回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和4年12月17日, WEB.

泌尿器科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格 等
福井辰成	主任部長	日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 身体障害者福祉法指定医（腎臓機能障がい）、臨床研修指導医、 日本医師会認定産業医、医学博士、 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医、 がんリハビリテーション研修修了、緩和ケア研修修了、 RI 内用療法における適正使用に関する安全講習会修了
大草卓也	診療主任	日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医、 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、緩和ケア研修修了
山口誓司	院長	日本泌尿器科学会認定専門医・指導医、 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、 日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 日本内分泌外科学会認定専門医・指導医、 日本腎臓学会専門医・指導医、 日本移植学会認定医、日本臨床腎移植学会認定医、 泌尿器ロボット支援手術プロテクター、 ダ・ヴィンチサージカルシステム認定医、ICD 制度協議会認定 ICD

2. 診療概要

当科は令和2年度に非常勤医による外来診療を開始し、令和3年度に常勤医によって病棟診療が始まった。1年間かけ手術機器を揃え泌尿器科手術に備えた。令和4年度に行った手術は経尿道的手術（膀胱腫瘍・前立腺肥大症・尿路結石など）、レーザーを用いた手術（f-TUL・Holep）、鏡視下手術（腎摘除術・腎部分切除術・副腎摘除術）や一般的な泌尿器科手術などで、低侵襲な手術を中心として行っている。また令和5年度に向けロボット支援手術や体外衝撃波結石破碎術の準備を進めている。

入院診療においては、手術症例はもちろんのこと、化学療法、放射線療法、尿路感染症など多岐にわたり積極的に行い、また救急診療科との連携を取り緊急入院患者を積極的に受け入れた。院外においても近隣の医療機関との連携を密にして地域医療に貢献した。

外来診療については、月曜日は福井、水曜日は山口、木曜日は大草、火曜日・金曜日は非常勤医が担当している。

3. 診療実績

延べ外来患者数	3,687 人
延べ入院患者数	2,084 人
実入院患者数	312 人

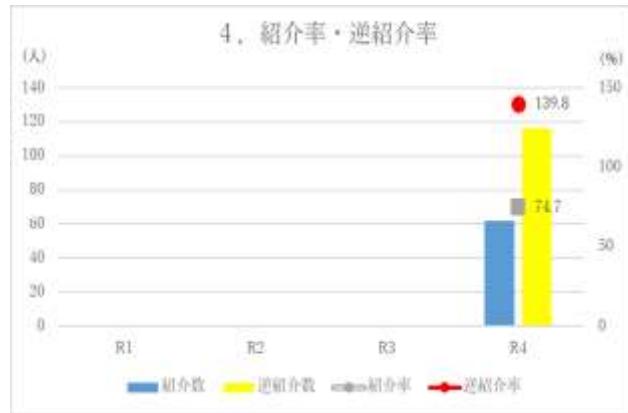
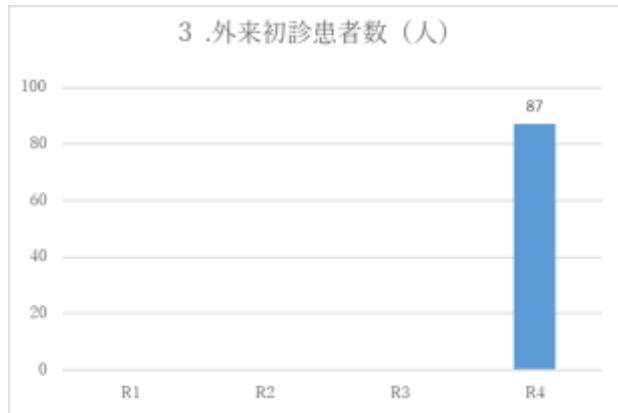
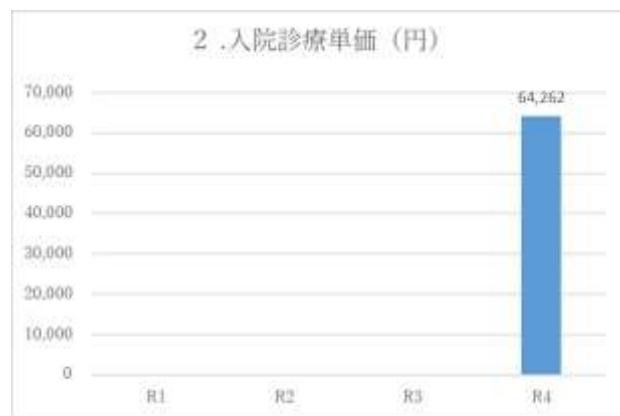
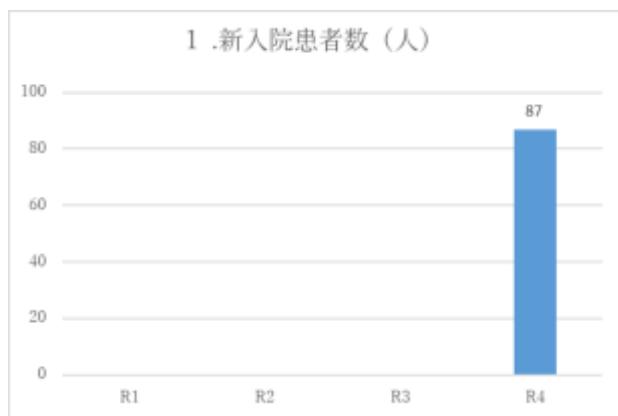
(主な疾患 前立腺がん 80人、膀胱がん 64人、その他悪性腫瘍 31人 他)

手術件数 222 件

なお、泌尿器科の手術は内視鏡手術を中心として腹腔鏡手術や体外衝撃波結石破碎術など、低侵襲医療を得意とし、また膀胱鏡検査も軟性鏡を用い患者の負担を軽減している。

整形外科

1. 臨床指標



2. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
塚本 泰徳	主任部長	日本整形外科学会専門医 日本リウマチ学会認定医 日本整形外科学会 (リウマチ認定医・スポーツ認定医・リハビリ認定医) 日本人工関節学会認定医
谷内 孝次	副部長	日本整形外科学会専門医

3. 診療概要

当科は、令和4年4月に開設。常勤医師2名体制で、変形性関節症や骨粗鬆症を中心とした高齢者の治療ならびに骨折などの外傷治療を行っている。

令和4年度は、立ち上げ初年度ということもあり、骨折観血的手術35件、人工骨頭挿入術23件、ロボティックアーム手術支援装置を用いた人工関節置換術4件など、手術件数は89件であった。

4. 診療実績

延べ外来患者数	1,138人
延べ入院患者数	1,876人
実入院患者数	87人
手術件数	89件
(主な手術)	骨折観血的手術35件、人工骨頭挿入術23件、ロボティックアーム手術支援装置を用いた人工関節置換術4件ほか)

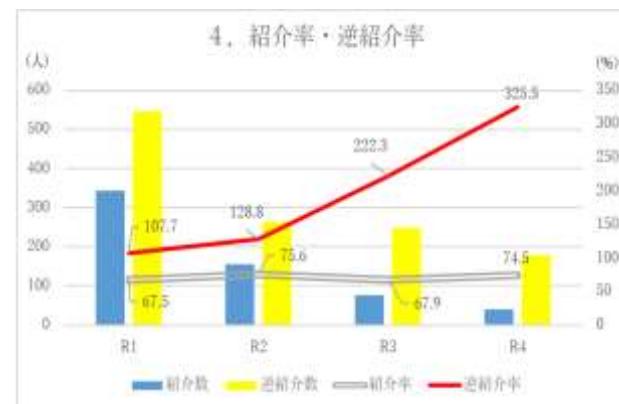
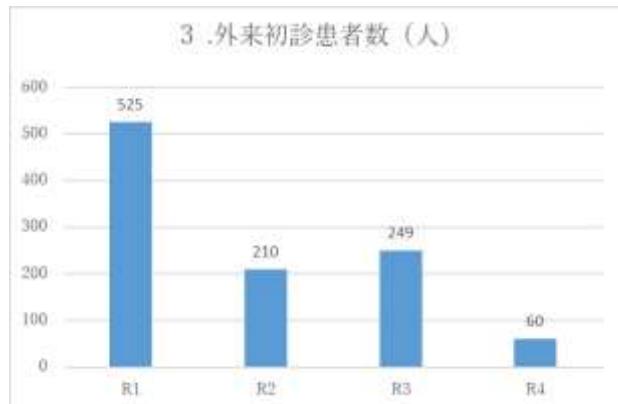
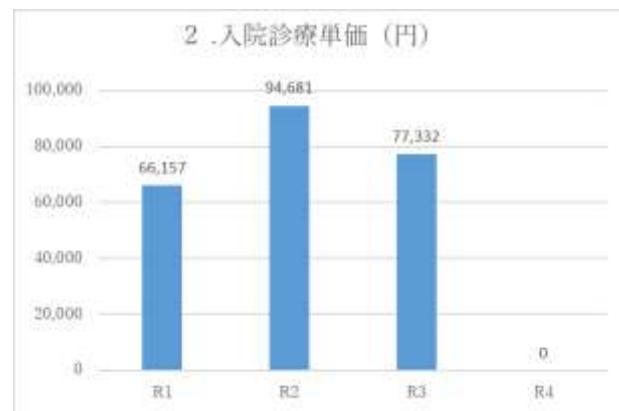
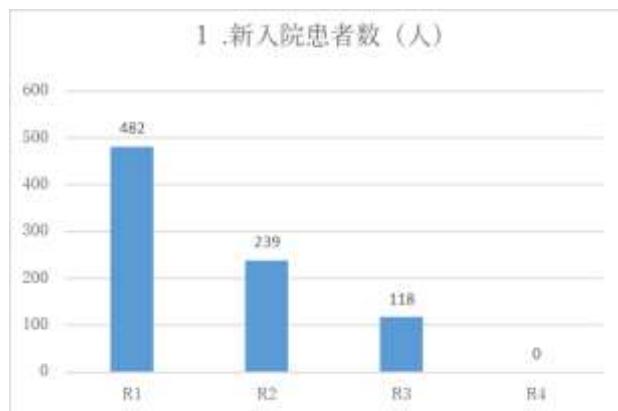
5. 実績

【啓発・研修活動】

塚本泰徳. 「骨粗鬆症治療薬の使い方 UPTATE」. 第8回はびきのアカデミー 令和4年7月23日, WEB.

眼科

1. 臨床指標



2. スタッフ

非常勤医師

3. 診療概要

令和4年度は非常勤医師のみで、白内障、緑内障等の眼科一般診療を行った。

4. 診療実績

延べ外来患者数 3,493人

麻酔科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
高内裕司	主任部長	日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本心臓血管麻酔学会周術期経食道心エコー認定医 大阪大学医学部麻酔集中治療医学講座臨床教授 大阪集中治療研究会 世話人
播磨 恵	副部長	日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医 臨床研究指導医、緩和ケア研修修了
安藝裕子	診療主任	日本麻酔科学会麻酔科専門医、緩和ケア研修修了

1. 診療実績

令和4年度（2022年度）は高内裕司主任部長、播磨恵副部長、安藝裕子診療主任の常勤医3名で診療を行った。火曜日、水曜日、木曜日に非常勤医師各1名が診療に加わった。

① 麻酔管理（周術期管理）

令和4年度の全手術件数は1720例（前年度1659例）で、このうち麻酔科管理症例（全身麻酔及び伝達麻酔その他）は1073例で全症例の62.4%であった（前年度904例：54.5%）。今年度も部長が自らの症例を管理しつつ、従来通りほぼすべての症例を管轄した。産婦人科では全身麻酔症例および併存疾患を持つ脊髄くも膜下麻酔症例や施行困難症例は麻酔科管理であるが、通常の脊髄くも膜下麻酔症例は自科管理であった。この3年間は特に眼科診療の終了（2021年12月）による眼科局所麻酔症例の減少（2019年度607例、2020年度299例、2021年度154例、2022年度0例）や、新型コロナウイルス感染症の蔓延による全体的な手術症例の減少により、全手術件数は以前より大きく減少している。ただし麻酔科管理症例は、泌尿器科や消化器外科救急部門の増設および2022年度からは整形外科の新設により、昨年度よりもさらに増加している。

診療科別の麻酔科管理症例は、呼吸器外科225例：21.0%（前年度254例）、消化器外科155例：14.4%（前年度106例）、乳腺外科79例：7.4%（前年度81例）、産婦人科253例：23.6%（前年度257例）、耳鼻咽喉科177例：16.5%（前年度160例）、泌尿器科124例：11.6%（前年度46例）、整形外科57例：5.3%であった。以前に比し呼吸器外科症例が年々減少している。

麻酔法別では麻酔科管理症例1073例中、全身麻酔959例〔うち376例（39.2%）は硬膜外麻酔併用（前年度43.1%）、236例（24.6%）は神経ブロック併用（前年度23.5%）〕、脊髄くも膜下麻酔112

例〔うち3例(2.7%)は硬膜外麻酔併用、25例(22.3%)は神経ブロック併用〕、硬膜外麻酔1例、伝達麻酔1例であった。全身麻酔における硬膜外麻酔あるいは神経ブロック併用症例は合計612例(63.8%)（前年度66.7%）であり、他院と比較しても、より積極的に術後鎮痛を図っている。

当センターの特殊性により、外科症例には間質性肺炎(IP)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、喘息、その他のアレルギー疾患を合併した症例をはじめ、在宅酸素療法を必要とする高度呼吸機能低下症例や、結核やその他の感染症(肺アスペルギルス症、膿胸)の治療中や治療直後の症例が比較的多く含まれる。高度呼吸機能低下症例では気管支拡張療法や呼吸リハビリテーションなどの術前管理をはじめとして、綿密な周術期管理が必要であり、肺結核治療中あるいは治療直後の患者の手術も専門知識と感染対策が必要である。これらの症例は他院では極めて少なく、これら重症の低肺機能患者の周術期管理にも積極的に介入している。さらに様々な気道狭窄の高リスク症例における焼灼、拡張、ステント留置などの麻醉・気道管理にも積極的に取り組んできたが、これは呼吸器外科症例の減少と共に年々減少している[今年度は0例(前年度3例)]。また、呼吸器外科では大部分の221例(98.2%)に分離肺換気を要した。麻酔科医1名当たりの分離肺換気管理数としてはまだかなり多い症例数である。

術後疼痛管理は特に呼吸器合併症を有する症例においては、早期の離床や術後合併症の軽減にも貢献する。強い術後疼痛が予想される症例に対しては、局所麻酔薬や麻薬を用いた持続硬膜外鎮痛(PCA併用)を中心に対応し、加えて超音波ガイド下各種末梢神経ブロックや麻薬の持続静脈内投与でも対応している。同時に嘔気嘔吐などの副作用も軽減できるように配慮している。

術前評価に関しては、毎週木曜夕に呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科および泌尿器科と、月曜夕に産婦人科と、全麻酔科管理症例について術前症例検討会を行い、術前問題点についての検討や必要な症例には術前管理に関する助言や介入を行っている。耳鼻咽喉科や整形外科に対しては問題症例について個別に対応している。併存疾患や手術内容等で特に問題となる重症症例に対しては、予め十分に時間を取って術前準備・管理に関する助言を行い、術後全身管理に関しても各診療科に対し積極的に助言・協力をしている。

② ペインクリニック／緩和ケア

ペインクリニックは麻酔科人員数の問題で外来診療は休診中であるが、入院患者および各診療科の外来受診時には、各科との連携で依頼があれば部長が個別に対応している。また、緩和ケアチームに参画し、各スタッフとともに癌性疼痛患者に対する疼痛管理に協力している。今年度は院内では、呼吸器外科の外傷性多発肋骨骨折に対して肋間神経ブロックや持続硬膜外ブロック(長期留置用)と疼痛管理に関する指導を行った。

3. 研究・学会活動

長年にわたり主として呼吸器領域に関して、低肺機能の周術期管理の検討、麻酔薬や手術操作など様々な状況での呼吸メカニクスの計測や呼吸生理の研究、新しい二腔式気管チューブの開発や分離肺換気の工夫などを行ってきた。その結果は関連学会での報告や講演、雑誌や教科書への執筆などで発表してきた。今年度は「呼吸器系のリスクと全身麻酔の可否・耐術限界」について雑誌に執筆した(LiSA. Vol.30 No.1 38-44. 2023.)。なお学会発表はないが、教科書の執筆を提出中である。

集中治療科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
柏 庸三	主任部長	日本集中治療医学会認定集中治療専門医 日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医 日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医
岡田英泰	医員	日本内科学会認定医、緩和ケア研修修了

1. 診療概要

集中治療科では、臓器や疾患を問わず全ての診療科から重症患者を受け入れ、最新の知見に基づき先進医療技術を駆使した急性期集中治療を行うことで、臓器機能を回復させ、病態を改善し、患者を救命することを目指している。重症診療部門として高度治療室 HCU 8床を有し、時間内は専任の集中治療医が各診療科主治医と協議のもとに診療を担当する semi-closed HCU 形式にて診療を行なっている。集中治療科医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学士、呼吸サポートチーム、各診療科とカンファレンスを行いながら、治療に関わるすべての業種・スタッフで病態に関する情報および治療方針を日々共有し、より適切な治療が行えることを目指したチーム医療を実践している。

令和4年度に当部門で受け入れを行った疾患・病態は、重症呼吸器感染症や敗血症に伴う ARDS、間質性肺炎急性増悪、COPD 増悪に伴う CO2 ナルコーシス、虚血性心疾患や心筋症などによる重症心不全、血液浄化療法を要する慢性腎不全や急性腎障害、意識障害や心停止蘇生後の管理など、その領域は多岐にわたる。特に当部門では、HCU 内に陰圧個室を有し、人工呼吸管理や持続的血液浄化療法などを必要とする重症肺結核患者の集中治療が可能であり、令和4年度においても、症肺結核患者の診療を感染症内科と共同して行っている。さらに、令和2年から続く COVID-19 パンデミックにおいては、第4波より集中治療科 HCU 内に COVID-19 専用病室を設け、令和4年度においても引き続き主に侵襲的人工呼吸管理などの集中治療を要する重症患者の診療を担った。

3. 診療実績

●集中治療科 HCU 入室症例数 (COVID-19 除く)

呼吸器外科 177 例 消化器外科 66 例 産婦人科 33 例 泌尿器科 11 例 呼吸器内科 4 例
アレルギー・リウマチ内科 4 例 肺腫瘍内科 3 例 感染症内科 2 例 循環器内科 2 例
耳鼻咽喉・頭頸部外科 1 例 皮膚科 1 例 救急 1 例 ほか 計 367 例

●集中治療科 HCU 入室の COVID-19 患者への

人工呼吸症例数 2例 うち侵襲的人工呼吸症例 1例 ハイフローセラピー症例数 1例

●集中治療科 HCU 入室の非 COVID-19 患者への

人工呼吸症例数 47例 うち侵襲的人工呼吸症例 28例 ハイフローセラピー症例数 12例

血液浄化療法症例数 1例

4. 業績

【著作・著書】

柏庸三 気管切開による管理が必要な患者とは？ みんなの呼吸器 Respica 20: -, 2022.

救急診療科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
廣田 哲也	主任部長	日本救急医学会専門医・指導医、日本病院総合診療医学会認定医、麻酔科標榜医、大阪府難病指定医、日本救急医学会ICLS コース インストラクター・ディレクター、臨床研修指導医、卒後医師臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、脳梗塞急性期 rt-PA 静注療法の適正使用のための講習会修了

2. 診療概要

令和4年4月に救急診療科が開設され、診療時間内（平日9時～17時30分）には救急診療科医師が救急外来に常駐し、院内各科の協力のもとで初診/当センター通院中を問わず、呼吸器疾患、急性腹症や外傷をはじめとして従前よりも多様な救急患者（原則15歳以上）の初期診療にあたるようになった（15歳未満の患者は小児科医師が対応）。一方、診療時間外（平日17時30分～翌日9時、土・日・祝日終日）は救急外来担当医が主に当センター通院中の患者、内科系の初診患者の診療を担っている。今後も増加が予想される地域の救急ニーズに円滑に対応するためには、恒常的な患者受け入れ体制の確保が理想であり、とくに診療時間外における外傷あるいは消化管出血・急性腹症などの特定病態を有する初診患者の診療体制などについても院内全体で再検討する余地がある。

令和4年12月には南河内医療圏の重症初期対応医療機関に認可された。当センター近隣の救急隊員との連携強化を目指して「救急医療勉強会」を年2回開催し、南河内・中河内地域メディカルcontres協議会での事後活動検証、口頭指導・実施基準検証を通じて救急隊員への助言・指導を行った。

患者サービス向上の一環として、院内急変対応ワーキングに参画して Rapid Response System の一翼を担い、日本救急医学会認定二次救命処置(ICLS)コースの自施設開催（年2回）や救急外来担当看護師を対象とした講義を通じてスタッフ教育を図った。来年度以降、早期離床リハビリテーションへの介入、初期研修医に対する教育体制の整備にも尽力したい。

3. 診療実績

延べ救急外来患者数 4,572人

延べ救急搬送件数 2,086件

（うち柏原羽曳野藤井寺消防組合からの搬送件数 1,263件）

4. 業績

【論文】

廣田哲也, 喜多亮介, 大橋直紹, 端野琢哉. 亜急性甲状腺炎との鑑別が困難であった急性化膿性甲状腺炎の1例. 日臨救急医会誌. 25:745-750, 2022.

【啓発・研修活動】

廣田哲也. 救急隊員に求められる実考力 ～一步先を見据えた病院選定～. 南河内・中河内地域救急医療勉強会 令和4年7月7日, 大阪.

放射線科

1. スタッフ

氏名 役職 認定医・専門医・指導医、取得資格等

【医師】

竹下 徹 主任部長 日本医学放射線学会専門医、日本医学放射線学会研修指導者、

日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医

堤 真一 副部長 日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医、

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

後藤拓也 医員

非常勤画像診断医（7名）大阪公立大学病院およびその関連病院の先生方に非常勤医師として業務をサポートしていただいています。

【診療放射線技師】

別所右一 医療技術部長 医療情報技師、医用画像情報精度管理士、肺がん CT 検診認定技師、

兼技師長 磁気共鳴専門技術者、A i 認定診療放射線技師

石黒秋弘 副技師長 臨床実習指導教員、放射線機器管理士、放射線管理士

医療画像情報精度管理士

森見左近 副技師長 第一種放射線取扱主任者、核医学専門技師

井上達郎 総括主査 第一種放射線取扱主任者、X 線 CT 認定技師

肺がん CT 検診認定技師、放射線治療専門技師

川合航大 主任 第一種放射線取扱主任者、医療情報技師、X 線 CT 認定技師

肺がん CT 検診認定技師、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士

吉田絵未 主任 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定技師、A i 認定診療放射線技師

X 線 CT 認定技師

宇賀慎一 主任 肺がん CT 検診認定技師、医療情報技師

血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師

西村健太郎 主任

濱田勇輝 技師

豊川沙織 技師 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定

技師 X 線 CT 認定技師、X 線 CT 認定技師

森田雅士 技師 医療情報技師

第3 各部局の活動状況 1. 診療各科 画像診断科・放射線治療科

大西亜希	技師	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定 技師 X 線 CT 認定技師
砂山正典	技師	

2. 診療概要

放射線科は（1）画像診断、（2）interventional radiology (IVR)（画像下治療）、（3）放射線治療の3部門に分けられる。

- (1) 画像診断部門にはX線 CT、MRI、単純写真などを用いた各疾患の診断と、放射性医薬品を投与し撮像して診断を行う核医学が含まれる。安心・安全な医療は、まず正しい診断から始まるため、「正確な画像診断を迅速に」を心がけている。
- (2) IVR 部門は、血管造影、CT、超音波検査などの画像を見ながら様々な疾患の治療を行なう部門である。近年は画像下治療とも呼ばれる。呼吸器疾患の患者さんが多い当院の特徴を踏まえ、持続する血痰や喀血に対するカテーテル治療の件数が多い。各診療科と連携し、入院での治療を行っている。緊急性を要する塞栓術などにも24時間体制で対応している。
- (3) 放射線治療部門では、多くの悪性腫瘍に対して放射線治療を行っている。各診療科との連携のもとで外来あるいは入院での治療を行っている。可能な限り最新の技術を用いて、線量分布の最適化に努めている。

当科は、日本医学放射線学会認定の研修施設で、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関と日本放射線腫瘍学会認定協力施設に認定されている。

院内の多数の科とのカンファレンスを積極的に行い、各診療科医師との緊密な連携に努めている。

3. 診療実績

表 令和4(2022)年度の放射線科検査・治療一覧

一般撮影		
胸部単純写真	31,696 件	
腹部単純写真	1,766 件	
骨撮影・その他	3,241 件	
病室撮影	6,297 件	
マンモグラフィー	2,644 件	
(内、羽曳野市検診マンモグラフィー	1,468件)	
特殊検査		
消化管造影	42 件	
尿路・膀胱	16 件	
嚥下造影	11 件	
胆管・その他	100 件	
子宮卵管造影	20 件	
気管支鏡検査	214 件	
CVポート	45 件	
CT	13,915 件	(内、造影検査 1,699件)
MRI	2,752 件	(内、造影検査 536件)
アイソトープ	計 438 件	
骨シンチグラフィー	361 件	
肺血流シンチグラフィー	16 件	
ガリウムシンチグラフィー	1 件	
その他	60 件	
血管造影検査(治療含む)		
循環器内科担当	107 件	
放射線科担当	59 件	
放射線治療	照射件数 1,730 件	(移設工事のため4月～12月集計)
(内、4門照射 1,523件、3門照射 2件、非対向2門 5件、対向2門 101件、1門照射 20件)		
患者数	101 人	
地域医療連携室経由の検査件数	386 件	
(内、CT:322件、MRI:22件、アイソトープ:28件、放射線治療:14件)		

4. 業績

【論文】

Tohru Takeshita, Hisakazu Matsushima, Kimimasa Ikeda, Toshiki Noma, Takuya Goto, Daiju Ueda. Strangulated Smalii-bowel Obstruction due to Transmesosigmoid Hernia Diagnosed with Multidetector Computed Tomography: A Case ReportOsaka City Medical Journal.68:91-98,2022.

Daiju Ueda,Toshimasa Matsumoto,Shoichi Ehara,Akira Yamamoto,Shannon L Walston, Asahiro Ito,Taro Shimono,Masatsugu Shida,Tohru Takeshita,Daiju Fukuda,Yukio Miki.Artificial intelligence-based model to classify cardiac functions from chest radiographs: a multi-institutional,retrospective model development and validation studyThe Lancet Digital Health.5:525-533,2023.

【啓発・研修活動】

石黒秋弘.気管支解剖講座.日本放射線技師会 大阪府放射線技師会合同令和3年度診療放射線技師の

ためのフレッシャーズセミナー 令和4年6月26日, 大阪.

森田雅士.診療放射線技師の業務と需要の動向から考えるタスクシフト・シェア.第38回日本診療放射線技師学術大会 チーム医療推進委員会シンポジウム 令和4年9月18-20日, 神戸.

石黒秋弘.小児MRI検査のポイント.大阪府診療放射線技師会 生涯学習 明日から役立つセミナー 令和4年9月7日, 大阪.

臨床検査科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
【医師】		
田村嘉孝	主任部長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
山口 徹	レジデント	日本内科学会認定医、日本医師会認定産業医
【技師】		
田中秀磨	技師長	1級臨床検査士（血液）、2級臨床検査士（血液） 認定血液検査技師、認定サイトメトリー技術者 ISO 15189 技術審査員
吉多仁子	技師	認定微生物検査技師、感染制御認定微生物検査技師 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定エキスパート
山田立身	副技師長	超音波検査士（循環器）
長濱泰子	副技師長	超音波検査士（体表、検診、消化器、産婦人科、泌尿器） 乳房超音波講習会 A 判定
川澄浩美	総括主査	認定サイトメトリー技術者、超音波検査士（体表）
大西雅子	総括主査	細胞検査士、国際細胞検査士
中村由加	主任	
梶尾健太	主任	細胞検査士、国際細胞検査士
松井 謙	技師	緊急臨床検査士、2級臨床検査士（微生物）
飯田健斗	技師	細胞検査士
木村紗矢香	技師	細胞検査士、2級臨床検査士（血液）
勝田寛基	技師	緊急臨床検査士、2級臨床検査士（微生物）
土屋功太郎	技師	緊急臨床検査士
安永早希	技師	緊急臨床検査士、超音波検査士（循環器）
福田美朱	技師	緊急臨床検査士
大西正信	技師	
中井亜企	技師	
中山明日香	技師	
藤高優斗	技師	
岩崎真衣	技師	細胞検査士、有機溶剤作業主任者、特定化物物質及び四アリキル鉛作業主任者

網代直子	技師	認定微生物検査技師、感染制御認定微生物
比嘉沙季	技師	
上紺屋昂樹	技師	細胞検査士

2. 診療概要

分析系検査部門

9期目となった検体検査総合システム（LABOTT II 富士通）は次年度には変更予定であるが、新病院開設までは活用することとした。前年度に新規導入した大型生化学分析装置は故障も無く、順調に稼働している。迅速検体検査にヒトメタニューモウイルス、インフルエンザ、アデノ、RS、A群溶連菌検査、産科のクラミジア、尿中肺炎球菌・レジオネラ、便中ロタ・アデノ、ノロウイルスを取り組んでいる。時間外緊急検査では当直業務も軌道に乗り、24時間の検査実施体制も充実している。保険点数における加算は、外来迅速検体検査加算及び検体検査管理加算IVが継続して算定されている。今年度の検査件数は、前年度と同程度であった。

輸血管理面では、今年度は施設基準に適合しており、輸血管理料II及び輸血適正使用加算について算定が可能となった。

当院の特徴でもあるアレルゲン検査では、ニーズに合った項目の追加削除で約190種目を実施し充実を図っている。今年度は43,086件（前年43,508件）と前年度と同程度の検査数であった。アトピー性皮膚炎の病勢の指標とされるTARCについては全自動測定機器を導入後、検体提出日に報告が可能となり、至急対応が出来るため、診療に多いに貢献している（今年度6,158件、前年度6,523件）。

当院の特化した項目である喀痰中・鼻汁中好酸球検査は911件検査実施している。

生理機能検査部門

COPDや気管支喘息、間質性肺炎等の診断のための精密呼吸機能検査を実施しており、患者サービスの観点からも精密呼吸機能検査の当日実施に努めている。NO呼気ガス分析は、呼吸機能検査全体で20,199件のうち3,023件を占めている。睡眠時無呼吸症候群の診断・治療のための睡眠ポリグラフ検査(PSG)も実施している。

心エコー・乳腺エコー・腹部超音波検査には、臨床検査技師7名が携わっている。生理機能システム導入により、上位システムにて鮮明な画像を診療科に提供することができるようになった。腹部エコー件数は971件（前年度820件）と年々増加、乳腺・甲状腺エコーの件数は2,017件と前年度（1,933件）と同程度である。心臓・血管エコー検査の件数は2,938件と前年度2,599件と比べて増加している。エコー検査の需要が毎年増しており、新病院では5台の装置を常備して対応していく予定である。

細菌検査部門

抗酸菌検査においては、チールネルゼン法7件、蛍光染色法が7,792件（前年度7,107件）と増加したが、前々年度と同様の件数である。LAMP法TB検査件数は今年度407件、前年度の690件から減少したが、新規導入したGene-XpertによるPCR法が46件となっている。また、今年度は新型コロナウイルスの遺伝子検査（PCR法）を15,324件24時間体制で実施し、迅速な対応で臨

床に貢献している。

3. 業績

【論文】

大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 鈴木秀和, 岩崎真衣, 上田佳代, 河原邦光.超音波気管支鏡ガイド下針生検施行時のサイトクイック染色を用いたオンサイト迅速細胞診の有用性.日本臨床細胞学会誌.62:17-24,2023.

【学会発表】

大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 岩崎真衣, 河原邦光, 上田佳代.体腔液におけるギムザ染色の有用性.第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会) 令和4年6月10-12日, 東京.

飯田健斗, 大西雅子, 中根和明, 梶尾健太, 岩崎真衣, 上田佳代, 山本浩文, 河原邦光.ホモロジープロファイル法を用いた肺小細胞癌と肺非小細胞癌の鑑別.第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会) 令和4年6月10-12日, 東京.

岩崎真衣, 大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 森 秀夫, 河原邦光, 上田佳代.甲状腺髓様癌の肺転移診断に細胞診が有用であった一例.第61回日本臨床細胞学会秋期大会 令和4年11月5-6日, 宮城.

飯田健斗, 大西雅子, 梶尾健太, 岩崎真衣, 上田佳代.胸水中に出現した原発性滲出性リンパ腫様リンパ腫の一例.第47回 大阪府臨床細胞学会学術集会 令和4年3月4日, 大阪.

勝田寛基, 吉多仁子, 網代直子, 松井 謹, 富田元久.肺 Mycobacteroides abscessus 症におけるKANEKA DNA Chromatography MABC/erm (41) を用いた迅速検査の有用性の検討.第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会 令和5年2月3日-5日, 横浜.

【啓発・研修活動】

梶尾健太.呼吸器細胞診.大阪府臨床検査技師会細胞診定期講習会 令和4年5月27日, 大阪.

岩崎真衣.呼吸器・体腔液細胞診.大阪大学細胞診コースがんプロフェッショナル養成プラン 令和4年8月23日, 大阪.

飯田健斗.呼吸器・体腔液細胞診.細胞検査士試験対策講座 令和4年7月14日, 大阪.

大西雅子.呼吸器・体腔液細胞診.細胞診養成課程細胞診断学特別実習 令和4年6月14日, 大阪.

大西雅子.呼吸器・体腔液細胞診.細胞診養成課程呼吸器令和4年8月10日, 兵庫.

リハビリテーション科

1. スタッフ

氏名 役職 認定医・専門医・指導医、取得資格 等

【医師】

森下 裕 主任部長 日本国内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、日本医師会認定産業医

【理学療法士】

李 仁洙 総括主任 3学会合同呼吸療法認定士

中原千里 技師

森 茉唯 技師

【作業療法士】

中川勇希 技師 福祉住環境コーディネーター2級

【言語聴覚士】

大黒大輔 技師 言語聴覚療法学会認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域）

2. 診療概要

呼吸器リハビリテーションとしての主な対象疾患としては、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、重症肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症などの呼吸器疾患であり、急性期から慢性期まで幅広い介入を行っている。肺癌症例に対しても術前の評価と術後の介入を行い、早期退院ができる様に支援を行っている。新型コロナウィルス感染症後の患者に対してのリハビリテーションも継続し行っている。

理学療法士と作業療法士は、呼吸法や動作要領の指導、運動療法、日常生活動作訓練など一般的な呼吸理学療法・作業療法に加え、労作時に必要となる酸素流量の見極めや在宅酸素療法（HOT）機器の同調性、HOT機器の操作方法、行動変容を目指した患者指導など専門性の高い呼吸リハビリテーション介入を展開した。

心不全症例や弁膜症の術後など心大血管リハビリテーションⅡの対象症例にもプロトコールに基づいた適切なリハビリテーションを提供している。昨年度より整形外科が開設され、骨折後や人工関節置換術後に対し運動器リハビリテーションの実施件数も増加してきている。診療科の増加に伴い、糖尿病教育入院に対し運動療法指導も開始した。

言語聴覚士は嚥下を専門としており、嚥下障害が疑わしい症例に対して機能評価や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などの評価を行い、それに基づいて訓練や食事の形態の選定をし、嚥下障害の改善や誤嚥の予防に努めた。

大阪府立病院機構の新規採用者研修は理学療法士、作業療法士に加え言語聴覚士でも開始となり、後進の育成に貢献した。

3. 診療実績

(ア)新規患者数

PT・OT : 868 件 ST : 282 件

(イ)単位数

PT・OT : 12,493 単位 ST : 2,335 単位

病理診断科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
上田 佳世	部長	日本病理学会病理専門医・研修指導医・学術評議員 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医 厚生労働省死体解剖資格認定、臨床研修指導医
森 秀夫	診療主任	日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、 厚生労働省死体解剖資格認定

2. 診療概要

令和4年度は、医師は上田佳世部長と森 秀夫診療主任の2名と、週一回の非常勤医師1名の体制であった。技師については、臨床検査科よりの配属の形をとり、職員数は常勤技師5名、非常勤技師1名であり、他に医療事務1名の構成であった。

組織診については、令和4年度から大阪大学病理学教室との間にバーチャルスライドを用いたコンサルテーションシステムが稼動した。実績は10件であり、今後も診断精度向上のため積極的に活用する予定である。

細胞診については、羽曳野市の婦人科市民検診を受け入れている。また院内では、気管支鏡下のEBUS-TBNA 実施時に迅速細胞診(ROSE)を行い、病変の採取の有無を内視鏡医にリアルタイムで報告し、気管支鏡下病理組織・細胞診検査の精度の向上に貢献した。

3. 活動実績

病理組織診検査においては、病理組織が、2,968件(院内実施検査ならびに受診患者の他施設標本のコンサルテーション)、細胞診検査8,777件、病理解剖4件であった。また、これらの病理組織検査に対して814件の免疫組織化学を行ない、診断の精度の向上に努めた。

上記病理組織・細胞診検査のうち、術中迅速組織診・細胞診は、それぞれ258件、400件であった。

病理組織検査については、受託研究の形で、近隣の医療機関より、59件(城山病院51件、田辺脳神経外科病院7件、明治橋病院1件)の術中迅速組織診を受け入れ、地域の診療に貢献した。

剖検症例については4回のCPCを行い、主治医のみならず関連科への情報のフィードバックを行った。

5. 業績

【論文】

Hideo Mori,Hiroko Yoshida,Koichi Kawakami.Stealth Omicrom:A Novel SARS-CoV-2 Variant That Is Insensitive to RT-qPCR Using the N1 and N2 Primer-Probes.Cureus.15:-,2023.

【学会発表】

上田佳世,稲葉真由美,高松聖仁.左正中神経の尺側半分に神経束の腫大と血管怒張を認めた症例.第 23 回日本神経病理学会近畿地方会.大阪.

上田佳世.急速に増大した結節状炎症性肺病変の一術例.第 62 回呼吸器病理研究会.大阪.

森 秀夫.スライドカンファレンス 液状検体（胸水）.第 47 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会.京都.

臨床研究センター

1. スタッフ

氏名	役職	
橋本章司	主任部長	認定医・専門医・指導医、取得資格等 日本感染症学会推薦 ICD
	臨床研究センター長	日本呼吸器学会呼吸器専門医
	結核・感染症研究室 室長	日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本感染症学会専門医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
		日本内科学会総合内科専門医 日本臨床研修協議会プログラム責任者 日本医師会認定産業医
片岡葉子	免疫・アレルギー研究室 室長	日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会指導医 日本心身医学会専門医
門田嘉久	分子肺疾患研究室 室長	日本外科学会指導医、日本胸部外科学会認定医 日本呼吸器外科学会専門医 日本がん治療認定医機構認定医 大阪大学医学部臨床教授
松岡洋人	呼吸器研究室 室長	医学博士、日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医
森田沙斗武	臨床法制研究室 室長	医学博士、大阪府監察医事務所監察医 滋賀医科大学法医学教室非常勤講師 日本法医学会法医認定医、日本法医学会検案認定医 死体解剖保存法解剖資格、日本内科学会内科認定医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2. 診療概要

臨床研究センターは、平成18年4月に院内の診療科・検査科・感染対策チーム（ICT）と連携し「医学と医療の進歩に貢献する」ための臨床研究部として創設され、平成29年4月より臨床研究センターとなった。

現在、①結核・感染症、②免疫・アレルギー、③分子肺疾患（肺がん）、④呼吸器（COPD や間質

性肺炎)、⑤臨床法制の5領域で、患者さんの臨床検体と診療データを活用した新しい診断検査法・治療薬・発症予防法の開発と、その臨床治験を進めている。

令和2年度より企業治験の支援に加えて、治験ネットおおさか、大阪大学未来医療部、REMAP-CAP日本と協力し、新規治験及び臨床試験に取り組んでいる。

令和4年度に実施・支援したCOVID-19関連の主要な治験及び臨床研究に、①COVID-19治療薬関連の治験2件、②COVID-19の重症化病態の解明及び重症度の評価に関する研究、③超安定型次亜塩素酸ナトリウム液の室内循環型噴霧による環境表面の除菌効果の検討、④難治性/遷延性呼吸器感染症に対するフルオロキノロン系抗菌薬の有効性と安全性の評価などが挙げられる。

【各研究室の研究内容】

① 結核・感染症研究室

感染症内科・検査科・ICTと連携し、薬剤耐性菌(MRSA、緑膿菌など)の遺伝子配列に基づく伝播経路の推定と感染対策の強化、結核診断法の改良、およびウイルス感染症の重症化病態の診断及び治療法の開発を進め、広域での感染対策強化につなげている。

② 免疫・アレルギー研究室

気管支喘息・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎などの新規治療法と、その治療効果や予後を予測するための診断検査法の開発を進めている。

③ 分子肺疾患研究室

肺がん患者さんの治療効果や予後予測に関連するがん細胞の遺伝子変異の検査法の開発と、その遺伝子変異に基づいた患者さんごとの個別治療法への応用を進めている。

④ 呼吸器研究室

COPDや間質性肺炎などの難治性肺疾患や、敗血症や重症肺障害に対する新しい治療法の開発を進めている。

⑤ 臨床法制研究室

大阪南部地域における死因究明の充実を目的とし、近隣警察からの依頼による検案業務などを主な活動とし、医療安全に対するコンサルト業務も行っている。今後、突然死・異常死症例に対する診断の補助となる検査設備の拡充に努める。

3. 活動実績

臨床研究支援・報告件数 : 30件

院内治験支援・実施件数 : 30件

4. 業績

【論文】

Nakayama E, Kubota R, Sasaki T, Suzuki K, Uno K, Shimizu J, Okamoto T, Matsumoto H, Matsuura H, Hashimoto S, Tanaka T, Harada H, Tomita M, Kaneko M, Yoshizaki K, Shioda T. Anti-nucleocapsid antibodies enhance the production of IL-6 induced by SARS-CoV-2 N protein. Scientific Reports 12:8108-, 2022.

Matsuyama A, Okura H, Hashimoto S, Tanaka T. Prospective, randomized, open-label trial of early versus late povidone-iodine gargling in patients with COVID-19. Scientific Reports (2022) Nov 28;12(1): PMID: 36443363Prospective, randomized, open-label trial of early versus late povidone-iodine gargling in patients with COVID-19. Scientific Reports 12:20449-,2022.

【啓発・研修活動】

橋本章司.新興感染症に強い地域を目指して.南河内感染対策ネットワーク研修会 令和4年7月28日 大阪府藤井寺市(WEB).

橋本章司.臨床研修プログラムの作成（臨床研修評価）など.大阪大学医学部附属病院臨床研修指導医養成講習会 令和4年9月2-3日 大阪府吹田市.

橋本章司.大阪はびきの医療センターにおけるコロナ関連臨床研究の報告と考察.呼吸器・感染症京都セミナー 令和4年9月10日 京都市.

橋本章司.ポストコロナに必要な感染対策とは.日本臨床医学リスクマネジメント学会 2022年度医療安全セミナー（医療安全管理者養成研修会）令和4年10月29日,大阪府藤井寺市(WEB).

橋本章司.スギ花粉米と K15 乳酸菌の連日摂取によるスギ花粉症の症状抑制効果の評価.大阪大学臨床栄養研セミナー 令和5年2月13日,大阪府吹田市(WEB).

橋本章司.地域で取り組む薬剤耐性（AMR）対策と新型コロナウイルス感染症対策.藤井寺保健所第2回管内ネットワーク会議研修会 令和5年2月28日,大阪府藤井寺市.

橋本章司.結核と新型コロナの比較.トップ結核パートナーシップ関西第 10 回ワークショップ 令和5年3月25日,大阪府高槻市(WEB).

橋本章司.肺炎診療のポイントと地域単位の抗菌薬適正使用～新型コロナウイルス感染症の話題を含め～.感染症フォーラム in 泉州 令和5年3月25日,大阪府堺市(WEB).

【マスコミ発表】

高鳥毛敏雄, 橋本章司, 藤川健也ら.結核の現状（「亡国病」ようやく低蔓延国へ）讀賣新聞 朝刊 科学・医療欄(19面) 令和4年7月1日.

橋本章司ら.「低蔓延国」基準達成（結核抑制 手を緩めず）讀賣新聞 朝刊 解説欄(13面) 令和4年9月15日.

橋本章司.スギ花粉米を用いた臨床研究（取材録画の再放送）毎日放送 MBS 4 ちゃん 令和5年3月29日.

次世代創薬創生センター

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医
松山晃文	主任部長	日本内科学会認定内科医
	次世代創薬創生センター長	日本内科学会総合内科専門医
		日本循環器学会循環器専門医

2. 概要

近年、高度専門医療の提供は、医療シーズを橋渡しする Translational Research(TR)部門と、医療ニーズからシーズを生み出す reverseTR 部門が相乗効果をもって開発・提供するトレンドに深化している。

次世代創薬創生センターは、reverseTR 部門として reverseTR に不可欠な産学連携研究・開発を推進するとともに、公衆衛生上の危機に即応する研究も行い、府域医療水準の一層の向上にも寄与したい。

3. 業績

【論文】

Matsuyama A, Okura H, Hashimoto S, Tanaka T. A prospective, randomized, open-label trial of early versus late povidone-iodine gargling in patients with COVID-19. Sci Rep. 12:20449-20449, 2022.

Takedachi M, Sawada K, Sakura K, Morimoto C, Hirai A, Iwayama T, Shimomura J, Kawasaki K, Fujihara C, Kashiwagi Y, Miyake A, Yamada T, Okura H, Matsuyama A, Saito M, Kitamura M, Murakami S. Periodontal tissue regeneration by transplantation of autologous adipose tissue-derived multi-lineage progenitor cells. Sci Rep. 12:8126-8126, 2022.

【著作・著書】

Matsuyama A and Okura H. Chapter 7: Regulation of Genome Editing in Human iPS Cells: Japan. Regulation of Genome Editing in Human iPS Cells. A comparative legal analysis of national regulatory frameworks for iPSC-based cell/gene therapies (Hans-Georg Dederer and Gregor Frenken (Eds)) Springer Nature., Switzerland, pp.223-268, 2022.

【学会発表】

Takaharu Negoro, Hanayuki Okura, Shigekazu Hayashi, Tsutomu Arai and Akifumi Matsuyama LOW RESULT REPORTING RATES OF THE CLINICAL TRIAL OF REGENERATIVE MEDICINE REGISTERED ON CLINICALTRIALS.GOV: AN ANALYSIS USING ADISINSIGHT DATABASEISSCR 2022 Annual Meeting, 15-18 June, 2022. San Francisco, CA, USA.

Kohsuke KAWASAKI, Masahide TAKEDACHI, Keigo SAWADA, Chiaki MORIMOTO, Asae HIRAI, Junpei SHIMOMOURA, Mari MURATA, Kazuma KAWAKAMI, Koji MIKI, Noboru TAKESHITA, Kazuma SAKURA, Akifumi MATSUYAMA, Hanayuki OKURA, Masahiro KITAMURA, and Shinya MURAKAMICarbonate apatite as a scaffold for periodontal regeneration cell therapy.2022 IADR/APR General Session (Virtual)

豊田淑江、田中建志、松村剛毅、吉原健司、林克彦、大倉華雪、松山晃文、大屋賢司、内田恵理子、工藤由起子、山口照英.細胞治療を目的とする新たな Super Myeloid Angiogenic Cell (Super MAC)の開発第 21 回日本再生医療学会総会 令和 4 年 3 月 17 (木) ~19 日 (土) WEB.

黒田拓也, 安田 智, 松山さと子, 三浦 巧, 澤田留美, 松山晃文, 森岡勝樹, 山本由美子, 川路 英哉, 伊藤昌可, 阿久津英憲, 河合 純, 佐藤陽治.ヒト iPS 細胞における神経分化予測マーカーによる神経分化調節機構の解明第 21 回日本再生医療学会総会 令和 4 年 3 月 17 (木) ~19 日 (土) WEB.

2 薬局

1. スタッフ

氏名	役職	専門資格
金銅葉子	薬局長	日本医療薬学会がん専門薬剤師・がん指導薬剤師 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 日本臨床栄養代謝学会臨床栄養代謝専門療法士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
木澤成美	副薬局長	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
木村 貴	総括主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
的場美香	総括主査	日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 日本腎臓病薬物療法学会腎臓病薬物療法認定薬剤師 日本糖尿病療法指導士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
友井理恵子	総括主査	日本医療薬学会がん専門薬剤師 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
岩田浩幸	主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師
上田理恵	主任	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
澤井祐樹	主任	日本結核 非結核性抗酸菌症学会登録抗酸菌症エキスパート 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本各医学会核医学認定薬剤師 日本災害医学会 PhDLS プロバイダー
水口侑子	技師	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
南 美穂	技師	
盛谷友梨	技師	

松下一樹	技師	日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 小児アレルギーエデュケーター アレルギー疾患療養指導士
和田宜久	技師	日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師
		日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 小児アレルギーエデュケーター アレルギー疾患療養指導士
		日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
三谷優香	技師	
北 愛華	技師	

2. 概要

薬局では、患者に安全で質の高い医療を提供することを第一として、調剤や服薬指導を入院患者のみならず外来患者へも行っており、小児科外来吸入指導、がん薬剤師外来での抗がん剤指導、手術前の薬剤師外来などを実施している。入院時に持参薬確認を行い、処方薬の総合評価の取り組みとしてポリファーマシー解消に向けた減薬などの総合的な評価と調整を行うことで入院から退院まで薬剤師が薬剤に関して介入している。医薬品管理、医薬品情報管理の他、緩和ケアチームや I C T 、 N S T 、入院結核患者への服薬確認（D O T S ）、アトピーカレッジなど当院でのチーム医療の活動に積極的に参加し、薬剤師の専門性を発揮している。

地域の医療水準向上に向けた取り組みとして、令和 2 年度にセンター独自の薬物療法について収載した薬局向け教本を発刊し、府立病院機構の薬局向け教育プログラムに協力している。また、保険薬局の吸入指導のレベルアップと地域拡大を目指して、アズマネットワークで当センター薬剤師が中心となって吸入手技の指導や吸入薬の正しい知識を提供している。

・調剤、製剤業務

処方オーダリングシステムを採用して相互作用や禁忌などのチェックを行うことで正確で安全な調剤を行い、投薬開始日を基準に薬の払い出しを行っている。注射薬については患者毎に 1 日分、 1 施用単位ごとに調剤し、注射薬の払い出しをより安全に行うために注射薬自動払い出し機（アンプルピッカー）、鑑査システムを導入している。平成 28 年度からは、薬剤に付与されたバーコードを利用して処方毎にバーコードリーダーで読み込み、調剤過誤防止に役立てている。がん化学療法の処方においては、化学療法委員会で承認された登録レジメンからオーダされるようになっており、薬剤師は投与量や投与間隔、対象患者の検査データなどをダブルチェックしている。

承認、販売されている薬剤だけでは多様な疾患に対応できない場合もあり、軟膏の混合製剤など当院独自の院内製剤を作製している。また、手術室や病棟からの請求に基づき、消毒薬や処置薬等の供給を行っている。令和 2 年度には注射薬の配合変化一覧表を作成し病棟に情報提供し、情報収集とデータベースの蓄積を継続している。

・がん化学療法

がん化学療法では、平成 16 年 9 月外来化学療法室開設に伴い、外来患者の抗がん剤の無菌調製を安全キャビネットで開始し、平成 22 年 1 月からは、外来、入院全ての抗がん剤の調製を実施した。

令和元年度から閉鎖式器具を使用するレジメンを増やすことにより抗がん剤暴露対策を推進している。化学療法委員会では事務局を務め、がん専門薬剤師がレジメンの登録・管理に携わり、安全かつ効果的な化学療法の実施に貢献している。令和2年度には当センターで登録された化学療法のレジメンをホームページで公開し保険薬局が閲覧できるようにし、外来化学療法の患者へのレジメン提供を行い、また地域の薬局薬剤師を対象にがん化学療法についてのオンライン研修会を実施して外来腫瘍化学療法診療科連携充実加算の取得に向けた取り組みを行っている。

・無菌調製業務

抗がん剤無菌調製は、平成22年1月に入院及び外来化学療法全ての抗がん剤の調製を薬局で実施している。平日のみならず土日祝日投与の抗がん剤の調製も薬剤師が実施している。令和2年5月からは全病棟を対象に高カロリー輸液(TPN)の無菌調製の運用手順を作成し、薬局のクリーンベンチで薬剤師が無菌調製を行っている。

・薬剤管理指導業務

薬剤管理指導業務は、平成5年12月に小児科から開始、平成19年1月より全科で実施している。また、外来小児患者への吸入指導や服薬指導も実施し、患者及び医師から高い評価を受けている。平成25年度には薬剤師の小児アレルギーエデュケーターが誕生し、院内、院外を問わず教育活動に活躍している。令和3年度には新たに小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導師の資格を持つ薬剤師が増え、更なる活躍をしている。

平成23年度から一部病棟で開始した持参薬鑑別業務は、平成24年11月、薬局前に「持参薬コーナー」を設置して予定入院患者を対象に業務を拡大し、入院前の薬剤師による面談により服薬管理状況の確認や薬剤アレルギー有無の確認を行い電子カルテに入力することにより院内で情報共有している。さらには、時間外、土日・祝日の緊急入院患者に対しても持参薬確認と持参薬オーダーを行い、重複投与防止や医師の業務負担軽減に協力している。令和2年12月からCOVID-19専用病棟入院患者の持参薬鑑別を薬剤師がレッドゾーンに入って開始し、患者からの聞き取り、持参薬入力作業を行い、必要に応じて服薬指導や吸入指導なども行っている。

平成26年4月にお薬相談室を改装し、呼吸器外科の手術予定患者を対象に服用薬情報を主治医に提供するため「薬剤師外来」を開設し、現在では外科外来の全ての診療科からの依頼を受けて抗凝固薬等の服用チェックを行っている。令和元年4月からは耳鼻咽喉科の手術予定者も対象に追加し、令和3年度からは泌尿器科の手術予定者も対象に追加した。平成26年7月より「がん患者指導料3」算定のため、外来がん患者への抗がん剤の指導も開始し、外来化学療法の増加に伴い依頼が増加傾向にある。

令和3年7月からは、結核病棟の入院患者を対象に処方変更の提案を行うと共に内服定期処方の代行入力を病棟担当薬剤師が行うことで医師、看護師の業務負担軽減に貢献している。

・医薬品情報管理業務(DI)

薬事委員会(年4回開催)の事務局として業務を担っている。医薬品の新規採用及び中止について、薬剤の有用性、安全性、経済性だけでなく医療安全の観点からも検討し審議している。後発医薬品の使用促進のため、採用薬の後発品への切り替えや安定供給やコスト面から採用メーカーの見直し変更を行って、令和4年度も後発医薬品体制加算1を算定できており、また外来は一般名処方を導入している。オーダリングシステムにおいて併用禁忌や妊婦等への禁忌薬の処方チェック等、常に最新の医薬品情報が反映できるよう薬品マスターのメンテナンスを行い、適正使用の推進及び薬剤費の

コスト削減、経営の効率化に努めている。さらに安全性情報等、緊急を要するものについては、院内メールを利用し、タイムリーに臨床の場に提供するなど医薬品情報の収集と提供に努めている。

・チーム医療への参画

安全で質の高い医療を提供するため、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）、感染対策チーム（ICT）、褥瘡チーム、嚥下チーム、アトピー・カレッジ、舌下免疫療法導入など他職種で構成されるチーム医療活動に積極的に参画し、薬剤師の立場からチームをサポートしている。また平成30年7月から抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を立ち上げ、AST専従薬剤師を配置した。現在はAST専任薬剤師を中心に、感染症認定薬剤師が院内使用の抗菌薬のサーベイランスやモニタリングを積極的に実施し、院内抗菌薬の適正使用を推進することで質の高い感染対策に貢献している。

・医薬品管理業務

医薬品の入出庫、定数管理は、SPDと連携し効率的な使用に努めている。特に法的規制のある医薬品、麻薬、向精神薬、毒薬については、記録、保管体制を整備し厳重に管理している。令和2年度は覚醒剤原料取締法の改正に伴う院内の覚醒剤原料の取扱いについて運用を作成周知した。また、期限切れによる減損を最小限にするため府立病院機構の病院間移譲・分譲体制を活用し不良在庫の削減を図っている。メーカーの不良品回収や昨今頻発している出荷停止や出荷調整に対しても早く情報収集し、代替薬の確保など供給体制に滞りが生じないよう迅速に対応している。

・治験（受託研究）業務

治験薬管理業務を担い、治験薬の薬品マスター作成から調剤、保管温度、管理簿等の記録まで適正な管理に努めている。治験薬の温度管理については、令和2年度に温度監視システムを導入することにより保冷庫の温度上昇をいち早くキャッチできる体制を構築した。また、治験管理室と協力して、治験の依頼からスタートアップまで、円滑な治験実施体制をサポートしている。

・医療安全活動

医薬品安全管理責任者を中心に医療安全管理室との連携を強め、院内リスクラウンドや他施設への地域連携ラウンド、医療安全カンファレンスへの参加など、医薬品による医療事故防止のため、啓発活動や掲示物の作成など積極的に院内全体の医療安全対策に関与している。令和元年度からは、プレアボイド事例を院内の医療安全委員会で毎月報告を行い、薬剤師が処方の疑義照会により副作用を未然に回避し、薬物治療効果の向上など薬の安全管理に関与した件数を報告している。

・教育・研修

薬局内研修会や各種学会・研究会などに積極的に参加し、薬剤師職能のレベルアップに努め、専門薬剤師や認定薬剤師の育成を図っている。令和2、3、4年度はCOVID-19感染症対策としてオンラインによる勉強会を導入し、薬局内のリモート勉強会を開催した。また、大学薬学部学生1年生の早期体験学習の受け入れを行っており、病院薬剤師業務を見学、体験する機会を設けている。平成22年度から毎年薬学6年制における実務実習生を受け入れており、令和4年度には認定実務実習指導薬剤師8名を中心に薬学生の指導にあたり、COVID-19感染症流行に対する十分な感染対策を行うことにより3期で計12名を受け入れた。

・地域連携

薬薬連携事業として平成30年度から当センター薬局と羽曳野市薬剤師会との協働による手術予定入院患者に対する服用薬及びサプリメントの事前確認を保険薬局と連携して行い、薬の服用が原因で手術が中止にならないよう安心して入院手術ができるように服用管理を行っている。また、令和2

年度から新たに、退院時に入院中の持参薬の変更や中止等、新たな治療薬や退院処方薬などの薬剤情報報をかかりつけ薬局に文書で提供することで退院時薬剤情報連携を行っている。地域の保険薬局からは、当センター退院後や入院前の患者のアドヒアラنسや副作用などの薬剤情報をトレーシングレポートによる情報提供を病院薬局に行うことで連携を行っている。また、年1回薬局主催で保険薬局の薬剤師対象に地域連携研修会を開催し、当院の診療科医師による講演と薬葉連携の情報交換を行っている。

3. 活動実績

業務実績（年間）

薬剤管理指導	10,479件	外来注射処方せん	6,918枚
麻薬管理指導	556件	外来院外処方せん	77,589枚
退院時薬剤情報管理指導	2,637件	院外処方せん発行率	91.40%
薬剤総合評価調整加算	6件	外来がん指導管理料ハ	158件
退院時薬剤情報連携加算	138件	外来小児喘息吸入指導	66件
持参薬確認	4,876件	外来手術前薬剤師外来	597件
抗がん剤調製（入院）	896枚	外来ケモ診察前薬剤師外来	787件
	1,358件	無菌調製処理料1（閉鎖式器具使用）	1,983件
抗がん剤調製（外来）	1,721枚	無菌調製処理料2	621件
	2,330件	後発医薬品割合（数量ベース）	96.27%
入院処方せん	78,642枚	薬学6年制長期実務実習生	12名
入院注射処方せん	92,716枚	新規治験	9件
外来処方せん	7,279枚	取扱い治験件数	38件

医薬品費の執行状況及び薬効別医薬品の使用状況

令和4年度の医薬品費執行額は1,046,314,856円（前年度金額1,124,932,306円）

その剤型別構成比は、内用剤 約8.15%（前年度約9.18%）

外用剤 約3.20%（前年度約2.96%）

注射剤 約88.65%（前年度約87.87%）となっている

また、薬効別医薬品の使用状況については、腫瘍用薬を中心とする細胞機能用医薬品が約49.44%とそれに占める割合が大きい。

医薬品費執行額及び構成比・年度末の採用薬品数

区分	執行額（円）	構成比（%）	令和4年度末採用薬品品目数	令和4年度新規採用医薬品数	令和4年度採用中止医薬品数
内用剤（麻薬・造影剤を含む）	¥85,260,003	8.15%	684	17	27
外用剤（麻薬を含む）	¥33,478,814	3.20%	279	6	13
注射剤（麻薬・造影剤を含む）	¥927,576,039	88.65%	572	21	17
合計	¥1,046,314,856	100.00%	1,535	44	57

薬効別医薬品購入金額

大分類	小分類	金額	構成比 (%)
神経系及び感覚器官用医薬品	中枢神経系用薬	9,821,161	0.94%
	末梢神経系用薬	4,172,666	0.40%
	感覚器官用薬	756,300	0.07%
	計	14,750,127	1.41%
個々の器官系用医薬品	循環器官用薬	7,354,882	0.70%
	呼吸器官用薬	159,106,123	15.21%
	消化器官用薬	11,108,267	1.06%
	ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	16,905,438	1.62%
	泌尿生殖器官及び肛門用薬	1,940,925	0.19%
	外皮用薬	8,315,583	0.79%
	歯科口腔用薬	4,011	0.00%
	その他の個々の器官系用医薬品	3,666	0.00%
	計	204,738,895	19.57%
代謝性医薬品	ビタミン剤	927,637	0.09%
	滋養強壮薬	9,552,505	0.91%
	血液・体液用薬	45,513,615	4.35%
	人工透析用薬	1,192,683	0.11%
	その他の代謝性医薬品	87,172,283	8.33%
	計	144,358,723	13.80%
組織細胞機能用医薬品	細胞賦活用薬	0	0.00%
	腫瘍用薬	474,193,578	45.32%
	放射性医薬品	0	0.00%
	アレルギー用薬	43,085,588	4.12%
	計	517,279,166	49.44%
生薬および漢方処方に基づく医薬品	生薬	0	0.00%
	漢方製剤	516,408	0.05%
	その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品	0	0.00%
	計	516,408	0.05%
病原生物に対する医薬品	抗生素質製剤	40,188,191	3.84%
	化学療法剤	84,026,244	8.03%
	生物学的製剤	16,655,500	1.59%
	寄生動物用薬	754,688	0.07%
	計	141,624,623	13.54%
治療を主目的としない医薬品	調剤用薬	1,162,946	0.11%
	診断用薬（体外診断用医薬品を除く）	12,576,310	1.20%
	公衆衛生用薬	0	0.00%
	防腐剤	0	0.00%
	防疫用殺菌消毒剤	561,600	0.05%
	体外診断用医薬品	0	0.00%
	その他の治療を目的としない医薬品	4,300,685	0.41%
	計	18,601,541	1.78%

第3 各部局の活動状況 2. 薬局

大分類	小分類	金額	構成比 (%)
麻薬	アルカロイド系麻薬（天然麻薬）	2,029,550	0.19%
	合成麻薬	2,415,823	0.23%
	計	4,445,373	0.42%
合計		1,046,314,856	100.00%

4. 業績

【学会発表】

水口侑子, 和田宜久, 澤井祐樹, 上田理絵, 岩田浩幸, 的場美香, 木村 貴, 木澤成美, 金銅葉子.
アミカシンリポソーム吸入用懸濁液導入に向けた他職種での取り組みについて.第32回日本医療薬
学会年会 令和4年9月23-25, 群馬.

【啓発・研修活動】

澤井祐樹.抗菌薬適正使用に向けた取り組み.第1回藤井寺保健所管内院内感染ネットワーク会議 令
和4年9月20日WEB.

木村 貴.当院における薬剤外来の取り組みについて.第4回大阪がん治療チームセミナー 令和4年
11月16日WEB.

友井理恵子.がん治療をサポートする薬剤師外来.第3回大阪はびきの医療センターがん病薬連携研修
令和4年11月25日WEB.

3 看護部

1. スタッフ ※看護師現員数（令和4年10月1日現在）

所属	診療科	看護師長	定数	常勤		非常勤	常勤	非常勤・派遣
				看護師	准看護師			
1A	産婦人科 NICU	中出亜希代	34	36	0	6	0	4
2A	外科	中村由利子	25	29	0	3	0	8
2B	ICU	福村 恵	25	24	0	1	0	0
4A	有料個室	田中真奈美 山本攝子	40	46	0	1	1	6
5A	呼吸器内科 循環内科	難波美華	37	42	0	6	0	10
5B	HCU	倉田悦子	21	21	0	1	0	0
7A	小児科	吉田めぐみ	28	27	1	8	0	3
9A	地域包括	関田 恵	21	コロナのため閉鎖中				
10A	肺腫瘍、 産婦人科 他	井上理恵	25	24	0	3	0	6
10B	新型コロナ感染症	榎本かおり	25	25	0	0	0	2
11A	結核 多剤耐性	秦 順子	37	32	2	4	1	2
手術室		森本恭子	15	20	1	0	0	0
外来		荻野洋子	17	20	0	19	0	2
地域医療連携室		田中久美	6	9	0	1	0	0
患者相談室				2	0	0	0	0
看護管理室			7	10	0	1	0	0
小計			363	367	4	54	2	43
産休・その他（育休・研修・病欠・休職等）				14	0	0	0	1
合計			363	385		54	2	44

※9Aは、コロナ感染症患者対応スタッフ確保のため他病棟で勤務した。

※看護補助者数には派遣ナイトサポーター含む

専門認定・資格等

岡田知子 日本国看護協会 認定看護管理者

大阪府看護協会 府南支部理事

羽澤三恵子 大阪府看護協会 府南支部・看護師技能委員I

森本恭子	大阪府看護協会 府南支部・書記
竹川幸恵	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師
	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 理事
	日本慢性看護学会 評議員
	福井大学大学院医学系研究科付属
	看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程 入試委員会委員
	教育委員会委員
	南近畿リハビリテーション研究会 世話人
	急性期 NPPV・呼吸ケア研究会 世話人
	大阪呼吸器看護研究会 会長
平田聰子	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師
盛光涼子	日本看護協会 小児看護専門看護師
橋本美鈴	日本看護協会 感染管理認定看護師
岡田由佳里	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
岩田香	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
良田紀子	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
渡部妙子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
鬼塚真紀子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
福地御富貴	日本看護協会 認知症看護認定看護師
小川司	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
川上明子	日本看護協会 クリティカルケア認定看護師
日本小児臨床アレルギー学会 小児アレルギーエデュケーター	10名
日本ケアリハビリテーション学会 呼吸ケア指導士	7名
3 学会合同 呼吸療法認定士	10名
栄養サポートチーム専門療法士	3名
アレルギー疾患療養指導士	2名

2. 概要

令和4年度は次年度に控えた新病院開院を見据え、以下の3点を重点目標として取り組んだ。

- ① 地域における総合的な医療の拠点病院として効率的で質の高い急性期看護の提供
- ② 新型コロナ対応を含む、当センターの専門性を活かした積極的な地域連携・支援
- ③ 働きやすさと働きがいのある職場作り

① 地域における総合的な医療の拠点病院として効率的で質の高い急性期看護の提供

救急部門開設を含む新病院に向けた体制作りと、病院組織として正式に位置づけられ患者総合支援センターを中心としたPFMの更なる推進に取り組んだ。結果、救急搬送件数は2081件/年（前年度比+623件）と順調に増加し、令和2年度に比べると倍近い救急患者を受け入れた。また、入院前支援の対象を救急患者にまで拡大し、入退時支援件数1668件(+292件)、入退院支援件数4610件(+47件)という成果を得た。DPCⅡ期間の割合も69.8%以上と概ね急性期病院として適正な入院期間を維持している。

総合病院化に向けた診療科拡大にも対応し、当センター初となる整形外科の手術も開始されたが、大きなトラブルなく経過した。さらに新病院開院に向けて様々なワーキンググループが活動する中で、多職種チームのコーディネーターとしてマニュアルやルール作りに中心的役割を果たした1年であった。

② 新型コロナ対応を含む、当センターの専門性を活かした積極的な地域連携・支援

コロナ6波、7波、8波と感染急拡大を繰り返し、多くの病院がクラスターで診療縮小を余儀なくされる中、当センターもクラスターを経験しながらも年間625名の新規コロナ患者を受け入れた。これは地域内では最多、大阪府下でもトップクラスの実績であり、感染症指定医療機関としての役割を果たすことができた。

また、専門性の高い看護師を中心に、オンラインを活用して地域の医療職・介護職に向けた研修会を積極的に開催し延べ、100名以上の参加があった。感染管理やアレルギーの分野では、地域の病院や介護施設、学校に直接出向き計33件の訪問指導・助言を行い、あらゆる方面から地域医療を支援した。

③ 働きやすさと働きがいのある職場作り

救急部門の増員やナイトソポーター導入による看護補助者へのタスクシェア・タスクシフトに取り組んだ。しかし、長引くコロナ渦の影響で労働環境は厳しい状況が続いており、常勤離職率は10.6%（再雇用除くと8.7%）と昨年度より上昇した。新人離職率も16.1%と高い状況が続いているが、Z世代の理解を深め指導方法を工夫することで昨年度より3.3%改善した。

3. 実績

1) 重症度、医療・看護必要度II（令和4年4月～令和5年3月）

一般病棟平均30.0%（前年比-8.4）、結核病棟11.9%（前年比-9.1）であった。

病棟別平均重症度、医療・看護必要度（医事データより）

病棟	1A	2A	2B HCU	4A	5A	5B HCU	7A	10A	10B	11A
割合:%	56.9	51.0	98.7	28.9	22.0	93.2	9.0	25.9	35.9	11.9

2) 看護部委員会活動

委員会	活動内容
副看護師長会	<ul style="list-style-type: none"> 各自所属の委員会や新病院WGでの情報を伝達共有する 各部署でリーダーシップを発揮し、新病院移転への準備を行う
主任会	<ul style="list-style-type: none"> e-ラーニングの整備活用 従来のe-ラーニングと学研ナーシングメソッドの運用の検討
新人教育担当者会	新人看護師研修の企画運営をとおして新人看護師の育成にかかる
看護部教育委員会	「自律して学び続ける専門職をめざす人材を育成する」というビジョンに留意した研修企画
看護研究委員会	看護研究支援者の育成
臨床指導者会	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習マニュアルの見直し 実習アンケートの内容修正と活用 補助者研修の企画運営 看護補助者マニュアルの周知と運用 「既卒・中途採用のあゆみ」の見直し
リスクナース会	<ul style="list-style-type: none"> 各部署のインシデントへの対策・実施・評価 6Rの周知と実践
リンクナース会	<ul style="list-style-type: none"> カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)の防止 手指消毒の遵守
NST・褥瘡担当者会	褥瘡・NST担当者の知識の向上を図り、NST活動を活性化する。
記録委員会	効率的で質の高い看護記録のため：クリニカルバス推進 標準看護計画の円滑な運用
退院調整担当者会	新病院で入退院支援の標準化に向けた体制づくり

3) 現任教育実施状況

新型コロナ感染症の感染状況に応じ、Webなどを活用しながら例年通りの研修計画を実施した。

(院内研修)

	研修名	日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	講師
ラ ダ ー 研 修	感染基礎	4/5	新採用看護職員	34名	感染防止対策の基本が理解できる 明日から標準予防策が実施できる	講義 演習	感染管理認定看護師 橋本 美鈴副看護師長
	安全基礎	4/13	新採用看護職員	40名	医療安全体制について理解できる 患者認認対策、院内感染対策、転倒転落防止対策を理解できる	講義 演習	医療安全管理責任者 泉 和江 副看護師長
	専門看護基礎① (呼吸器看護)	4/13	新採用看護職員	34名	呼吸器疾患看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 11A 中西 亜留美 主任看護師
	救急看護基礎	5/20	新採用看護職員	34名	救急場面で慌てずに役割発揮ができる	講義 演習	CPR委員会 5B 森田 勝利 副看護師長
	専門看護基礎② (がん看護)	10/21	新採用看護職員	30名	がん(肺がん)看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 10A 馬場 友里看護師 2A 立追 亜由美 看護師
	専門看護基礎③	11/18	新採用看護職員	30名	アレルギー疾患看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 5A 滝嶋 しのぶ 看護師
	看護研究基礎	12/16	新採用看護職員	25名	ケースレポートを書く意義が理解できる ケースレポートの形式が理解できる	講義	院内講師 9A 関田 恵子看護師長
	プライマリーナース	12/16	新採用看護職員	25名	基本的な看護展開とプライマリーナースの役割について理解できる	講義 グループワーク	院内講師 2B 吉田 顕主任看護師
I	フィジカルアセスメント	6/6	ラダーⅠを目指す 看護職員	20名	日々の実践の中で、受け持つ患者の身体的なアセスメントが出来る ①客観的・主観的な身体情報を正確に待る方法を学ぶ ②患者訴えや呈している症状を正しくアセスメントし、状況を判断できる	講義 演習	院内講師 10B 橋本 弘祝主任看護師
	文献検索	7/22	ラダーⅠを目指す 看護職員	23名	文献検索の方法を理解する ①実践の中での疑問を明らかに調べることができる	講義 演習	院内講師 1A 大上 尚美 副看護師長
	感染防止技術	10/4	ラダーⅠを目指す 看護職員	20名	バイオハザード物質管理・創傷管理を標準予防策に準じて実施できる 医療器材の洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を習得し、適切な管理ができる	講義 演習	リンクナース会 大高 美香 副看護師長
II	医療安全Ⅱ	7/5	ラダーⅡを目指す 看護職員	19名	アクシデントを防止するためのKYTを理解し、実践に活用できる	講義 グループワーク	医療安全管理責任者 泉 和江 副看護師長 医療安全推進委員会 古口 真美子 副看護師長
	看護研究概論	7/19	ラダーⅡを目指す 看護職員	8名	看護研究のプロセスを理解できる	講義	大阪府立大学 講師 知恵子教授
	エクセル・パワーポイントの活用	9/9	ラダーⅡを目指す 看護職員	11名	仕事に活かせるエクセル・パワーポイントの機能を理解できる	講義 演習	看護部 豊田 充代
	メンバーシップ	11/11	ラダーⅡを目指す 看護職員	15名	組織の中でメンバーとしての役割を理解しメンバーシップが発揮できる	講義 グループワーク	院内講師 手術室 松本 由紀子副看護師長
	感染症別感染対策基礎	11/30	ラダーⅡを目指す 看護職員	16名	感染経路管理が必要な微生物の理解ができる 感染経路別対策が自律して行える	講義・演習 グループワーク	感染管理認定看護師 橋本 美鈴
	入退院支援	1/27	ラダーⅡを目指す 看護職員	14名	入退院支援についての知識を得ることで、病棟における看護師の役割が理解できる	講義 演習	院内講師 5A 中村 亜弓美副看護師長
III	現任教育	6/30	ラダーⅢを目指す 看護職員	11名	教育の基礎的知識を学び、効果的な教育指導が行える	講義 演習	看護部 豊田 充代
	統計	9/22	ラダーⅢを目指す 看護職員	8名	統計の基本を理解できる	講義 演習	9A 関田 恵子看護師長 豊田 充代
	看護倫理	8/31	ラダーⅢを目指す 看護職員	12名	看護実践を倫理的視点で振り返ることができる	講義 グループワーク	認知症看護認定看護師 福地 御富貴 副看護師長
	医療安全Ⅲ	1/13	ラダーⅢを目指す 看護職員	13名	部署のインシデントや係の数量分析ができる 部署のインシデント分析仕法を活用して対策を検討できる	講義 演習	医療安全推進委員会 吉田 めぐみ 副看護師長 松本 由紀子副看護師長
	看護研究計画書作成	8/25 11/25 or 28 12/23 1/24 or 30 2/24	ラダーⅢを目指す 看護職員	9名	自己の課題に研究的に取り組み、看護研究計画書を作成する	講義 演習	大阪公立大学 益 加代子准教授 南村 二美代准教授 看護研究委員会
IV	プレゼンテーション	12/9	ラダーⅣを目指す 看護職員	6名	院内外の発表で、効果的なプレゼンテーションを行うことができる	講義 演習	看護部 近藤勝美
役割別研修	新人看護師	4/5.6	4月採用看護職員	延べ 68名	当センターの組織や看護について理解し、部署配属後円滑に職場に適応できる 服薬規程、当センターの看護、教育、看護倫理、防火・防災 医療安全、感染管理・電子カルテシステム操作、看護記録	講義 演習	看護部長、副看護部長 看護師長 新人担当者、実地指導者 事務局総務人事
	新人看護職員研修	4/13,20,28 5/20,27 6/10,7/15 8/19,9/8 10/21,11/18 12/16,1/20 2/10,3/17	新採用看護職員	延べ 452名	看護師として必要な基礎的技術・知識を学び実践に活かす 専門職として学び続ける姿勢を身につける 看護技術 〔心電図・移動の介助・食事介助・薬剤の管理・輸血の管理・褥瘡予防〕 看取りのケア・多重課題・外来・病棟連携・入退院支援	講義 演習 ロールプレイング	院内講師 理学療法士・臨床工学技士 薬剤師・精神看護専門看護師 新人担当者・実地指導者 外部講師 日本赤十字血液センター
	卒後2年目研修	6/24	卒後2年目看護師	22名	日々の実践を振り返り「看護」について考える 自分が看護をするうえで大切にしていることに気づくことができる	講義 グループワーク	慢性呼吸器看護認定看護師 鬼塚 真紀子主任看護師
	卒後3年目研修	8/26	卒後3年目看護師	18名	自分の看護実践を他者に語ることができ 看護実践で大切にしていることを概念化できる	講義 グループワーク	がん化学療法認定看護師 良田 純子主任看護師
	卒後3年目研修	10/28	卒後5年目看護師	8名	自己の看護のこだわりを概念にし、概念を言語化して他者に説明できる	講義 グループワーク	慢性看護専門看護師 平田 駿子副看護師長
	新人看護職員実地指導者意見交換会	6/27,11/29	実地指導者	21名	実地指導者として効果的に新人教育を行うための情報を共有する	講義 グループワーク	新人担当者会
看護補助者	看護補助者研修①	2022.12/22 2023.1/20	ヘルパー	15名	食事のお世話 ～食事介助の基本～	e-ラーニング テスト	日本赤十字医療センター 秋山 里子先生
	看護補助者研修②	2022.12/22 2023.1/20	全看護補助者	38名	看護補助者と協働するための情報共有とコミュニケーション	e-ラーニング テスト	日本赤十字医療センター 加藤 ひろみ先生
発表研究等	ケースレポート発表会	11/11 12/16,1/13	全看護職員	153名	事例を発表することによって、行った看護を振り返ることができる 他の者の事例を聞くことで看護を共有できる	講演 ディスカッション	関西看護医療大学 冥浦 洋子先生
	重症度・看護必要度研修	2022.10~ 2023.3	全看護職員	225名	一般急性期病棟の看護マネジメントに活かす重症度、医療・看護必要度	e-ラーニング テスト	関西看護医療大学 冥浦 洋子先生

第3 各部局の活動状況 3. 看護部

(院外研修)

研修名		日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	主催
5センター看護師研修	5センタートビックス研修	6/3	全看護職員	14名	看護実践現場に必要なタイムリーな情報を習得する 「認知症患者のケア」	講義	大阪府立病院機構 府立5センター
	看護師マネジメントスキルアップ研修	9/29.9/30 10/6.10/7 2/17	看護師としての 実務経験9年以上の者	4名	看護管理に必要な管理の知識・技術・態度を習得し、 看護管理者として組織の創造と変革に挑戦し、発展できる管理能力を育成する	講義 グループワーク 演習・発表	大阪府立病院機構
	5センター看護管理者研修	11/2	看護師長	4名	・看護管理者として人材育成に必要な知識・技術を習得する ・中堅看護師が目的をもってイギイギ働くために ～管理者としてできること～	講義 グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター看護研究発表	12/2	全看護職員	現地8名 Web 5名	各センターの看護の実際を知るとともに看護研究に関する知識を養う	講義 発表	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター中堅看護職員研修	12/14	中堅看護職員 ラダーレベルIV相当	3名	部署のにおける役割を認識し、 自分らしいリーダーシップによって部署の目標達成に貢献できる 中堅看護師に求められる組織を変えるリーダーシップ～あなたらしいリーダーになろう～	講義 グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター新人看護職員 実地指導者研修	2/3	2022年度実地指導者の 任を担う者	13名	新人看護職員を育成するために必要な知識・技術を習得し、 実地指導者としての能力を身につける	On line講義 ペアワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
機構研修	新採用職員研修	4/1,4	新採用職員	32名	大阪府立病院機構の理解を深め、組織の一員としての役割を認識する ・職員管理・人事評価制度・個人情報保護・服務規程・接遇	On line講義	大阪府立病院機構
	3年目研修① (メンター)	5/24.25	入職3年の職員	19名	・OJTとコーチングの違いを踏まえ、メンターの役割との構えを学ぶ ・メンターとの信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルを学び強化する ・上記を学んだ上で、ケーススタディを行い、実践的な場面に適した対応を身につける	講義 演習	大阪府立病院機構
	1年目研修① (メンタルウォームアップ コミュニケーション)	6/17.23	新規採用職員	32名	・職業特性上かかるやすい、ストレッサーとストレス反応を知る ・病院スタッフとして期待されるコミュニケーションスキルを取得し、多職種との信頼関係や チームワーク向上に貢献できる人材育成はかかる	講義 演習	大阪府立病院機構
	初級＆中級管理者研修	7/8	主査級 課長補佐級程度	5名	・初級管理者として必要なマネジメントの基礎とリーダーシップ、OJTについて学ぶ ・今後のキャリアに求められる管理者としてのスキルやマインドを身に着ける	講義 演習	大阪府立病院機構
	管理者直前研修	8/23	主査を目指す職員	1名	・労務管理について社会的必要を講じ、具体的な法律を事例に沿って学ぶ ・管理者となった際重要なとなる、ハラスマント対策・人材育成・マネジメントなどの ポイントについて学ぶ	講義	大阪府立病院機構
	2年目研修①	11/15.22	入職2年の職員	21名	入職期間の若い職員がかかえやすいストレスやその対処法を学び、理解する	講義	大阪府立病院機構
その他外部研修	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	5/31-8/10 11/29-2/8	認定看護管理教育 課程フルスケール を終じたもの	2名	看護管理者として基本的な責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する	講義 実習・演習	公益社団法人 大阪府看護協会
	重症度、医療・看護必要度 評価者院内指導者研修	7/1-9/30	重症度、医療、看護必要度 の評価者および院内指導 を行う者	5名	看護必要度評価者・院内指導者としての能力を高める	On lineセミナー e-ラーニング	日本臨床看護マネジメント学会 ヴィクソニアナショナル株式会社 共催
	2022年度 医療対話推進者養成セミナー	10/11-12/18	入院時重症患者及びその 家族の意思決定支援を行 うもの	1名	・医療対話推進やコンフリクト・マネジメントなどの基礎となる概念や知識、理論や技法 を学び、それらを実際の医療現場で活用する。	Webセミナー	公益社団法人 日本医療機能評価機構
	大阪府看護協会短期研修	5/20-3/13	全看護職員	延べ27名	保健医療福祉の分野で重要な役割を担うすべての看護職者の生涯学習を支援し、 幅広い看護サービスの維持・向上に貢献する質の高い看護人材を育成する	講義・On line講義 演習 グループワーク	大阪府看護協会

4) 臨床実習受け入れ状況

(看護基礎教育)

施設名	実習名	学年	期間	延べ人数	実習場所
大阪府立大学	家族支援看護学実習：母性	4年生	5/11-5/21	28	1A
	総合実習：在宅	4年生	7/9-7/13	24	地域
	総合実習：母性	4年生	7/12-7/16	16	1A
	総合実習：基礎	4年生	7/12-7/15,7/27,28	84	2A,4A,5A,10A
	助産学実習	4年生	9/26-10/21	29	1A
	家族支援看護学実習：母性	3年生	10/25-1/13	148	1A
	療養支援看護学：慢性	3年生	11/30-12/13,1/11-1/24	332	4A,5A,10A
大阪公立大学	基礎看護学実習 II	2年生	2/10-3/1	60	4A,5A,5B,10A
	早期体験実習	1年生	9/13-9/14	33	2A,4A(B側),5B,7A,10A
太成学院大学	総合看護学実習	4年生	7/8-7/16	30	7A,5B
	成人看護学実習 II : 慢性期	3年生	9/12-10/21	174	5A,10A
	小児看護学実習	3年生	10/27-11/2,2/2-2/9	37	7A
	母性看護学実習	3年生	1/31-3/9	115	
	基礎看護学 I	1年生	1/17-1/19	24	2A,5B
	基礎看護学 II	2年生	2/7-3/2	63	2A
	インターンシップ実習	4年生	6/15-6/23	56	2A,4A(B側),5B,10A
畿央大学	チーム医療ふれあい実習	1年生	8/23-8/25	60	5B,7A,10A
関西医療大学	小児看護学実習	3年生	9/20-10/6,12/5-12/8	52	7A
大和大学	基礎看護学 II	2年生	8/23-9/1	48	2A,4A(B側)

第3 各部局の活動状況 3. 看護部

藍野短期大学部	母性看護学実習	3年生	7/19-7/22	6	1A
	成人看護学実習	3年生	10/11-10/28	60	2A
森ノ宮医療大学	助産学専攻科実習	1年生	7/25-8/26	40	1A
	成人慢性期実習	3年生	10/24-11/4	52	4A(B側)
四天王寺大学	療養生活支援実習Ⅱ：慢性期	3年生	10/25-11/2	28	5A
	療養生活支援実習Ⅰ：急性・回復	3年生	11/8-11/17,11/29-12/8	72	2A
	統合実習	4年生	5/30-6/8	32	5B,7A
関西看護専門学校	母性看護学実習	3年生	6/13-7/8	94	1A
	小児看護学実習	3年生	6/20-7/1	35	7A
合計延べ人数					1832

5) 専門看護師・認定看護師の活動

今年度はがん放射線療法認定看護師休職中で、専門看護師3名、認定看護師8名で活動を行った。

新型コロナ感染症の感染拡大により中止していた近隣医療機関に向けた専門看護コースの受け入れを再開し、ハイブリット形式で研修運営を行った。「はびきの CNS・CN 看護セミナー」をオンラインで行った。新型コロナ感染症の感染管理やACPの推進を地域に発信した。

活動内容	慢性疾患看護 専門看護師	慢性呼吸器 疾患看護 認定看護師	緩和ケア 認定看護師	がん化学療法 認定看護師	がん 放射線療法 認定看護師	認知症看護 認定看護師	感染管理 認定看護師	小児看護 専門看護師	クリティカル ケア 認定看護師
	2名	2名	2名	1名	休職中	1名	1名	1名	1名
コンサルテーション件数（院内）	146	50	72	55		76	1200	5	13
コンサルテーション件数（院外）							60		
院内講義依頼件数	5	1	2	2		1	8		3
院外講義依頼件数	26	3	17	4		1	6	9	
	呼吸器			がん					
看護専門外来延べ件数	1092			949					
在宅療養指導料算定件数	739								
がん患者指導管理料イ算定件数				324					
がん患者指導管理料ロ算定件数				1147					

6) 表彰等

氏名	表彰
虫明佐百里	瑞宝単光章
岡田知子	大阪府看護事業功労賞

7) 看護単位の活動報告

1A（産婦人科・NICU）病棟

1年を通してほぼ満床状況であった、入院患者は産科入院が大半であったが空床がある時期は婦人科の手術を受け次年度の病棟編成に備えた。

今年度の分娩件数は、955件で昨年より0.7%増加し内訳をみると帝王切開が173件、経産婦が782件、経産婦のうち239件が無痛分娩で全体の30.5%と増加傾向にある（無痛分娩は昨年度より75件増）。昨年度に引き続きコロナ妊娠の受け入れを行い、院外5名、かかりつけ30名 計35名の入院対応を行った。そのうち28名が分娩に至った。9名は帝王切開、経産婦19名は分娩室を陰圧対応とし経産婦を行った。コロナ妊娠入院中は、産科スタッフがコロナ病棟に応援にあがりコロナ病棟スタッフが対応に不安を抱かないように配慮した。

外来においてもコロナ陽性となった妊婦には自宅待機期間に毎日電話での状態観察を行い不安の軽減と異常の早期発見に努めた。

当センターは1000件近い分娩件数があり NICU を併設していることから定期的な新生児蘇生法講習会の受講でのスキルUPが必須であり、今年度も新生児蘇生法講習会の院内開催を行った。今年度は4回/年を予定し院内で新生児蘇生法のブラッシュアップ、インストラクター育成を目指した。Aコース2回、Sコース1回は実施できたが2月はコロナのため開催を中止した。しかし4回/年開催のスケジュールや開催方法は定着できた。今後は新病院での病棟編成を視野に入れたスタッフ育成を小児科病棟と連携し行っていく。長期目標として地域貢献としてNCPR講習会の外部受講の受け入れを目指す。

2A（呼吸器外科・消化器外科・産婦人科）病棟

病棟実績：延べ入院患者数 1016名 (+107名) 病床利用率 74.5% (+7.9%)

平均在院日数 9.5日(+1.2日)であった。

整形外科の開設に伴うクリニカルパス17件作成、腹部救急患者の受け入れなど合計6診療科の手術対象患者を受け入れる外科病棟としての役割を發揮した。新病院での外科病棟造設を見据え、病棟スタッフ一丸となり院内留学と称して他病棟看護師が外科看護を学ぶ機会を作り取り組んだことは今年の特筆である。

人工肛門人工膀胱造設術前処置加算、リンパ浮腫指導管理加算、在宅療養指導加算などに着目し、計画的に介入し、患者・家族の満足度を高めると同時に経営にも貢献することができた。

2B（ICU）病棟

病棟実績：平均入院患者数 2.8人 病床利用率 35.1% 平均在院日数 20日

令和4年度もCOVID-19重症患者の病室確保の為一般病床7床で運用している。5名の重症コロナ患者を受け入れた。

診療報酬改定に伴い他部門とも連携を取りながら加算の取得に向け取り組んできた。その結果、重症患者初期支援充実加算、早期リハビリテーション加算、早期栄養介入加算が取得でき収益のアップにもつながっている。病床利用率が低く患者確保が難しい状況が続き、クリティカルケアを実践する機会は少なかったが、計画的な年間教育・勉強会やシミュレーションのバリエーションを増やしながら、クリティカルケアのスキルアップにも取り組んできた。また、CPRコール時などに発生部署に行き、看護師のリーダーとしての役割も發揮し、他病棟スタッフへのOJTの一端を担った。新病院に向け、早期からICU部門システムの準備も進めている。

危機的状況にある患者・家族へのACP介入など身体面だけではなく、心のケアも大事にしながら関わる姿勢をもち、信頼される質の高い看護を提供してきた。

4A（有料個室）病棟（A側24床、B側20床）

病棟実績：延べ入院患者 834人 (+15名) 平均在院日数 12.3日 (+0.4日)

患者単価 61,207円(-3,639円)

前年度、4A病棟4B病棟の2病棟が4A病棟として一単位となった。コロナ患者増加時は、4A8側病床がコロナ病棟として運用され、今年度も第7波により7/20～9/15コロナ病床となる。

4 AB スタッフがワンチームとして協力体制を強化させ、コロナ患者や有料個室希望者は断らず入院を受け入れた。新たにできた整形外科や、消化器、婦人科など手術が必要な患者も積極的に受け入れ、外科看護の実践力向上にも努めた。

5A (呼吸器内科・循環器内科・感染症内科) 病棟

今年度は、DPC II 期間を意識した退院調整を行い、患者さんが住み慣れた地域に安心して戻れるように、効率的な退院支援の更なる強化を行い、病院経営にも貢献できるよう努力した。退院調整をスムーズに進めるための固定チームナーシングも 3 年を経過し、退院前合同カンファレンスへのフォローエンジニアリングも充実し、チーム内での協力体制も構築できた結果、平均在院日数が 14.9 日(前年比-0.2)と短縮し、退院前カンファレンスも 45 件実施できた。呼吸器・循環器の看護実践能力を高め、専門性の高い看護実践においては、CNS の支援のもと ACP に関する事例検討会の実施、COVID-19 の感染状況をみながら退院後訪問を 5 件実施でき質の高い看護の提供ができた。

5B (HCU・呼吸器内科・循環器内科・感染症内科・耳鼻咽喉・頭頸部外科)

(HCU 8 床・一般 12 床)

今年度コロナの影響もあり HCU 算定は令和 3 年度に比べ減少した。

HCU 算定 : 5,023 点 × 1,765 件 × 10 円 = 88,655,950 円(令和 3 年度)

5,023 点 × 1,518 件 × 10 円 = 76,249,140 円(令和 4 年度)

令和 4 年度 5 月から算定開始となった、早期離床リハビリテーション加算は 500 点 × 937 件 × 10 円 = 4,685,000 円が + 収益となった。

救急(緊急入院～受け入れを積極的に行いお断り件数 0 件を維持、算定対象者を可能な限り受け入れ、算定に結びつけ収益減少を最小限に留めた。

7A (小児科、皮膚科、アレルギー・リウマチ内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科) 病棟・小児科外来

病棟実績：延べ入院患者数 771 名 (+ 6 名) 病床利用率 56.5% (+ 0.4%)

新入院患者数 247 名 (+ 75 名) 平均在院日数 3.2 日 (▲1.4 日)

患者単価 57215 円 (+ 8291 円)

令和 4 年 7 月より小児救急 ORION を隔日時間指定から 24 時間対応に変更し、緊急入院受け入れの拡大に努め病床利用率に貢献することができた。小児救急看護は OJT による人材育成に努め経験 3 年目までのスタッフ全員が担当できるようになった。

次年度病棟再編により NICU が小児病棟の単位となるため NCPR (A・S コース) 研修を受講し新生児蘇生法を学ぶことや、今年度 NICU が所属する産科病棟に院内留学計画レッスン 4 名が研修を行った。知識と技術を学ぶ教育計画を立案し次年度の準備に取り組めた。アレルギー疾患患者は成人患者受け入れを継続した。耳鼻科・泌尿器科 OP、PSG (睡眠ポリグラフ検査) のクリニカルパスを作成し、新規患者を取り込んだことで患者数増加につながった。

9A (地域包括ケア) 病棟

令和 4 年度は 7 月 1 日から 7 月 20 日のみ開棟し、他は新型コロナ病棟対応などで休床していた。開棟前に施設基準を外さないよう医事と勉強会を重ね準備をした。延べ患者数 170 人、1 日平均 8.75

人の入院患者数であった。開棟中は基準から外れることなく経過した。

休床時には他部署への応援やシステムや基準などの見直し整理を行った。

10A（肺腫瘍内科・婦人科・乳腺外科・消化器内科・消化器外科

・アレルギー・リウマチ内科・整形外科・泌尿器科）病棟

病棟実績：延べ入院患者数 1033 名 (+247 名)、平均在院日数 11.4 日 (+0.3 日)

充床率 72.4%(+17.3%) 患者単価 54545 円(+555 円) 抗がん剤治療件数 645 件

看護：昨年度より病棟抗がん剤治療の件数は減っているものの、肺がん患者だけでなく、泌尿器科や消化器外科の抗がん剤治療は増えつつある状況。多くのがん患者とその家族に ACP を行いながら、できるだけ患者の望む場所、望む最期が迎えられるようにサポートしてきた。

また、新たにできた整形外科の患者、消化器内科の検査、緊急入院を積極的に受け入れ、當時 8~10 の診療科に対応してきた。スタッフのスキルアップに取り組み多くの患者を受け入れる努力の成果は病棟実績に結果として現れた。

10B（新型コロナ感染症）病棟

令和 4 年度は、6 波の真っ只中から始まり、夏に 7 波、冬に 8 波を迎えることになった。幸い重症化する患者さんは少なくなったが、新型コロナ感染症入院患者さんは生後 2 週間程度の新生児から 103 歳の高齢者と幅広い年齢層の入院があった。新入院患者さんは 521 名、院内での陽性患者さんの転棟受け入れ 59 名であった。透析は 134 件、妊婦 32 名の入院中 25 名の出産があった。また、施設クラスターで高齢者の入院が多く、認知症患者さんもおられ、隔離入院で環境の変化や慣れない入院生活のため、せん妄や認知症状が悪化することがよくあるため、高齢者も安全に安心して入院生活が送れるように病棟全体で取り組みを行った。

今後、新病院への移転とコロナ感染症が、2 類から 5 類に変更になるため受け入れ状況に合わせて体制を整え対応していくようにした。

11A（感染症内科・多剤耐性結核・HIV）病棟

病棟実績：新入院患者数 179 名 (+12 名)、平均在院日数 69.2 日 (+4.2 日)

病床利用率 57.7% (+7.2%) ※()は令和 3 年度との比較

退院患者は 173 名で自宅 87 名、転院 43 名、施設等 23 名、死亡 20 名となっている。

入院患者のうち 70 歳以上は 73.2% で、そのうち 90 歳以上は 10.7% を占めており、我が国の結核罹患率が減少傾向にある中、高齢者の罹患率が高く、看護必要度 7 対 1 該当患者は 13.3% と介護度の高い状況となった。

外国渡航制限のあったコロナ禍で、今年度は外国国籍の入院患者 8 名あり、多剤耐性結核患者 3 名（外国籍は 1 名）、HIV 合併患者 1 名。外国渡航制限が解除された今後はいずれも増加が予想されるため、日本人のみならず多種多様な疾患看護ができるよう病棟全体で取り組み継続している。

また、今年度は新病院 45 床へ向けて、深夜 3 人体制の導入と定着をはかり、準夜の 3 人体制に併せて遅出業務を導入し業務見直しを行った。転棟による骨折や CD 感染のアウトブレイクなど課題もある中、安全で安楽な療養環境を整え、大阪府下でも高水準の結核看護を提供できる病棟を目指していく。

手術室・サプライ

令和4年は新たな診療科として整形外科手術が増えた。手術件数は全体で1717件。（前年度より+63件）眼科・皮膚科中心に使用していた第5手術室を、帝王切開や前立腺生検、胸腔ドレナージなどの自科麻酔手術が実施できるように整備した。その結果、全ての手術室を有効に使用することができた。前年度から緊急カテーテルのOn callにも対応している。今年度の緊急呼び出し件数は2件であった。

新病院では心臓カテーテル室が手術室内に設置される。そのため心臓カテーテル検査や治療に対応できるスタッフの育成は継続して行った。新病院移転後、産婦人科病棟の分娩室において緊急帝王切開術が実施できることを目指しWGを立ち上げ、新病院での運用について検討を始めた。また新病院移転後よりロボット支援手術が開始となるため、ロボット支援手術に対応できるスタッフ養成のため、急性期医療センターへ2名の研修参加をおこなった。

サプライでのリコールはなかった。

外来

今年度は、新しく整形外科・腎臓内科が新設された。さらに10月からは、消化器内科医と循環器内科医が着任した。診療の拡張に伴い、医師・ドクターズクラーク・医事グループと調整を重ね、学習会を行い、診察介助に必要な知識・技術習得など対応を行った。また、救急医も着任し、救急初療室の診療器材の整備・運用などにも対応した。11月から救急初療室に看護師が配置され、二次救急による新規患者の受け入れと、かかりつけ患者を、並列で安全に対応出来るよう取り組んだ。今年度の救急搬送件数は2016件（コロナ搬送含む）と、昨年度1458件に比べ大幅に増加した。救急受け入れにおいては、小児対応の要請が増えており、今後の優先的取り組み課題となっている。

昨年度に引き続き新型コロナへの対応が続き、発熱を認める新規患者とかかりつけ患者の対応を発熱外来で行い、対応件数は3204件であった。

4. 施設認定

看護基礎教育実習施設
慢性看護専門看護師教育課程実習施設
がん看護専門看護師教育課程実習施設
小児看護専門看護師教育課程実習施設
感染看護専門看護師教育課程実習施設
慢性呼吸器疾患看護認定看護師教育課程実習施設
看護師特定行為協力施設
PAE（小児アレルギーエデュケーター）教育研修施設

5. 業績

【著作・著書】

竹川幸恵.コラム ACP の取り組み NiCE エンドオブライフケア（谷本真理子 増島麻里子）株式会社 南江堂, 東京, pp.-, 2022.12.

竹川幸恵.特集 人生100年時代の看護師の養成 ——慢性疾患、ヘルスケア、生き方を見すえる「終末期、緩和医療の目と心」 看護教育 64: -, 2023.1.

竹川幸恵.特集 実践に活かすアドバンス・ケア・プランニング ACP を実践する「価値観コミュニケーション～患者・家族の価値観を明確にする対話～」 がん看護 28: 119-122, 2023.2.

良田紀子.2章 がん治療期の看護 3. がん薬物療法看護⑩ 副作用マネジメント「食欲不振・味覚障害」がん看護ナースポケットブック（荒尾晴恵菅野かおり）株式会社 学研メディカル秀潤社, 東京, pp.-, 2022.4.

川上明子.特集 現場の「知りたい！」に答えます 気管切開患者の呼吸管理とケア「カニューレの安全な固定・交換と気管吸引のポイント」 みんなの呼吸器 Respica（レスピカ） 2022年6号 : -, 2022.11.

吉田 順.特集 現場の「知りたい！」に答えます 気管切開患者の呼吸管理とケア「患者移動時・体位交換における管理の注意点」 みんなの呼吸器 Respica（レスピカ） 2022年6号 : -, 2022.11.

【学会発表】

前田浩行,村上由美子,福村 恵.「自己意思決定が出来ない結核患者へのACP介入」第97回日本結核 非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会 令和4年7月1日-7月2日,旭川.

関田 恵「学校での食物アレルギー研修会でPAEに求められていること－学校の感想文より検討－」第38回日本小児臨床アレルギー学会 令和4年7月2日-7月3日,東京.

木ノ本加奈,亀田祥子,福村 恵.「患者本人と家族間での方針について相違がある場合の意思決定支援について事例の振り返り」第10回 大阪府看護学会 令和4年11月26日,大阪.

渡部妙子,平田聰子,鬼塚真紀子,吉井裕紀子,山下陽子,桑原田真弓,竹川幸恵.「アドバンスケアプランニングにおける院内システムの構築」第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 令和4年11月11日-11月12日,千葉.

臼杵美穂,平田聰子,竹川幸恵.「CPFE終末期患者へのACP支援での看護師の思考と行動」第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 令和4年11月11日-12日,千葉.

【啓発・研修活動】

岡田知子.府南支部理事大阪府看護協会 府南支部理事令和4年7月1日-令和5年6月30日.

羽澤三恵子.府南支部・看護師職能委員I 大阪府看護協会 府南支部・看護師職能委員I 令和4年7月1日-令和4年6月30日.

関田 恵.「食物アレルギーへの対応」 一とりわけエピペンを所持する児童への対応についてー羽曳野市立高鷲南小学校校内研修 令和4年4月8日,羽曳野.

関田 恵.「食物アレルギー及びエピペンについて」 富田林市立藤陽中学校職員研修 令和4年4月18日,富田林.

関田 恵.「エピペン講習会」 柏原市立堅下南中学校職員研修 令和4年5月17日,柏原市.

関田 恵.「食物アレルギーと緊急対応」 泉佐野市立第三中学校校内研修 令和4年5月19日,泉佐野.

関田 恵.「エピペン講習会」 泉佐野市立第三小学校校内研修 令和4年6月17日,泉佐野.

関田 恵.「食物アレルギーについて、エピペンの使い方」 講習会 認定こども園 光源時幼稚園 職員研修 令和4年9月15日,大阪.

関田 恵.「食物アレルギー研修」 富田林市立葛城中学校職員研修 令和4年10月17日,富田林.

関田 恵 「新人看護職員研修制度の概要と実地指導者の役割と責任」 令和4年度5センター新人看護職員実地指導者研修 令和5年2月3日,大阪.

榎本かおり.ミニレクチャー「PPE の着脱体験、N95 マスクのフィットテスト」 公益社団法人大阪府看護協会「看護の日・看護週間」 令和4年5月14日,大阪市.

竹川幸恵.臨床教授 大阪府立大学大学院看護学研究科 臨床教授 令和4年4月1日-令和5年3月31日,大阪.

竹川幸恵.臨床疾病治療論大阪公立大学大学院看護学研究科 非常勤講師 令和4年4月1日-令和5年3月31日,大阪.

竹川幸恵.「人工呼吸管理」「NPPV の看護」 第19回呼吸ケアカンファレンス「人工呼吸管理コース」 令和4年4月23日,WEB.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす“アドバンスケアプランニング”」 メディカル情報サービスナースのためのセミナー 令和4年5月29日,WEB.

竹川幸恵.セルフケア支援論同志社女子大学看護学部 ゲストスピーカー 令和4年6月2日,京田辺.

竹川幸恵.「努力呼吸！その時呼吸器筋はどう動くのか・観察とケアのポイント」 第18回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 令和4年6月18日,神奈川.

竹川幸恵.「NPPV ケア」東北呼吸ケア講演会 令和 4 年 6 月 20 日,WEB.

竹川幸恵.「みんなどうしてる？ACP の気になるあれこれ、ゆるっと気軽に聞いてみよう」株式会社 メディカ出版「みんなの呼吸器 Respica (レスピカ)」創刊 20 周年記念セミナー 令和 4 年 6 月 24 日,WEB.

竹川幸恵.増悪寛解過程における切れ目のない看護を目指した連携の実際 慢性呼吸不全への対応、質疑・応答日本看護協会 神戸研修センター 慢性疾患患者の療養生活を支える看護の連携 令和 4 年 6 月 28 日,神戸.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす“アドバンスケアプランニング”」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 4 年 7 月 16 日,オンデマンド配信.

竹川幸恵.間質性肺炎患者さんへの看護のポイント！日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 「間質性肺疾患 看護ケア Web セミナー～第 1 回基礎から学んで実践！～」令和 4 年 7 月 16 日,大阪.

竹川幸恵.「NPPV マスクフィッティング実習」第 61 回臨床呼吸器能講習会 令和 4 年 8 月 18 日,仙台.

竹川幸恵.「在宅人工呼吸と換気モードの設定実習」第 61 回臨床呼吸器能講習会 令和 4 年 8 月 22 日仙台.

竹川幸恵.「ILD 治療における専門看護師の役割」日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 令和 4 年 9 月 3 日,大阪

竹川幸恵.看護倫理四条畷学院大学 非常勤講師 令和 4 年 9 月 26 日-令和 5 年 3 月 31 日,大阪.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす！アドバンスケアプランニング」オンラインセミナーメディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 4 年 9 月 28 日,WEB.

竹川幸恵.「慢性呼吸器疾患のケア～在宅療養を継続していくために～」宮城看護協会 訪問看護研修 令和 4 年 9 月 11 日,仙台.

竹川幸恵.「看護師からみた間質性肺疾患ー看護師の関わり方・看護ケアについてー」日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社「間質性肺疾患 呼吸ケアセミナー」令和 4 年 10 月 12 日,大阪.

竹川幸恵.「在宅酸素、NPPV、HFNC」日本メディカルネクスト株式会社 第 2 回酸素療法ウェビナー 令和 4 年 10 月 15 日,WEB.

竹川幸恵.「効果的な NPPV 実践を目指した看護実践」第 19 回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 令和 4 年 10 月 22 日,神奈川.

竹川幸恵.「自己管理と心理的サポート」第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会シンポジウム「呼吸困難のトータルマネジメント」令和 4 年 11 月 11 日.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かすアドバンスケアプランニング」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 4 年 11 月 16 日,大阪.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かすアドバンスケアプランニング」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 4 年 11 月 17 日,オンデマンド配信.

竹川幸恵.「成人慢性期看護援助論 A」同志社女子大学看護学部 ゲストスピーカー 令和 4 年 11 月 17 日,京田辺.

竹川幸恵.パネルディスカッション座長第 21 回急性期 NPPV・呼吸ケア研究会 令和 4 年 12 月 7 日,東京.

竹川幸恵.「間質性肺疾患の最新の話題」日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社「間質性肺疾患看護ケア Web セミナー ~第 2 回基礎から学んで実践!~」令和 4 年 12 月 10 日,大阪.

竹川幸恵.~今、間質性肺疾患患者さんと向き合うために知るべきこと~日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社「間質性肺疾患多職種連携セミナー」司会 令和 4 年 12 月 12 日,大阪.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かすアドバンスケアプランニング」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 5 年 1 月 15 日,WEB.

竹川幸恵.「非がん性呼吸器疾患患者へのアドバンス・ケア・プランニング」新潟呼吸ケアフォーラム主催「第 31 回新潟呼吸ケアセミナー」令和 5 年 2 月 23 日,WEB.

竹川幸恵.パネルディスカッション座長第 30 回大阪呼吸ケア研究会 令和 5 年 3 月 24 日,大阪.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす“アドバンスケアプランニング”」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和 5 年 3 月 30 日,WEB.

平田聰子.抄録選考委員 2022・2023 年度 大阪府看護学会 令和 4 年 7 月 1 日-令和 6 年 3 月 31 日.
平田聰子.慢性看護学援助特論 2 大阪公立大学大学院看護学研究科 非常勤講師 令和 4 年 12 月 8 日,大阪.

第3 各部局の活動状況 3. 看護部

平田聰子.パネリスト「間質性肺疾患の最新の話題」日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社「間質性肺疾患 看護ケア Web セミナー～第2回基礎から学んで実践！～」令和4年12月10日,大阪.

盛光涼子.「エピペン講習会」藤井寺市藤井寺南小学校 職員研修 令和4年4月11日,藤井寺.

盛光涼子.「アレルギー疾患のある子どもと家族のケア」2022年度小児アレルギー疾患基礎講習会令和4年6月10日～オンデマンド配信.

盛光涼子.「学校での食物アレルギー研修会で PAE に求められていること-学校の感想文より検討-」第38回日本小児臨床アレルギー学会 令和4年7月2日,東京.

盛光涼子.「ダイバーシティ推進シンポジウム：多職種の相互理解と意識改革」シンポジスト第17回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和4年7月22日,富山.

盛光涼子.「いのちの大切さ。こころとからだの話。」清教学園中学校「みんなで話そう一看護の出前授業」令和4年8月9日,河内長野.

盛光涼子.小児看護学方法論I（治療と看護）学校法人阪和学園 錦秀会看護専門学校 非常勤講師 令和4年10月3日,18日,25日,河内長野.

盛光涼子.「重症食物アレルギーをもつ学童期以降の児の治療への関わりに関する調査」第59回日本小児アレルギー学会学術大会 令和4年11月13日,沖縄.

橋本美鈴.ミニレクチャー「PPE の着脱体験、N95 マスクのフィットテスト」公益社団法人大阪府看護協会「看護の日・看護週間」 令和4年5月14日,大阪市.

橋本美鈴.「高齢者施設での多剤耐性菌対策」第10回日本感染管理ネットワーク学会学術集会シンポジウム「これからの MDROs 対策～アフターコロナ時代」令和4年5月21日,奈良.

橋本美鈴.「新型コロナウィルス感染症(COVID-19)のクラスター発生を振り返って」第37回日本環境感染学会総会・学術集会「コロナ時代の感染制御を学ぶ」令和4年6月16日-18日,横浜.

橋本美鈴.「高齢者デイケア施設での感染対策について」レントレリハ施設内研修 令和4年7月25日,堺.

橋本美鈴.南河内感染対策 Net 令和4年度第1回感染対策向上加算1,2,3,施設合同カンファレンス 令和4年7月28日,藤井寺.

橋本美鈴.職業感染対策「結核の感染防止と対策」日本看護協会認定看護師教育課程 講義 令和4年9月12日,神戸.

橋本美鈴.アドバイザー令和4年度第1回藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議 令和4年9月20日,藤井寺.

橋本美鈴.南河内感染対策 Net 令和4年度第2回感染対策向上加算1,2,3,施設合同カンファレンス 令和10月8日,藤井寺.

橋本美鈴.アドバイザー令和4年度第1回藤井寺保健所管内施設内感染対策ネットワーク会議 令和4年10月11日,藤井寺.

橋本美鈴.「学童保育での感染対策」富田林市立学童保育 川西学童クラブ 施設内研修 令和4年10月14日,富田林.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」あんしんヘルプサービス「松原」施設内研修 令和4年11月7日,松原.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」グループホーム聖徳（障がい者福祉施設）施設内研修 2令和4年11月14日,河内長野.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」ホームズあまみ（障がい者福祉施設）施設内研修 令和4年11月22日,松原.

橋本美鈴.「PPE 着脱トレーニング」「外来施設での感染対策」こうもと内科・消化器内視鏡クリニック施設内研修 令和4年12月12日,松原.

橋本美鈴.「認知症高齢者施設内での感染対策」サポートハウス藤千代田 施設内研修 令和4年12月13日,河内長野.

橋本美鈴.「総合福祉施設内での感染対策」道明寺高殿苑 施設内研修 令和4年12月15日,藤井寺.

橋本美鈴南河内感染対策 Net 令和4年度第3回感染対策向上加算1,2,3,施設合同カンファレンス令和4年12月22日,藤井寺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」はっぴーらいふ堺 施設内研修 令和5年1月11日,堺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」サービス付き高齢者住居富士桜 施設内研修 令和5年1月26日,泉南.

橋本美鈴.「PPE 着脱トレーニング」「外来施設での感染対策」医療法人和成会 調子医院 令和5年2月24日,羽曳野.

橋本美鈴.アドバイザー令和4年度第2回藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議 令和5年2月28日,藤井寺.

橋本美鈴.アドバイザー令和4年度第2回藤井寺保健所管内施設内感染対策ネットワーク会議 令和5年3月14日,藤井寺.

橋本美鈴.南河内感染対策 Net 令和4年度第4回感染対策向上加算1,2,3,施設合同カンファレンス令和5年3月20日,藤井寺.

福地御富貴.「認知症患者のケア」大阪府立病院機構5センター看護師研修「トピックス研修」令和5年6月3日,大阪

岡田由佳里.成人看護学V(終末期看護) 関西看護専門学校看護師養成課程 令和4年4月26日-9月6日(8回),枚方.

岩田 香.成人看護学V(終末期看護) 関西看護専門学校看護師養成課程 令和4年5月26日-9月29日(7回),枚方.

良田紀子.「当院における irAE 対策の取り組み ~看護師にできること~」中外製薬株式会社 南大阪肺がん周術期チーム医療ワークショップフォローアップの会 令和5年3月4日,堺.

鬼塚真紀子.「看護の仕事、看護への道」「簡単な看護技術の体験」清教学園中学校「みんなで話そう一看護の出前授業」令和4年8月9日,河内長野.

鬼塚真紀子.「NPPV/HFNC 装着患者のケア」オンラインセミナーメディカル情報サービス 「看護師のためのスキルアップセミナー」令和4年6月24日-26日,WEB.

鬼塚真紀子.「在宅酸素、NPPV、HFNC」日本メディカルネクスト株式会社 第2回酸素療法ウェビナー 令和4年10月15日,WEB.

鬼塚真紀子.「呼吸療法 基礎のおさらい」和歌山県臨床工学技士会 第4回わかやま呼吸療法セミナー 令和5年2月25日,WEB.

鬼塚真紀子.「看護の仕事、看護への道」「簡単な看護技術の体験」富田林市立第二中学校「みんなで話そう一看護の出前授業」令和4年8月9日,河内長野.

渡部妙子.「アドバンスケアプランニングにおける院内システムの構築」第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 令和4年11月11日-12日,千葉.

渡部妙子.「人工呼吸管理コース」実習動画作成第20回呼吸ケアカンファレンス「人工呼吸管理コース」令和5年3月12日,神戸.

長谷川美紀.「エピペン講習会」大阪教育大学付属特別支援学校校内研修 令和4年4月4日,大阪.

関田 恵.「エピペン実技研修会」羽曳野市立丹比小学校校内研修 令和4年5月17日,羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーへの対応ーとりわけエピペンを所持する児童への対応ー」羽曳野市立高鷲小学校校内研修 令和4年4月22日,羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーへの対応ーとりわけエピペンを所持する児童への対応についてー」羽曳野市立古市小学校校内研修 令和4年5月24日,羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーについて、アナフィラキシーの症状とエピペンの使い方」羽曳野市立埴生学園校内研修 令和4年8月8日,羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーと緊急時対応」大阪府立聴覚支援学校校内研修 令和4年9月1日,堺.

中島 愛.「食物アレルギーについて」河南町立中学校 校内研修 令和4年5月11日,河南町.

中島 愛.「食物アレルギー研修」柏原市立国分中学校校内研修 令和4年4月4日,柏原.

萩野恵梨花.「食物アレルギーについて」河南町立近つ飛鳥小学校 校内研修 令和4年4月13日,河南町.

萩野恵梨花.「食物アレルギーと緊急の時対応」藤井寺市立藤井寺北小学校校内研修 令和4年4月14日,藤井寺.

萩野恵梨花.「食物アレルギーについて」河南町立さくら小学校 校内研修 令和4年4月13日,河南町.

萩野恵梨花.「エピペン実技研修会」羽曳野市立恵我之荘小学校校内研修 令和4年5月9日,羽曳野.

足立艶子.母子支援業務（面接、電話、訪問、健康相談等）藤井寺市子育て世代包括支援センターレ令和5年1月12日（～2回/月）.

北井稚菜.ミニレクチャー「PPE の着脱体験、N95 マスクのフィットテスト」公益社団法人大阪府看護協会「看護の日・看護週間」 令和 5 年 5 月 14 日,大阪市.

松岡亜優.ミニレクチャー「PPE の着脱体験、N95 マスクのフィットテスト」公益社団法人大阪府看護協会「看護の日・看護週間」 令和 4 年 5 月 14 日,大阪市.

臼杵美穂.「CPFE 終末期患者への ACP 支援での看護師の思考と行動」第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 令和 4 年 11 月 11 日-12 日,千葉.

川口翔子.「外来・病棟でのセルフマネジメント支援の実際 一抗線維化薬を中心に一」日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社「間質性肺疾患 看護ケア Web セミナー ~第 2 回基礎から学んで実践!~」 令和 4 年 12 月 10 日,大阪.

4 情報企画室

1. 概要

情報企画室では、当センターの病院情報システムの企画開発、運用管理を担当している。

当センターでは、昭和51年4月に医事・検査システムとしてコンピュータが導入され、昭和57年1月には、他病院に先駆けて発生源入力方式によるシステムを構築し、業務の効率化および患者サービスの向上に努めてきた。平成28年1月から第8期病院情報システムの運用が始まり、電子カルテシステムおよび電子クリニカルパスシステムの運用を開始し、後に眼科用電子カルテシステム(C-Note)が稼動することで全30のシステムが稼動している。

電子カルテでは無線LANに接続されたノートPCを使用することで、ベッドサイドでの点滴実施時に3点認証(患者、看護師、オーダ(医薬品)を、バーコードを使って確認)で実施入力を行い、また、測定した体温や血圧・脈拍等のバイタルサインは人手を介すことなくノートPCから直接測定値を入力でき、医療事故の防止および看護業務の省力化に貢献した。

併せてネットワークシステムも新たに構築し、10GBの伝送容量に対応した高速な光回線を敷設し、ネットワークスイッチ等の機器は障害からのダメージを防ぐために光回線と併せて全て冗長構成にするとともに、不正なネットワーク機器を排除するための認証規格を使用機器に導入するなど強固なセキュリティを実現している。

令和4年度は、令和5年5月の新病院への移転に併せたシステムリプレースのため、第9期病院情報システム更新のベンダー選定を実施し、電子カルテシステムは第8期に引き続きNEC製『MegaOak-HR』となった。このため、5月以降は各システム・機能毎にリプレースWGを立ち上げ、次期システムで導入するシステムの検討等を行った。また、10月31日に大阪急性期・総合医療センターで発生したセキュリティインシデントを受け、現行システムのセキュリティ状況の確認を行い、USBメモリの使用制限やリモートデスクトップのポート変更を実施した。今後も、社会の情勢に臨機応変に対応し、安全に安心して利用できるシステムの構築と運用を行っていきたい。

2. 活動実績

項目	主な内容	
システムプログラム開発・改修	1) 請求書出力変更対応 2) 腎臓内科新設対応 3) 令和4年度診療報酬改定対応	3件
新規端末設置	1) 外来診療端末(消化器内科、救急外来、呼吸器内科) 2) 病棟診療端末 3) その他(診療情報管理室、医事G、経営企画G) 4) インターネット端末	11台 0台 3台 68台
ヘルプデスク対応	1) システム操作のサポート(問い合わせ等) 2) 端末等のトラブル対応 3) 各種マスター登録	1,881件 200件 1,900件
ホームページ・インターネット	1) ホームページ登録・削除 2) ホームページ利用者数(インターネット端末) 3) ホームページ利用者数(モバイル端末) 4) イントラネット登録・削除	488件 301,521件 204,826件 137件

5 診療情報管理室

1. スタッフ

片岡 葉子 室長（副院長、皮膚科主任部長 兼務）

診療情報管理士：常勤2名、非常勤3名

非常勤事務補助(スキャンセンター)：8名

2. 診療概要

当センターは平成28年1月に電子カルテを導入し、同意書などの紙文書もガイドラインに則ってタイムスタンプ/電子署名を施してスキャンすることで全記録を電磁的に保存している。

正確な情報を伝達・共有することは、医療安全管理や医療の質向上、経営管理など病院運営において重要であり、当室では診療記録を適切に管理し、そこから得られる情報を収集・分析・提供することを目的に以下の業務を行っている。

- ① 診療情報管理：診療記録の点検、退院サマリ早期作成推進、電子カルテコンテンツ管理、
診療情報提供(カルテ開示)
- ② DPC：DPCコーディング支援、DPCデータ分析、DPC委員会運営
- ③ がん登録：院内がん登録/全国がん登録実務および届け出
- ④ データ利用：臨床評価指標の作成、患者情報の検索/提供・データの二次利用支援
- ⑤ スキャンセンター運営：文書スキャン(タイムスタンプ/電子署名の付与)、
紙媒体の診療録・フィルムの管理
- ⑥ その他：電子クリニカルパス管理と運用支援、医師事務作業補助者研修

令和4年度は、経営改善を目的としたDPC運営への介入と電子カルテシステムの更新に向けた院内調整への介入に取り組んだ。DPC業務ではDPCコーディング支援と併せて、DPC係数の向上のために現況データを定期的に配信し、院内職員への意識づけを図った。

電子カルテシステムの更新関連の業務では、記録関連の様々なワーキングに参加し、診療記録の適切な運用・管理とシステムの安定稼働に向けた支援を行った。

3. 活動実績

14日以内サマリ作成率	94.2%	文書スキャン件数	248,305 件
カルテ開示件数	33 件	院内がん登録件数	757 件
DPC 提案・変更件数	319 件		

6 栄養管理室

1. スタッフ

氏名	役職	専門資格等
亀田 誠	栄養管理室室長（兼）	（小児科主任部長）
中芝広輝	栄養管理室室長補佐（兼）	（事務局マネージャー）
中村祥子	総括主査（栄養士）	NST 専門療法士、小児アレルギーエデュケーター、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病療養指導士
西川知可子	主任	NST 専門療法士
富士尾祐子	栄養士	人間ドック健診情報管理指導士
非常勤栄養士 2名		

2. 概要

《栄養管理室業務内容》

○栄養指導業務・栄養管理業務（栄養指導実績参照）

入院患者は、栄養障害をきたした低栄養の方や食欲が低下している方も多いため、病院食は栄養管理の一環としての役割はもとより、療養生活の中にあっても楽しんでいただけるよう四季折々の行事食や羽曳野周辺で収穫されたイチジクやぶどう、野菜などの農産物を使用した特別メニューを取り入れるなど献立を工夫している。また、NST、褥瘡などのチーム医療活動を通じて、入院患者個々の栄養状態や食事摂取状況を評価し、きめ細やかな栄養管理を行っている。

当センターは、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院としての専門性を生かしアレルギー関連の集団栄養指導に力を入れている。成人向けには「アトピー・カレッジ」、乳幼児向けには「アトピー教室」を開催し、バランスのよい食事の重要性について指導している。個別栄養指導では「食物アレルギー栄養食事指導の手引き」（厚生労働省科学技術研究班）に則り、医師と連携しながら、患者一人ひとりのライフスタイルに合わせた指導を行っている。

○給食管理業務（年間食事提供数（患者給食）参照）

給食管理業務は、外部委託しており、アレルギー分野の専門病院として、離乳食から成人食まで幅広い食種で年間 20,075 食（全食事提供食数の 9.6%）のアレルギー食を提供している。

《対外活動》栄養士のための大規模アレルギー研究会事務局

《新たな取り組み》

- ・羽曳野市周辺で収穫されや農産物を使用した特別メニューの実施
- ・日本アトピー協会会報誌（あとぴいなう）へ食物アレルギー対応レシピ掲載（継続）
- （・コロナによる感染予防対策としてアレルギー料理教室、アトピー教室開催中止）

3. 施設認定

日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働認定施設

第3 各部局の活動状況 6. 栄養管理室

1. 栄養指導実績

	指導内容	実施数 (回)	のべ参加者数 (人)
集団指導	糖尿病教室	0	0
	食物アレルギー料理教室	0	0
	アトピー教室	0	0
	アトピーカレッジ	23	146
	アトピー・サマースクール	0	0
計		23	146
個別指導（入院・外来）	糖尿病		202
	糖尿病性腎症・腎症		15
	高血圧		178
	肝臓病		3
	胃潰瘍		5
	術後		29
	食物アレルギー		340
	肥満		35
	脂質異常症		25
	貧血		2
	嚥下困難		22
	大腸検査		386
	癌		240
	低栄養		65
	その他（算定あり）		54
	その他（算定なし）		80
計			1681

※一部の集団教室は Covid19 のため開催中止

5. 年間食事提供数（患者給食）

食種別	総合計	うちアレルギー対応数
常食	59,216	5,412
選択食（常食・小児）	4,845	4
小児食	5,109	2,325
幼児食	2,048	169
離乳食	220	32
ミルク食	7,718	
軟菜食	26,634	3,022
流動食	812	97
産婦食	11,925	1,583
出産祝膳	943	125
経腸栄養	5,962	
嚥下検査・ゼリー	596	8
ペースト食	5,899	161
つぶせる食	4,417	63
ソフト食	11,790	403
遅食（常食・流動）	24	
アレルギー食	3,725	3,725
その他	3,787	190
小計	155,670	17,319
エレキッコントロール食	19,989	850
エレキッコントロール食	9,095	193
塩分コントロール食	13,034	969
蛋白質コントロール食	4,909	411
脂質コントロール食	2,616	63
腸疾患食	351	27
胃食	3,242	243
遅食（治療食）	8	
小計	53,244	2,756
合計	208,914	20,075 (9.6%)
内特別加算食数	4,599 (28.6%)	

6. 業績

【啓発・研修活動】

中村祥子.「食育と食物アレルギーへの対応」.大阪府幼稚園教諭研修 令和4年5月12日, 大阪市.

7 患者総合支援センター

1. スタッフ

川島佳代子 患者総合支援センター長兼地域医療連携室
(医務局長兼耳鼻咽喉・頭頸部外科主任部長)
近藤勝美 患者総合支援センター副センター長(副看護部長)
中芝広輝 患者総合相談室長(総務・人事マネージャー)
患者相談室補佐: 看護師3名(非常勤看護師1名含む)、事務員2名(非常勤1名含む)
田中久美 地域医療連携室マネージャー(看護師長兼務)
地域医療連携室業務: 副看護師1名、看護師(非常勤)1名、
地域クラーク5名、(派遣1名を含む(8月より派遣による勤務がスタート))
入退院支援業務: 看護師長7名、社会福祉士3名(非常勤1名、育休中1名を含む)

2. 概要

1) 地域医療連携室

(1) 予約業務

紹介患者数は8,562件、そのうち病診予約患者数は5,135件。紹介患者数は前年度より60名減となったが、病診予約患者数は約650件増加し、予約比率は約60%となった。

羽曳野市乳がん・子宮がん検診の予約は、乳がん検診 1,468 件、子宮がん検診 1,385 件。WEB 予約システムの活用もさらに広がり、利用割合は乳がん検診 58.4%、子宮がん検診 62.2%と年々増加している。

令和3年2月より開始したオンライン予約システムは、45医療機関が利用登録され、85件予約利用された。

医師の診療体制により、肺腫瘍内科に続き呼吸器内科が12月より完全予約制を開始した。制約はあるものの、地域医療機関からの緊急依頼については、可能な限り受け入れできるよう、呼吸器内科や救急診療科医師と調整を図った。

(2) 地域医療機関との連携

登録医療機関数は263件となった。昨年度開設した登録医専用サイトでは、過去の研修会の動画を視聴できるようになり、今後も普及に努めたい。また地域連携情報システム「はびきのメディカルネット」では、29医療機関の利用登録で、約360名の患者登録となった。

地域医療機関への広報活動として、広報誌を一新し8月より『はびきのMedical Net』として4回発行した。また今年度より新たに開設した整形外科や腹部救急のPR、またさらなる連携を深め、顔の見える関係づくりを意識し、地域医療機関への訪問も行った。合計77件の訪問を行い、訪問医療機関からの紹介数増加にもつながった。

研修会および勉強会は「はびきのアカデミー」を2回（Web形式とハイブリッド形式、「SOCC」を2回（ハイブリッド）、「はびきのDチャンネル」を5回（Web形式）行った。

2) 入退院支援センター

(1) 入院時支援

予定入院患者への入院前支援面談数は1,988件、入院時支援加算件数は1,669件（加算1；1,424件 加算2；245件）で算定率83.9%であった。看護師の増員により、入院時支援加算の所定の項目をすべて評価できるようになり、入院時支援加算1の件数は大幅に増加し、経営への貢献にもつながった。

(2) 退院支援

退院患者 8,793 件のうち、入退院支援加算算定件数は 4,609 件で、算定率 52.4%（前年度と同率）だった。またコロナ禍以来、在宅医療機関との連携推進のため、リモートによる面談やカンファレンスにも積極的に取り組み、介護支援連携指導料は 171 件（昨年 150 件）、退院時共同指導料は 171 件（昨年 121 件）の実績をあげることができた。

(3) 医療・福祉相談

入院から退院まで社会福祉士が介入するケースは5,550件（昨年度5,115件）だった。高齢

第3 各部局の活動状況 7. 患者総合支援センター

者の独居や老々介護、経済的困窮、妊婦・小児の虐待などソーシャルハイリスク患者の入退院支援や医療・介護や行政との連携や調整等を担っている。

3) 患者相談室

患者総合相談室では、患者や家族が安心して治療を受けることができるよう、治療に関する様々な相談、がんに関する相談、医療費、介護保険、各種福祉サービスに関する相談などに応じるとともに、ご意見や要望を受け付けた。

令和4年度は、引き続き新型コロナウィルスの感染が拡大し、新型コロナウィルスの診療・検査やワクチン接種に関する相談が多く寄せられたことから、相談等の件数は前年度を上回り、5,000件を超えた。

2. 活動実績

【資料1】令和4年度 地域医療連携室における業務報告（件数）

2022年度 地域医療連携室における業務報告（件数）																		
2022年度	紹介 患者数	病診の 紹介患者数	受診報告書 送付件数	他院予約	セカンド オピニオン	子宮癌	乳癌	乳癌	肺癌	胃大腸癌	開放	P E T 予約	他院への 問い合わせ	他院からの 問い合わせ	分娩予約	カルナ (オンライン予約)		
	今年度	721	374	480	33	0	109	106	107	102	3	5	2	0	23	12	9	49
4月	今年度	721	374	480	33	0	109	106	107	102	3	5	2	0	23	12	9	49
	前年度	738	403	527	84	0	112	42	114	37	11	2	2	0	32	68	63	47
5月	今年度	725	371	486	39	1	116	79	130	80	8	0	0	0	16	21	15	67
	前年度	622	331	554	71	0	72	16	94	13	11	0	3	0	16	76	54	52
6月	今年度	786	467	553	41	0	120	59	150	70	6	7	2	0	25	27	13	40
	前年度	837	416	626	61	1	98	40	135	56	9	0	3	0	34	75	56	62
7月	今年度	755	447	538	58	0	102	45	111	44	11	9	5	0	22	36	19	51
	前年度	751	386	555	82	0	85	33	115	38	9	6	1	0	33	58	76	56
8月	今年度	741	441	529	30	0	85	49	89	49	11	8	1	0	33	28	17	53
	前年度	746	387	515	88	0	66	25	73	28	6	5	2	0	37	88	58	47
9月	今年度	652	376	479	53	0	74	42	95	50	5	2	3	0	20	39	30	43
	前年度	743	385	515	74	0	90	37	99	42	3	0	0	0	30	67	70	53
10月	今年度	730	436	474	38	0	106	62	141	77	4	2	2	0	20	41	28	49
	前年度	766	392	519	79	0	127	54	148	57	6	0	1	0	24	68	70	54
11月	今年度	704	442	476	54	0	122	65	141	70	10	3	3	0	24	38	26	56
	前年度	780	408	536	88	2	142	56	139	50	8	4	3	0	24	46	86	43
12月	今年度	666	443	458	57	0	102	67	114	67	7	0	4	0	19	53	26	69
	前年度	763	381	483	87	1	117	48	137	54	12	5	4	0	26	77	69	56
1月	今年度	593	397	407	48	0	101	65	100	60	8	0	2	0	21	47	44	55
	前年度	584	324	376	70	0	108	60	107	52	4	3	4	0	22	74	71	51
2月	今年度	692	440	449	51	1	130	84	127	78	4	0	4	0	24	34	22	60
	前年度	563	276	350	58	0	108	66	85	46	4	1	3	0	14	58	48	45
3月	今年度	797	501	588	73	0	218	138	163	110	11	0	5	0	25	41	20	66
	前年度	729	394	481	88	0	211	144	137	88	8	6	2	0	29	38	85	57
合計	今年度	8,562	5,135	5,917	575	2	1,385	861	1,468	857	88	36	33	0	272	417	269	658
	前年度	8,622	4,483	6,037	930	4	1,336	621	1,383	561	91	32	28	0	321	793	806	623

【資料2】退院支援に関する各データの推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
退院患者数	10,311	10,256	8,527	8,751	8,793
入退院支援加算件数	2,583	2,720	3,995	4,582	4,609
介護支援連携指導件数	614	472	153	150	171
退院共同指導件数	231	181	105	121	171
入院時支援加算件数			1,290	1,377	1,669

第3 各部局の活動状況 7. 患者総合支援センター

【資料3】令和4年度医療相談取扱件数

区分	延べ件数			実数		
	計	入院	外来	計	新規	継続
令和4年4月	337	348	29	197	131	66
5月	394	371	23	204	133	71
6月	522	484	38	241	171	70
7月	508	484	24	265	185	80
8月	584	566	18	291	207	84
9月	562	539	23	307	221	86
10月	433	416	17	186	121	65
11月	460	449	11	224	141	83
12月	434	407	27	208	128	80
令和5年1月	501	485	16	231	161	70
2月	376	345	31	185	120	65
3月	399	373	26	197	126	71
令和4年度合計	5,550	5,267	283	2,736	1,845	891
令和3年度合計	5,115	4,852	263	1,781	2,084	697

【資料4】令和4年度患者総合相談室 相談件数および相談内容

2022年度 相談件数及び相談内容														
1. 相談件数と相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	2022年度	327	254	239	853	1227	300	226	287	371	520	249	211	5064
	2021年度	365	374	247	196	255	245	185	172	131	1187	1133	446	4936
	2020年度	151	123	115	182	282	179	177	159	174	158	144	187	2030
相談方法	電話	317	238	221	847	1215	291	211	278	360	507	238	195	4918
	面談	10	16	18	6	12	9	15	9	11	13	11	16	146
相談件数のうち、職員からの相談	2022年度	6	6	10	2	9	6	10	12	10	2	6	8	87
	2021年度	11	4	6	7	8	9	6	5	4	10	9	7	86
相談件数のうち、コロナに関する相談	件数	199	124	99	755	1089	198	112	154	266	344	57	42	3439
	割合 (%)	60.9	48.8	41.4	88.5	88.8	66.0	49.6	53.7	71.7	66.2	22.9	19.9	67.9
相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談または問い合わせ		324	251	234	850	1220	294	217	280	370	514	247	202	5003
苦情		3	1	3	2	5	6	8	7	1	5	2	8	51
謝辞		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他		0	2	2	0	2	0	1	0	0	1	0	1	9
相談内容の詳細		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診に関して		278	208	185	809	1166	263	176	242	337	465	199	155	4483
医療・診療・看護に関して		14	6	5	10	14	11	4	6	13	21	20	12	136
入院に関して		2	3	4	3	5	1	3	2	0	4	1	6	34
社会資源に関して		0	2	1	1	3	2	0	0	0	2	1	3	15
がん相談		4	2	3	1	1	2	3	2	0	2	4	4	28
入院患者に関して		15	15	23	16	15	7	19	21	12	9	10	12	174
外来患者に関して		4	4	9	6	6	2	5	3	8	11	5	6	69
施設・設備に関して		2	0	2	0	2	4	4	2	0	0	1	4	21
接遇に関して		2	0	2	0	1	1	5	1	0	4	0	1	17
その他		6	14	5	7	14	7	7	8	1	2	8	8	87
※がん相談は、上記の他、がん看護専門外来等において実施しています。														
2. 意見箱回収件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
意見箱回収件数【枚】		3	4	3	4	6	5	3	5	3	5	4	3	48
内容【件】	施設・設備		2		1	1	1	1	3	1	3	3	2	17
	医療・診療	1		1	4				1	1			8	
	接遇	1	2	2(1)	2(2)	1(1)	4(2)	1(1)	1	1(1)	2(2)		1(1)	18(11)
	待ち時間					1		2(2)					3(2)	
	給食		1										1	
その他		1		1							1		3	
※()内の数値は謝辞の内訳です。一件が他の内容と重複する場合があるため、回収件数とは異なります。														
3. その他		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総合案内での診療科相談件数		153	141	165	138	128	133	136	136	93	92	109	131	1555
ベッドコントロール件数		118	117	134	135	147	124	134	129	128	119	136	139	1560
重症者初期支援充実加算件数		66	155	127	134	115	132	139	152	124	141	125	120	1530

8 医療安全管理室

1. スタッフ

氏名	役職
片岡葉子	室長 副院長（専任）
泉和江	室員 医療安全管理者（専従）
川島佳代子	室員 医務局長
倉田悦子	室員 看護師長
吉田めぐみ	室員 看護師長
木澤成美	室員 副薬局長
田中秀磨	室員 臨床検査技師長
井上達郎	室員 放射線科技師
石原麻美	室員 臨床工学技士
中芝広輝	室員 総務マネージャー

2. 委員会構成

医療安全管理委員会

院長、副院長、医務局長、（診療局長、）事務局長、呼吸器内科主任部長、呼吸器外科主任部長、放射線科主任部長、病理診断科部長、看護部長、薬局長、医療技術部長、総括マネージャー

医療安全推進委員会

医療安全管理者、副院長、麻酔科主任部長、乳腺外科主任部長、消化器外科副部長、循環器内科副部長、アレルギー・リウマチ内科診療主任、小児科医長、副薬局長、臨床検査技師長、診療放射線科総括主査、栄養管理主任、臨床工学技師、副看護部長、看護師長2名、副看護師長3名、主任看護師1名 総務1名

3. 概要

医療安全管理室は平成18年に配置された。専従の医療安全管理者と必要な各部門の職員を兼任で配置し医療安全推進活動を行っている。医療安全推進活動として、職場ラウンド・マニュアル改訂・情報発信・教育研修の企画運営・委員会開催などを行っており、医療安全管理委員会、医療安全推進委員会は院内の医療安全に関する組織横断的に問題解決に取り組んでいる。

また、医療安全対策地域連携加算を取得し、近隣病院と連携をとり、ラウンド実施や情報交換を行っている。

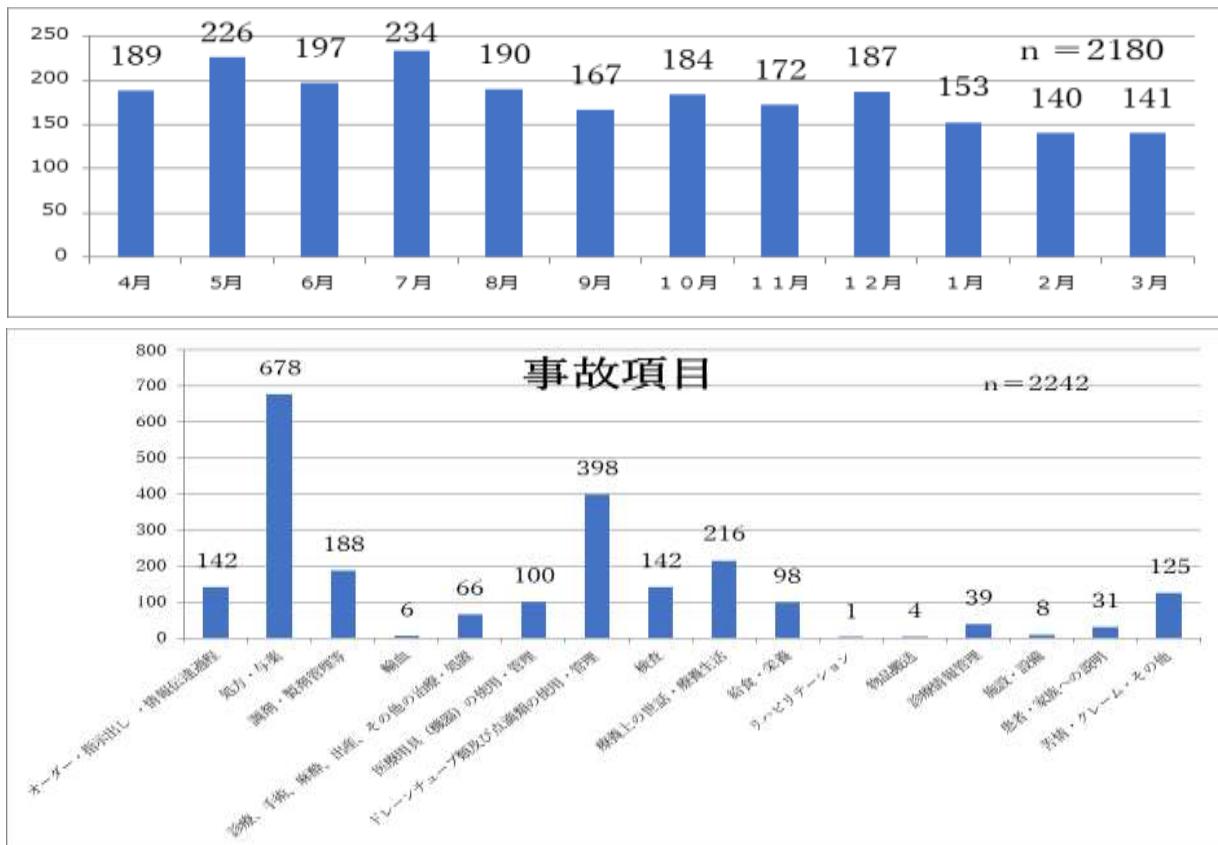
4. 活動実績

1) 各委員会活動

活動	開催回数
医療安全管理委員会	13回
医療安全推進委員会	13回
医療安全担当者会（看護部）	6回
医療安全管理室カンファレンス	60回

2) インシデント・アクシデントレポート報告

R4年度総計件 2180 件 (内アクシデント 22 件)



3) 改善事項

- ① 外部委託項目における基準値変更時の改善
- ② 救急外来初療室の検体搬送
- ③ 救急対応ベッドの呼称と患者情報の見える化
- ④ 報告書管理の評価に係るカンファレンス
- ⑤ 皮膚科手術コンテナのメスの変更
- ⑥ 持参薬 14 日分使用の説明文章を交付
- ⑦ 患者情報用紙の活用
- ⑧ 内視鏡検査での検体混入防止対策
- ⑨ 死亡事例報告書の改定
- ⑩ CPR コール・夜間 CPR コールの改善
- ⑪ 血糖・スライディングスケールの院内統一
- ⑫ 食事再開時のアレルギー食見落とし対応
- ⑬ リフト式体重計の準備方法
- ⑭ 肝炎ウィルス患者説明用紙の導入
- ⑮ RRTWG
- ⑯ 発熱外来受付方法の変更
- ⑰ 誤嚥を防ぐ食事形態
- ⑱ 周術期に休薬が必要な糖尿病薬について改定

- ⑯ 新型コロナ感染症の検査前スクリーニング対策
- ⑰ 消化器外科のドレンバックの統一
- ㉑ 小児 HFNC 患者の搬送方法の周知
- ㉒ 入院時新型コロナスクリーニング検査の対応
- ㉓ 6R を徹底
- ㉔ 内服隔日投与薬の手順
- ㉕ 麻薬確認方法の手順
- ㉖ 貴重品管理の手順
- ㉗ 硬膜外麻酔麻薬残液の返納方法
- ㉘ CPR 参集記録
- ㉙ 院内暴力対応マニュアルの改定
- ㉚ MRI 検査の説明用紙、チェックリストの改定
- ㉛ チエナムと生食 2 ポート装着時の対策

4) 医療安全研修開催回数と参加者数

	テーマ	講師名	対象者	回数	参加人数
1	学研 e ラーニング視聴 磨け、コミュ力！ 医療安全のためのコミュニケーション	小松原 明哲 先生	全職員	DVD 視聴	623
2	KYT 研修	医療安全管理 者 泉 和江 看護師長 吉田 めぐみ ファシリテーター5名	全職員	2	53
2	KYT 研修 (チームで防ぐインシデント)	医療安全管理 者 泉 和江 副看護師長 古口 貴美子	看護師	1	19
	KYT 研修 (学研 e ラーニング・ 動画で実践！みんなで取り組 KYT !)	黒川 美知代 先生	全職員	各部署 実践	455
3	BLS 研修	CPR 委員会	全職員	3	
	BLS 研修	CPR 委員会	全職員	各部署	352
	BLS 研修	CPR 委員会	新規採用看護師	1	34
4	画像診断報告書見落とし防止 に向けた研修	群馬大学 滝沢 牧子先生	医師他	3	67
	画像診断報告書見落とし防止にむけ た個人の取り組み・組織の取り組み	大阪大学大学院 医学系研究科医学情報学 武田 理宏先生	医師	DVD 学習	18
5	公開 ACLS 研修	集中治療科 柏 庸三 クリティカル認定看護師 川上 明子	医療従事者	1	30

第3 各部局の活動状況 8. 医療安全管理

6	放射線被ばく (MRI 検査の安全講習)	放射線科主任 西村健太郎 放射線科総括主査 井上 達郎	医療従事者	1	34
7	造影剤の使用に関する安全管理について～ヨード造影剤を中心～	放射線科部長 竹下 徹	医療従事者	1	42
8	新規採用医師研修	医療安全管理者 泉 和江	医師	1	17
	新規採用者研修	医療安全管理者 泉 和江	新規採用者	1	43
	中途採用者研修	医療安全管理者 泉 和江	看護師・ 看護補助者	14	19
9	はびきの ICLS コース	救急診療科主任部長 廣田 哲也 インスト 7名 タスク 3名	医療従事者	2	14
10	新生児蘇生法講習会	小児科部長 吉田 之範 1A 看護師 藤本 瞳	医療従事者	3	26
11	クイックトラック・ミニトラック	スマスマディカル 久保田 紋奈先生	医療従事者	2	27
12	アイジェル実技実習	日本メディカルネクスト 前川 悅二先生	医療従事者	5	17
13	人工呼吸器・除細動勉強会	臨床工学技士 石原 麻美	医師	2	27
14	学研 e ラーニング視聴 安全な医療ガスの取り扱いのために	小林 剛志 先生	医療従事者	DVD 視聴	189
15	学研 e ラーニング視聴 放射線従事者等に対する診療用放射線における安全管理 ～患者に納得いただくための説明と同意の必要性～	關 良充 先生	医療従事者	DVD 視聴	141
16	学研 e ラーニング視聴 安全で効果的な薬物療法のために 看護師が身につけたいこと	箱田 美知恵 先生	医療従事者	DVD 視聴	117
17	学研 e ラーニング視聴 輸血の基礎知識と安全のための コミュニケーション	牧野 茂義 先生	医療従事者	DVD 視聴	142
18	学研 e ラーニング視聴 <事故防止編> 認知症のケアにおける医療安全	茅野 理香 先生	医療従事者	DVD 視聴	123
19	インシデント分析と対策の検討	医療安全推進委員会（看護部）	看護師	1	14
20	救急看護コース（4回コース）	クリティカル認定看護師 川上 明子	看護師		83

第3 各部局の活動状況 8. 医療安全管理

21	フィジカルアセスメント (2回コース)	クリティカル認定看護師 川上 明子	看護師		28
----	---------------------	----------------------	-----	--	----

5) 医療安全管理室からの情報発信

医療安全からのお知らせ	20回発行
-------------	-------

6) 医療安全ラウンド 7回実施

7) 医療安全対策地域連携加算

- ① I—I連携 城山病院→はびきの 令和4年12月9日実施
はびきの→城山病院 令和5年1月6日実施
② I—II連携 はびきの→しまだ病院 令和4年7月29日実施

9 感染対策室

1. スタッフ

氏名	職種	専門資格等
橋本章司	医師	日本感染症学会推薦 I C D
橋本美鈴	看護師	感染管理認定看護師
岩田浩幸	薬剤師	AST 専任
上田理絵	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 日本結核・非結核性抗酸菌学会 結核・抗酸菌症認定エキスパート
澤井祐樹	薬剤師	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
山口侑子	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
和田宜久	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
網代直子	臨床検査技師	日本臨床微生物学会認定臨床微生物検査技師 感染症制御認定臨床微生物検査技師
勝田寛基	臨床検査技師	2級臨床微生物検査技師

2. 活動概要

I C T

院内に入りする全ての人を対象に、感染症の発生状況を把握し、「院内感染予防活動」と「アウトブレイク等発生時の感染対策」の実働部隊となる。職員に対しては、職業感染（針刺し、結核、COVID-19、インフルエンザ等）対策と発生時の対応を行う。

また、南河内地域全体の感染対策のレベルアップの為、多施設と連携をとり情報の共有及び指導を行う。さらに南河内以外の地域に対しても、感染対策の指導、助言、相談を行う。

A S T (Antimicrobial Stewardship Team : 抗菌薬適正使用支援チーム)

AMR 対策として、抗菌薬の使用を適切に管理・支援をするための実働部隊。

広域抗菌薬（VCM、MEPM、TAZ/PIPC、CFPM）使用患者、血培陽性患者、MRSAなどの耐性菌検出患者などのモニタリングを行う。

週に2回のカンファレンスで症例検討を行い、フィードバックを行う。

また、藤井寺保健所管内の医療施設全体での、特定菌種のアンチバイオグラムを作成するにあたり、対象医療施設の指導、相談、助言を行う。

3. 活動実績

(1) サーベイランスによる当センターの現状把握

①特定微生物の検出状況と薬剤耐性状況（全部署）

南河内感染対策ネットワーク 加算1施設間比較の実施

②CLABSI、CAUTI：全病棟

③手指衛生状況（量的・直接観察法）：全病棟、外来、OP室

④抗菌薬使用状況

昨年度と比較して、総 AUD1000 は増加していたが、特定抗菌薬の VCM の AUD は減少、MEPM の AUD は増加、TAZ/PIPC の AUD は横ばいであった。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
総 AUD ₁₀₀₀	211.35	205.65	231.04	268.07
VCM	1.65	2.56	4.36	1.78
MEPM	5.33	7.12	8.05	9.87
TAZ/PIPC	16.88	14.42	13.2	13.27

- ・特定抗菌薬（VCM,MEPM,TAZ/PIPC）初回チェックシート文書登録率
94%(全 571 件中 535 件登録)
- ・広域抗菌薬を 8 日以上使用した場合に提出する、継続使用報告書提出率
94%(全 71 件中 67 件)

(2) 教育

①年2回の必須研修

DVD 視聴も含め参加者：標準予防策：655 人・経路別対策：644 人

(3) 感染対策の実践

①環境ラウンド 75 件

②AST カンファレンス

年間のべ約 546 人、約 798 件（月平均約 46 名、約 67 件）

③新病院の感染対策の計画

(4) マニュアル改定

①院内感染防止マニュアル改定

（新型コロナウィルス感染症）

(5) コンサルテーション

①医師：1,200 件 他施設から約 360 件

②看護師：院内約 1,200 件以上、多施設から約 60 件以上

③薬剤師：年間約 230 件（月平均：約 19 件）

④臨床検査技師（細菌検査）：年間約 120 件（月平均：約 10 件）

(6) 地域連携活動

①地域連携活動相互ラウンド：4 回

②地域連携合同カンファレンス：4 回

③南河内感染対策ネットワーク全体会議：1 回

- ④南河内感染対策ネットワーク研修会：1回
- ⑤外来感染対策向上加算に係るカンファレンス：2回
- ⑥外来感染対策向上加算に係る、新興感染症に備えた実地トレーニング：3回
- ⑦感染対策向上加算に係る施設訪問：4回
- ⑧藤井寺保健所院内感染対ネットワーク会議及び研修会：2回
- ⑨藤井寺保健所施設内感染ネットワーク会議及び研修会：3回

4. 施設認定

第2種感染症指定医療機関

HIV/AIDS 診療拠点病院

感染対策向上加算Ⅰ